

# 街区の再生

2015.02.07

信州大学工学部建築学科

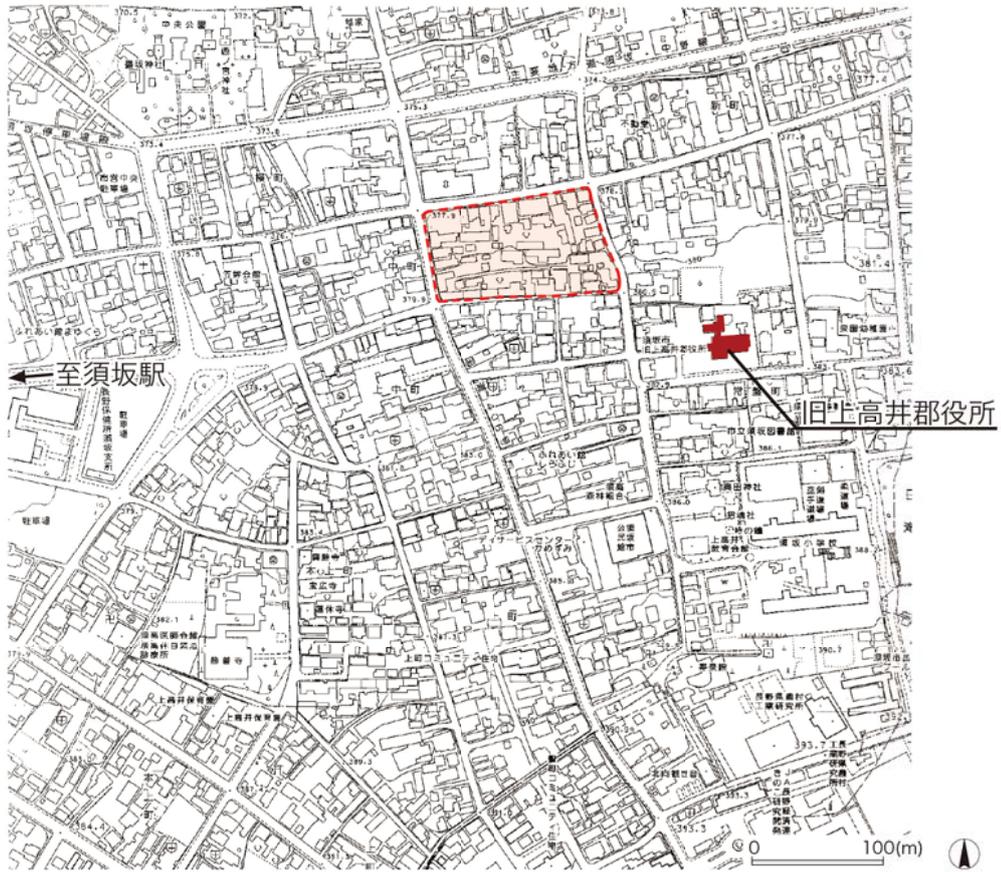
## ■課題内容

須坂市の歴史的市街区を対象として、都市組織の個別的再生を通じて、街区全体を段階的に再生する。

その全体プログラムを組みたてるとともに、個別的再生を個々に設計する。

## ■課題の範囲（別添図参照）

①対象街区+②対象街区の周りを通っている道+③その道に面する敷地



対象敷地

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区(東側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区 (北側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区 (西側)

街区再生 -新町地区再生計画-



対象街区(南側)

街区再生 -新町地区再生計画-

# 路地と憩いの場



信州大学建築学科三年 蒲谷 久美

## 須坂

須坂は明治から昭和初期にかけて製糸業で栄えていた。街を歩くと栄えていた当時の美しい蔵の街並みが残っている。しかし、製糸業の衰退とともににぎわいが失われていた。そこで今回、路地と憩いの場を複数設けることにより当時のにぎわいを取り戻す。

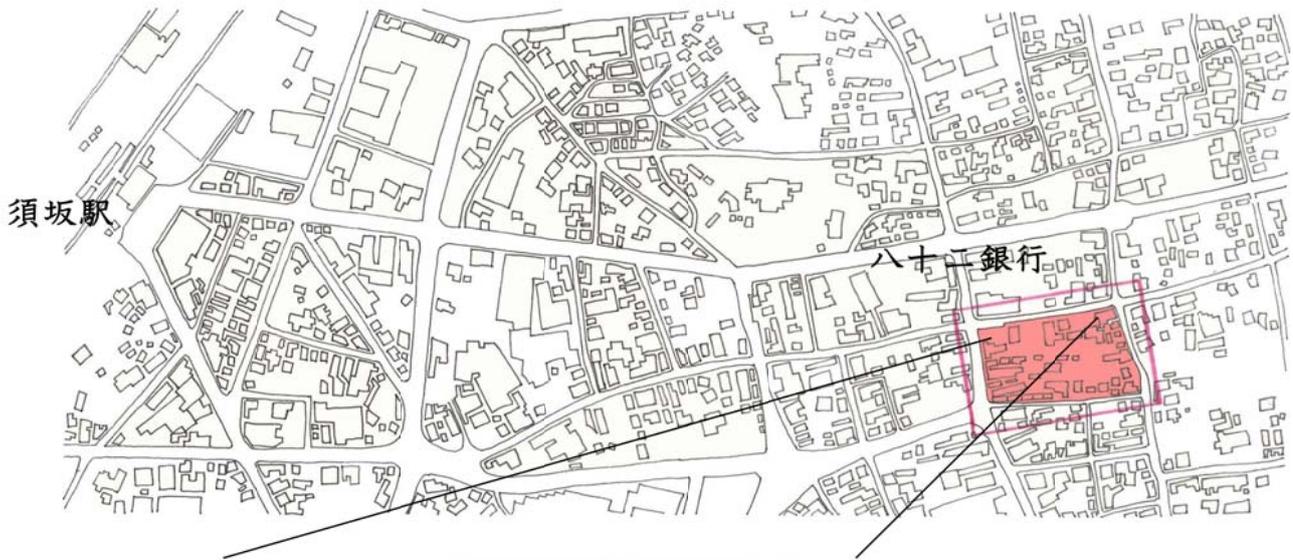


美しい蔵の街並み

街区内の建物



# 対象街区

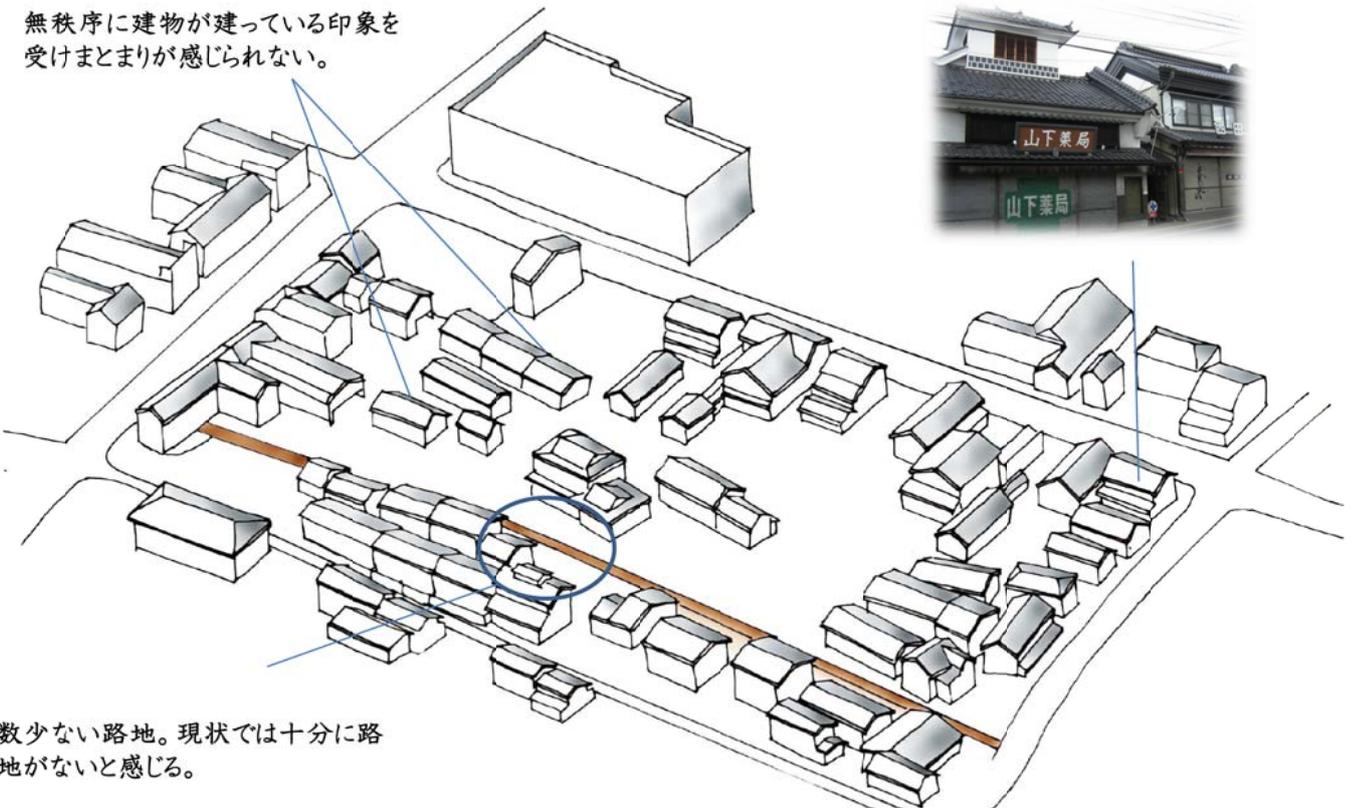


街区の向いには82銀行やコンビニなどの人が行き交うである建物がある。  
周辺には図書館、幼稚園、小学校、中学校、高校、病院、公民館がありこの敷地のにぎわいは重要なものとなる。

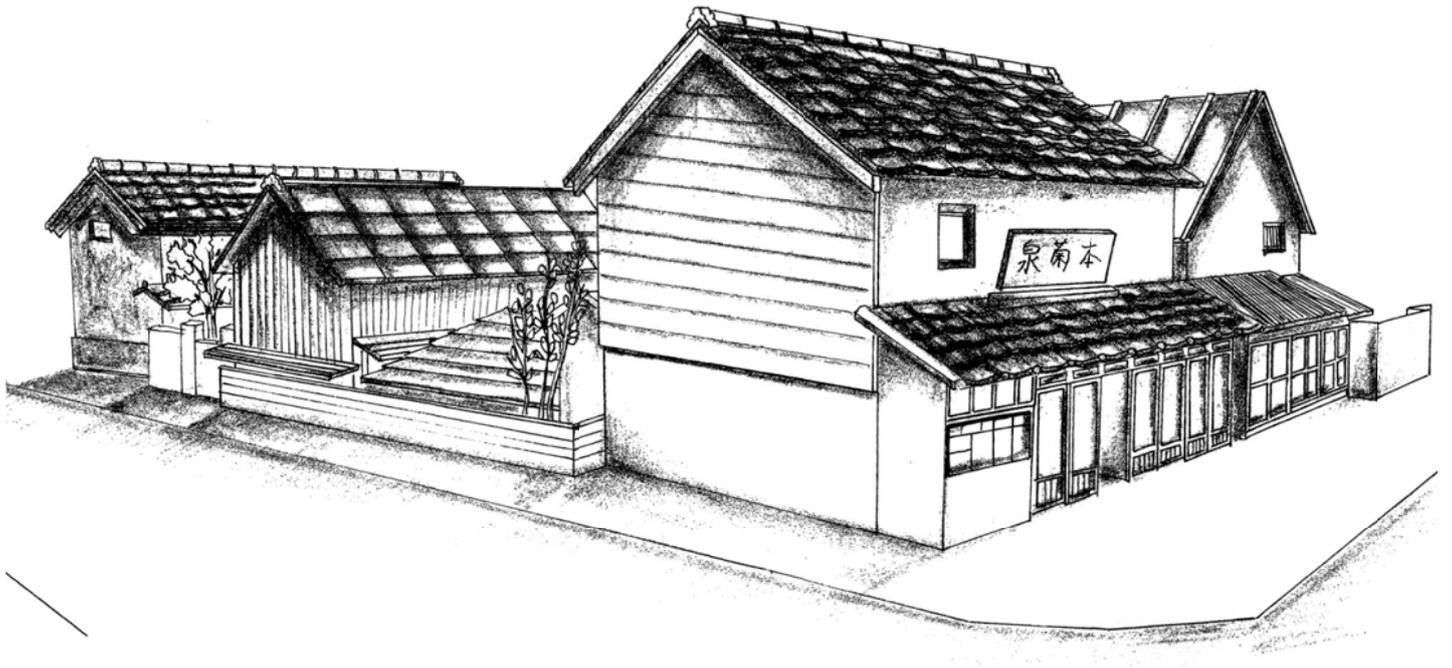
## 現状

現状の街区は無秩序に建物が散らばりまとまりがない。街区に入る道も十分でないため、閉鎖されている印象を受ける。

無秩序に建物が建っている印象を受けまとまりが感じられない。



数少ない路地。現状では十分に路地がないと感じる。



蔵の須坂らしい雰囲気がいっしょに残っている。

## Concept

路地

街区内へアクセスしやすくなることで多くの人を取り込む



憩いの場

疲れたらひと休みできる場を設けることで街区内へ人を取り込む

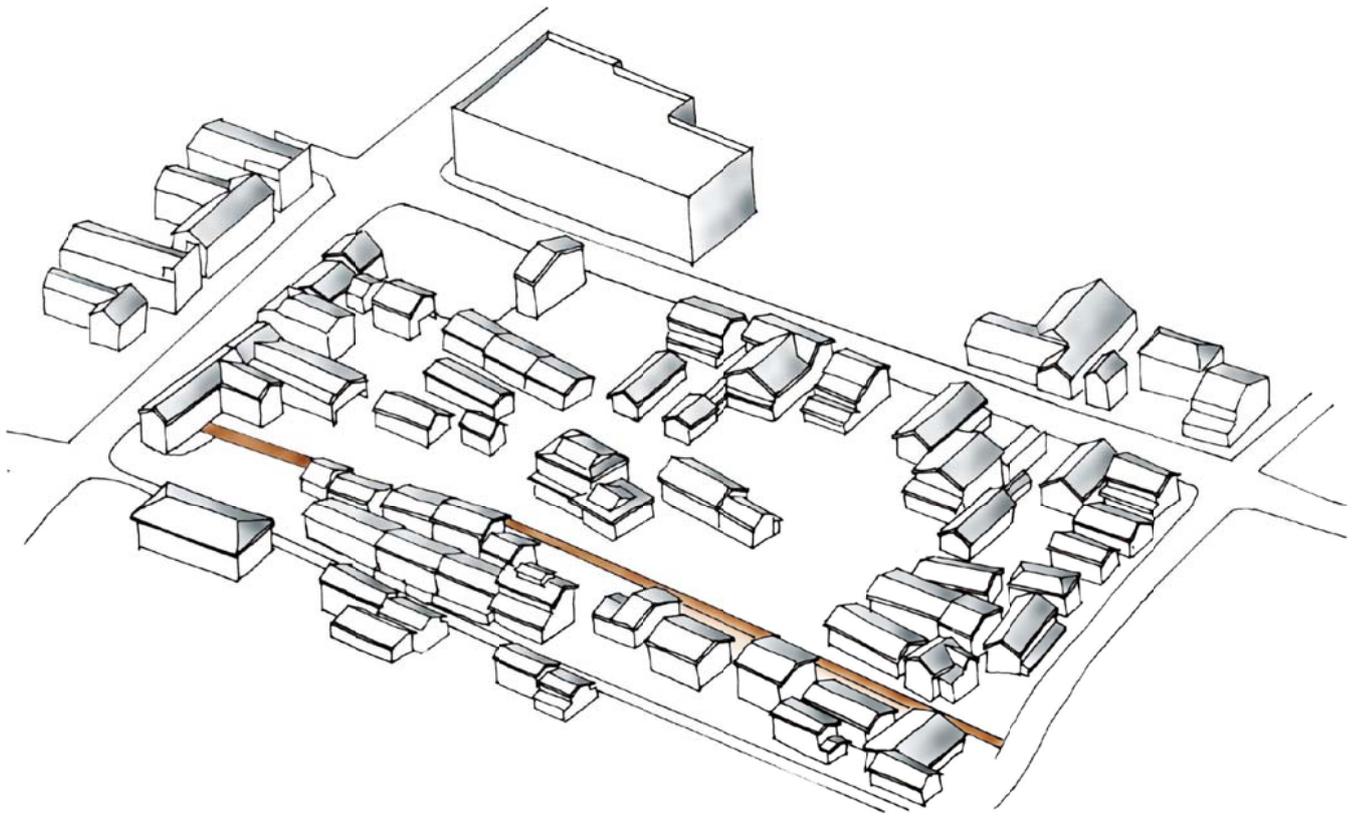


多くの人を取り込み街区内の活性化を目指す

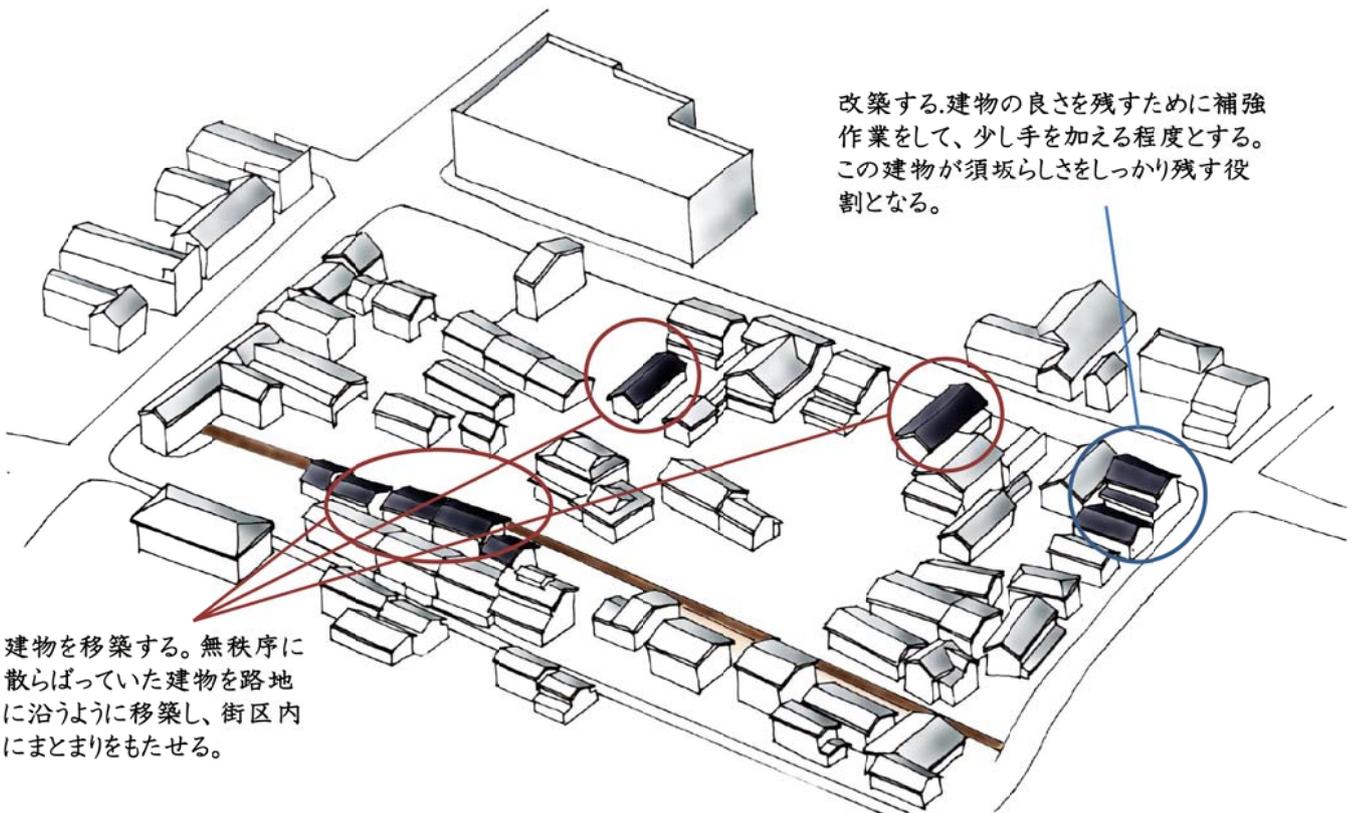


須坂の活性化

# Step1 街区内の建物整理+憩いの場の設置



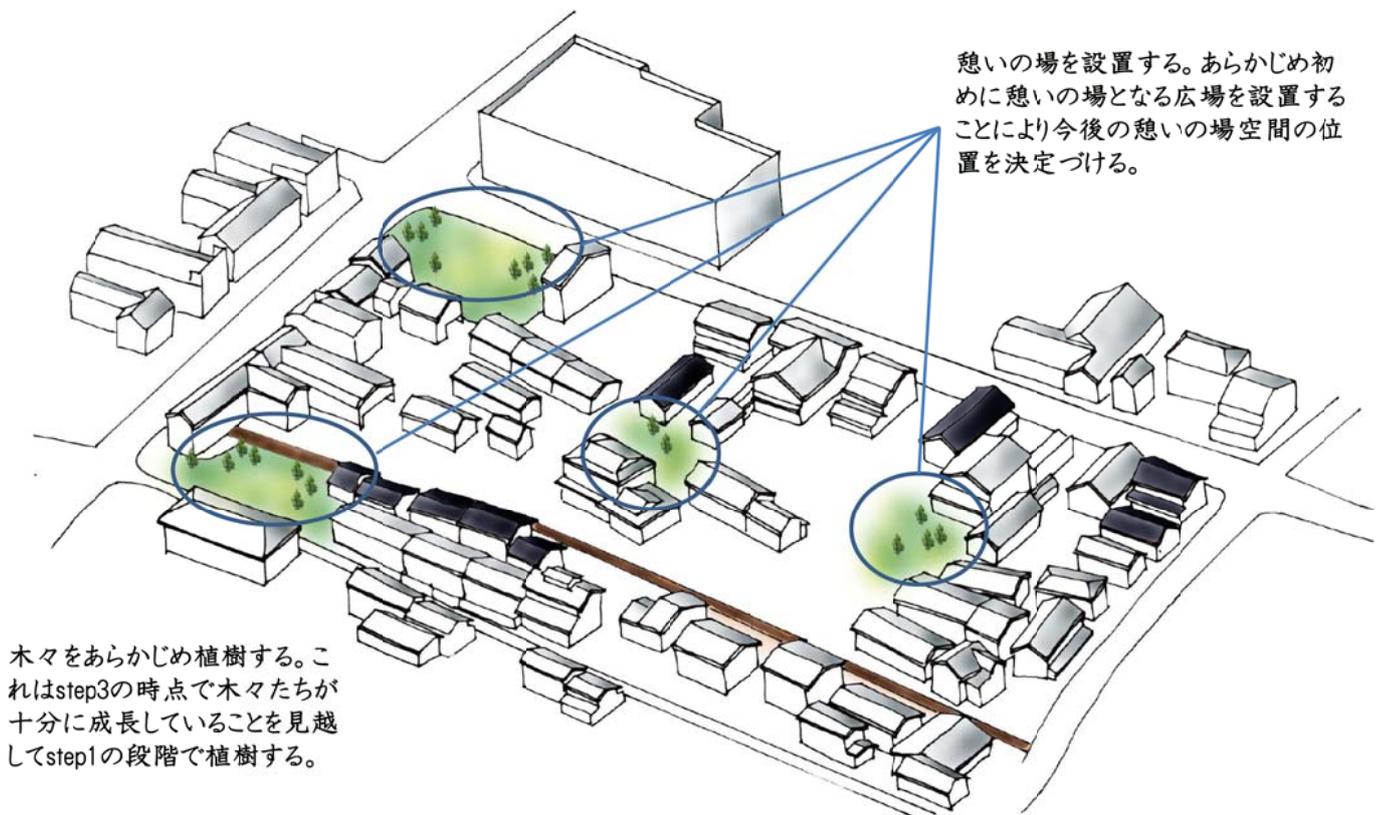
# Step1 街区内の建物整理+憩いの場の設置



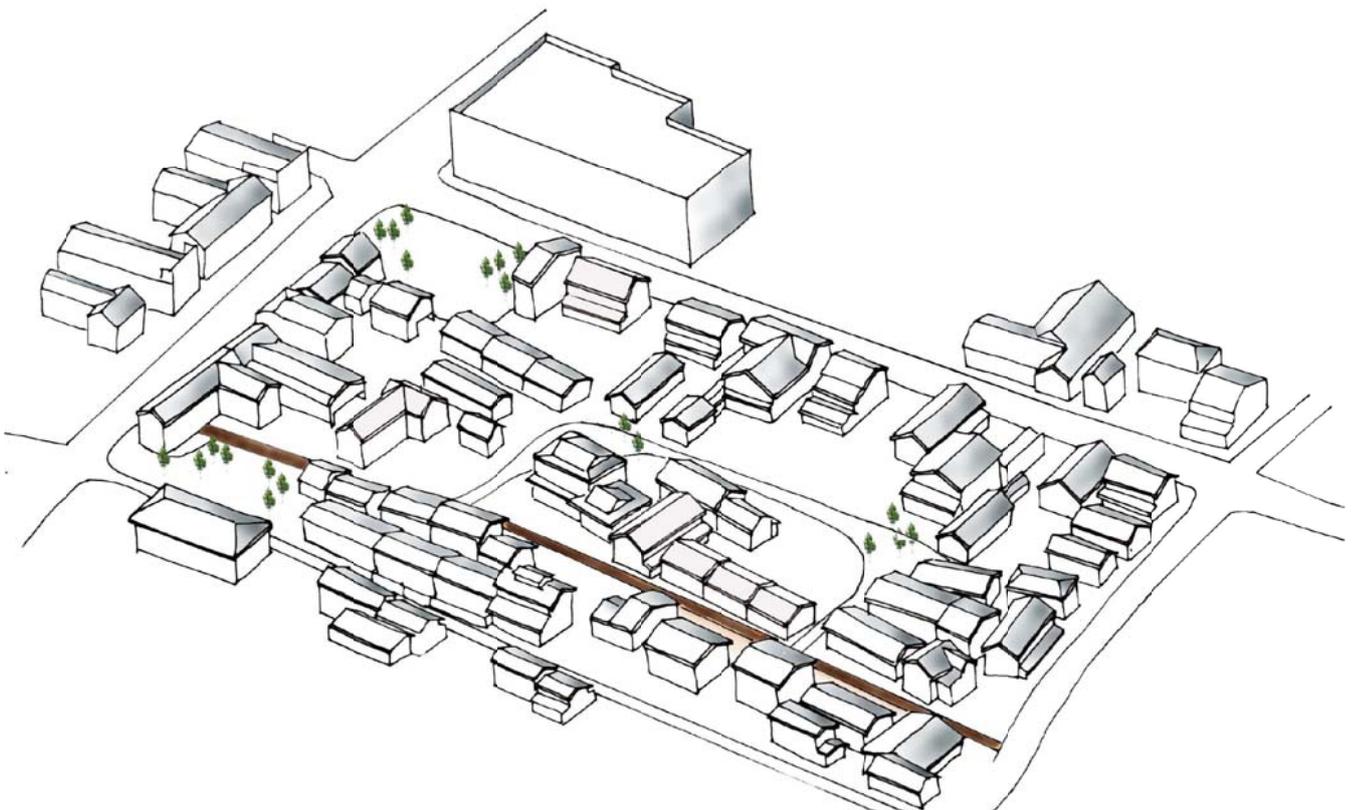
改築する。建物の良さを残すために補強作業をして、少し手を加える程度とする。この建物が須坂らしさをしっかり残す役割となる。

建物を移築する。無秩序に散らばっていた建物を路地に沿うように移築し、街区内にまとまりをもたせる。

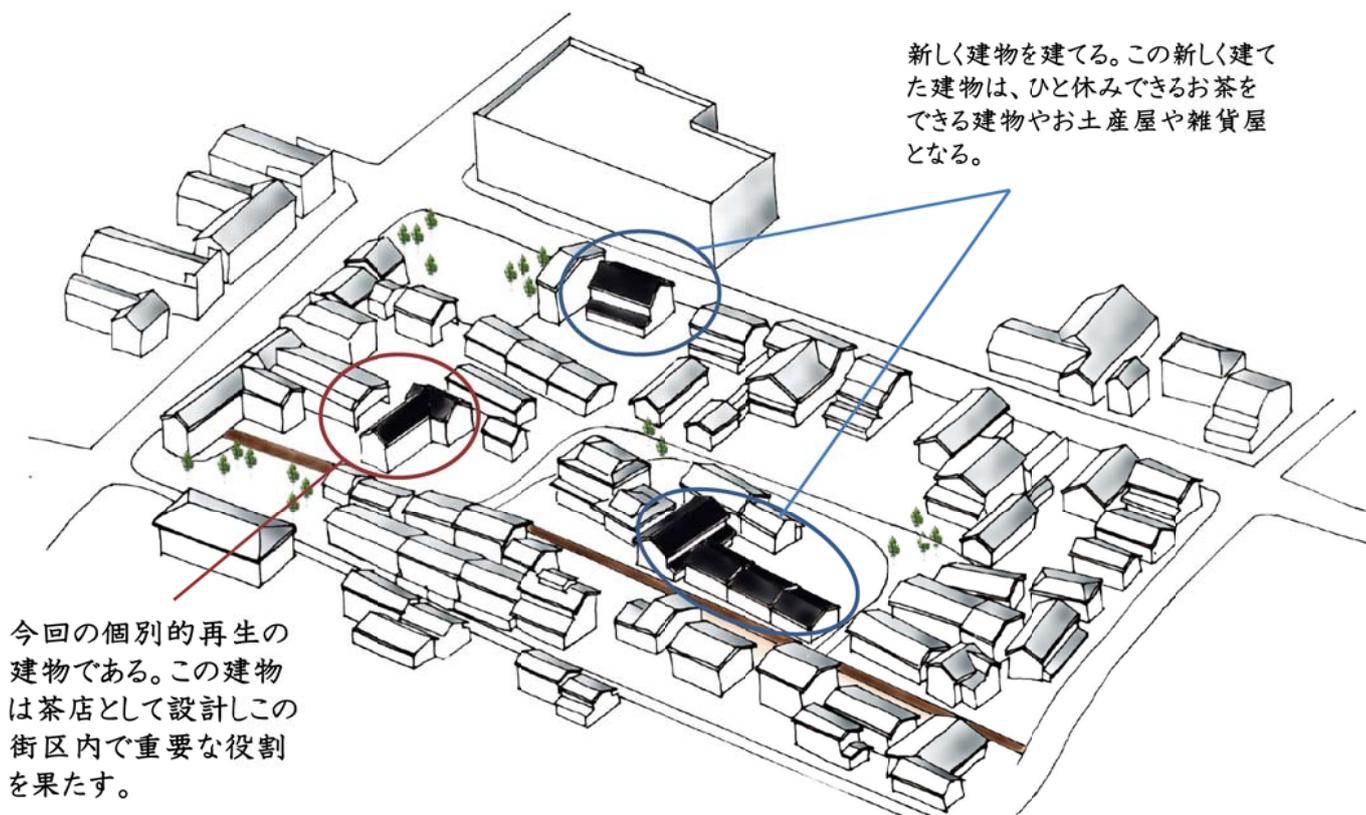
## Step1 街区内の建物整理+憩いの場の設置



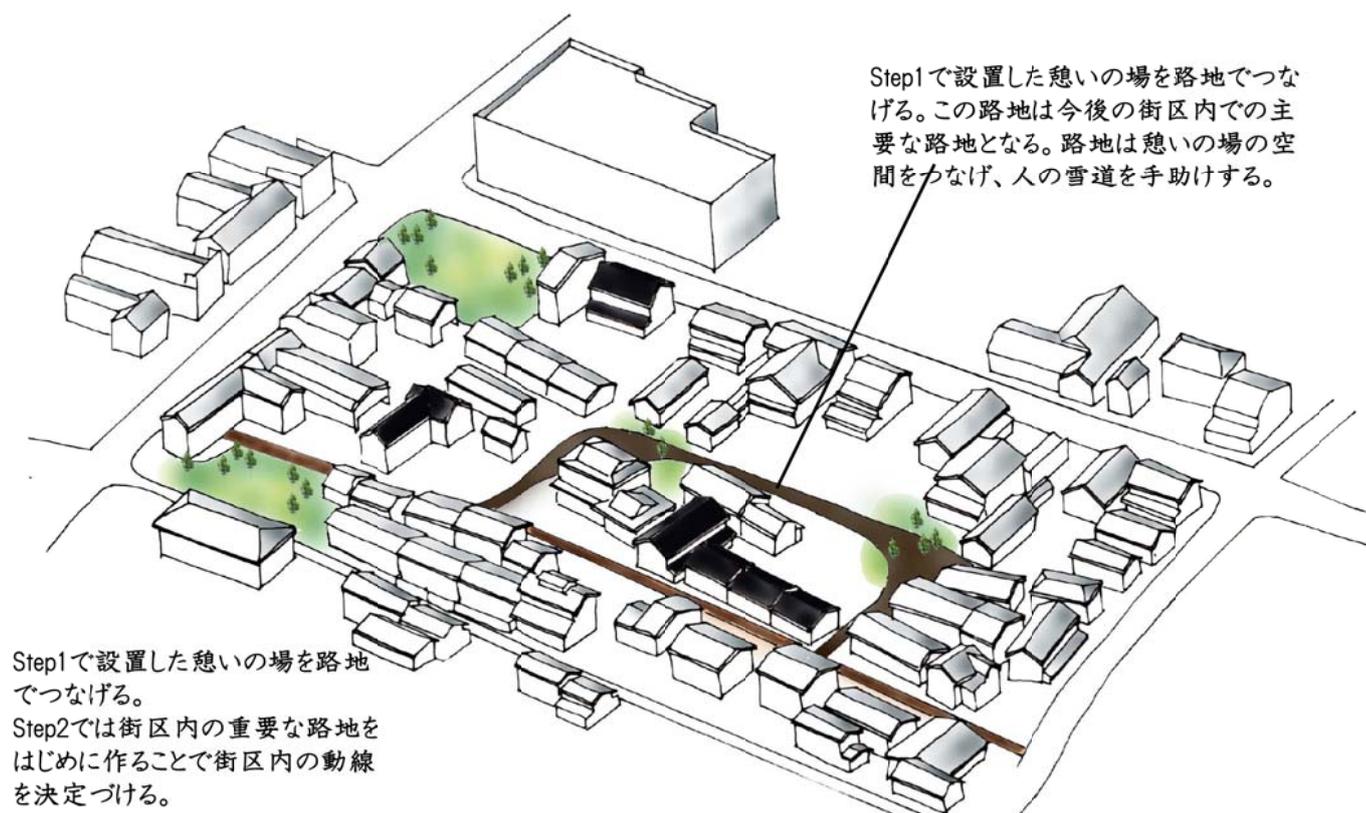
## Step2 店舗の建設+路地をつなげる



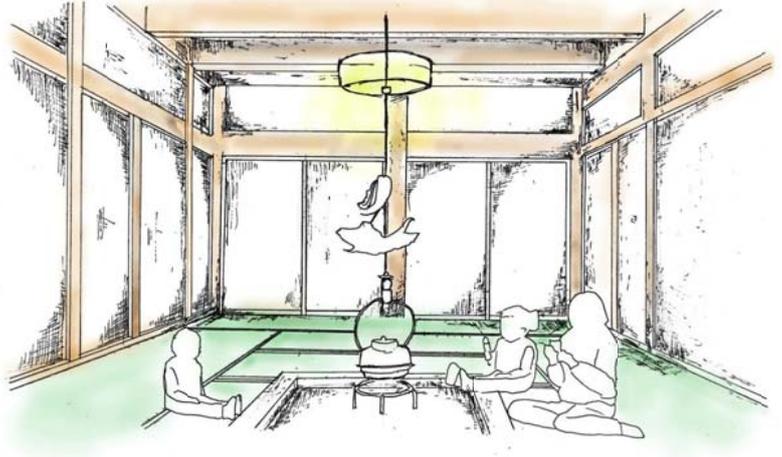
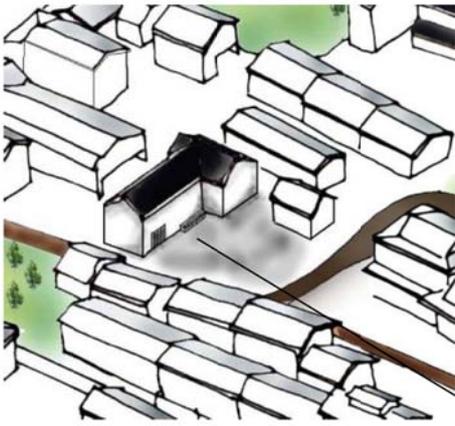
## Step2 店舗の建設+路地をつなげる



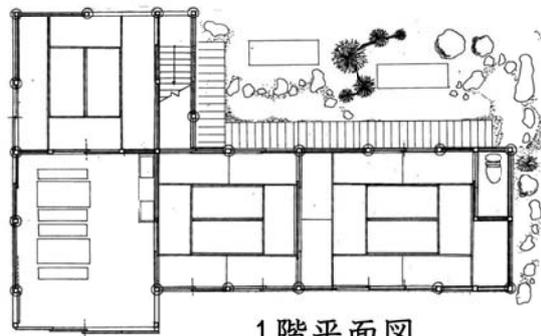
## Step2 店舗の建設+路地をつなげる



## 個別的再生 ～茶店～

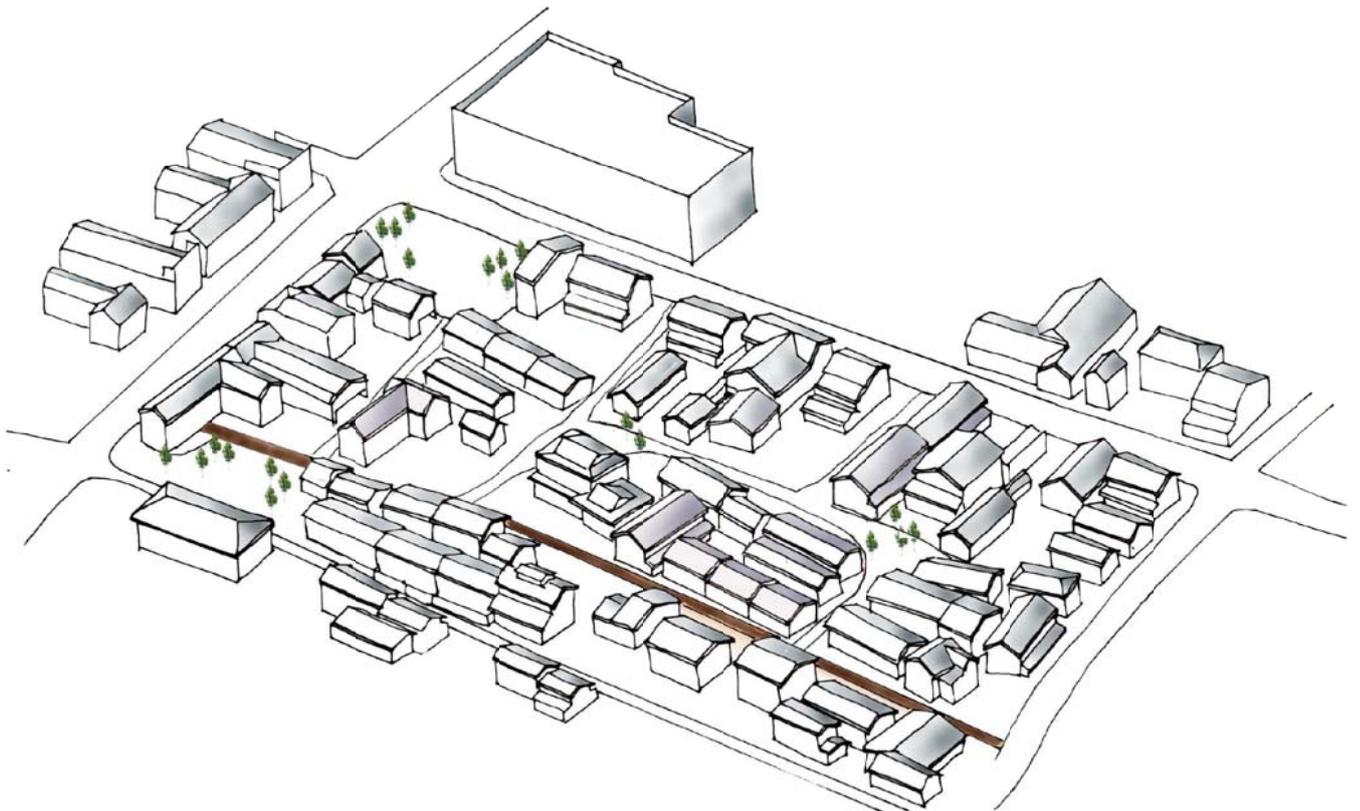


今回の大きなテーマの一つであるひと休みできる空間となる茶店を設計する。4つの部屋だけでなく庭でもくつろげる空間をつくり、前にある路地から気軽に入れる設計にする。この茶店では、疲れたらひと休みできる空間を設けることで人々の街区内のアクセスをする要因となることを期待する。

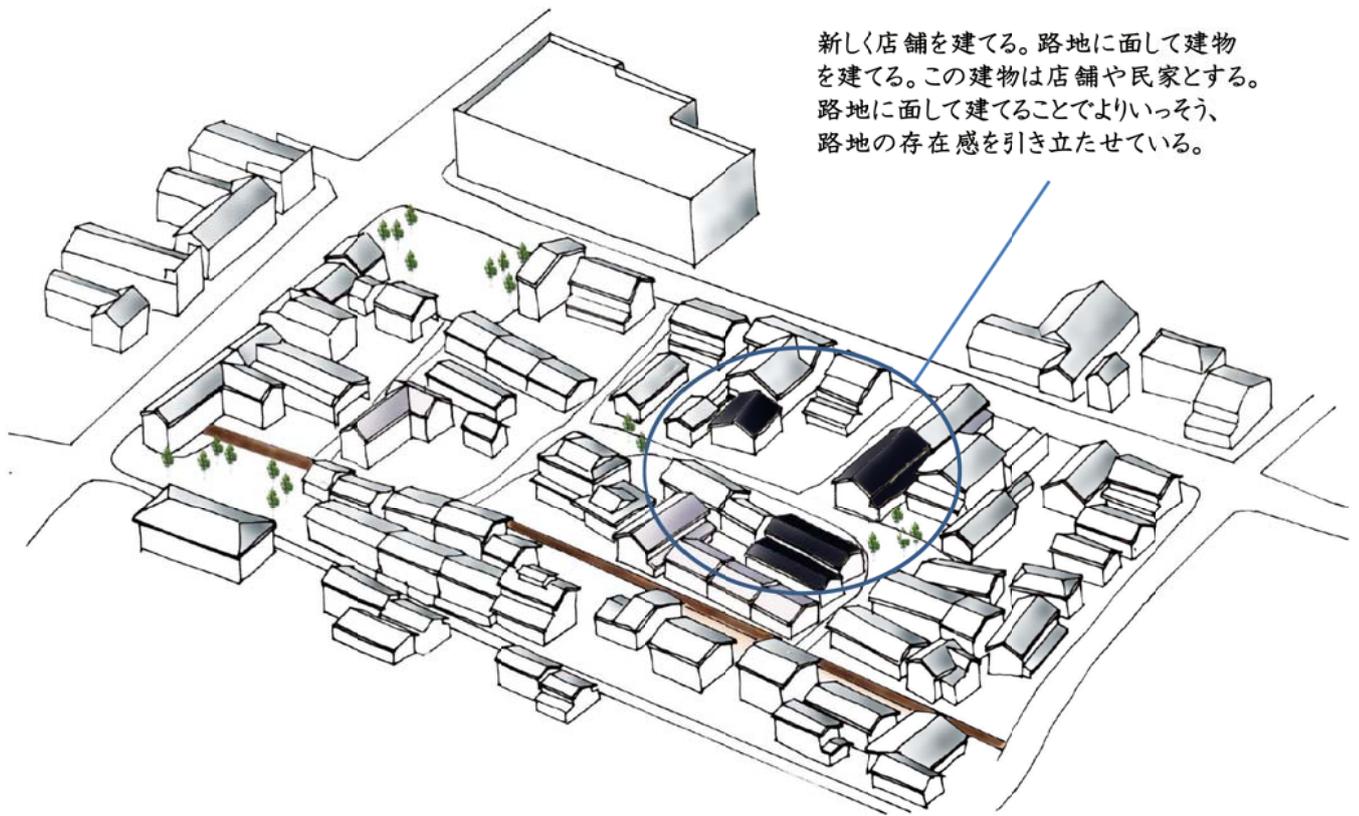


1階平面図

## Step3 街区外から街区内へ

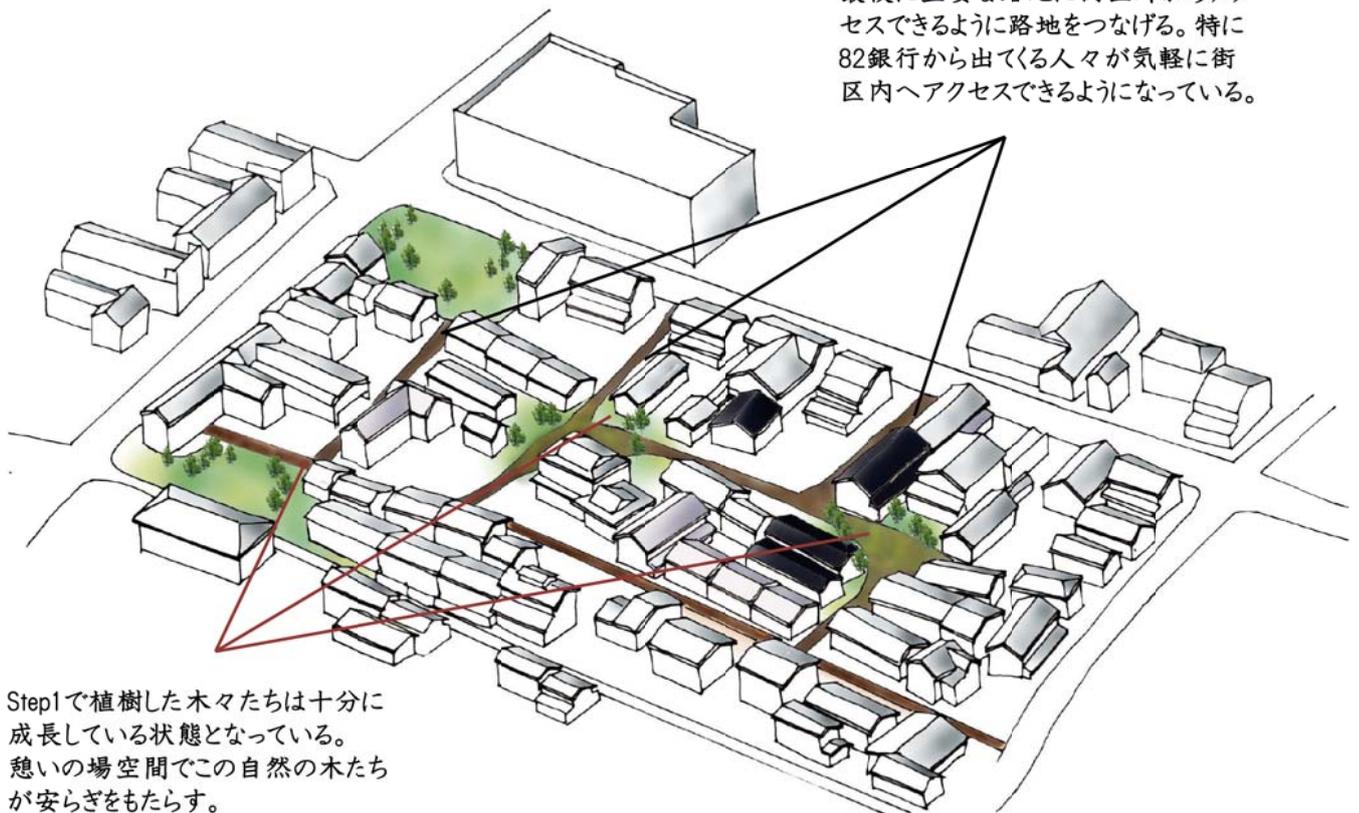


### Step3 街区外から街区内へ



新しく店舗を建てる。路地に面して建物を建てる。この建物は店舗や民家とする。路地に面して建てることでよりいっそう、路地の存在感を引き立たせている。

### Step3 街区外から街区内へ



最後に主要な路地に街区外からアクセスできるように路地をつなげる。特に82銀行から出てくる人々が気軽に街区内へアクセスできるようになっている。

Step1で植樹した木々たちは十分に成長している状態となっている。憩いの場空間でこの自然の木たちが安らぎをもたらす。



路地に面した茶店では気軽にお茶を飲みくつろげる

路地から見える家や店たち



ご清聴ありがとうございました

# 須坂やどり路

須坂に住む。須坂に泊まる。人のやどる路。



岩間 夏希

須坂らしさの やどる路 を提案します。

## 街区を探る（魅力）



須坂ならではの  
格式高い古民家が残った町並み



中へ入る小路と広場  
古民家も空き家として残る

## 街区を探る（課題）



歩道は狭く、車との距離が近い  
立ち話をしている人が多く、気軽に座れる場所がすくない

# やどり路

宿る：(やど-る)

壺、一時的にそこに住む(宿泊) →観光客

式、その場に留まる(居住) →須坂市民



須坂に宿り(居住する)、宿る(宿泊する)人のための路

市民のあたたかさ、格式高い古民家、特産物の豊富さという  
須坂らしさが宿る路

## 提案



既存の街区



小路によって分割  
商店がならぶ

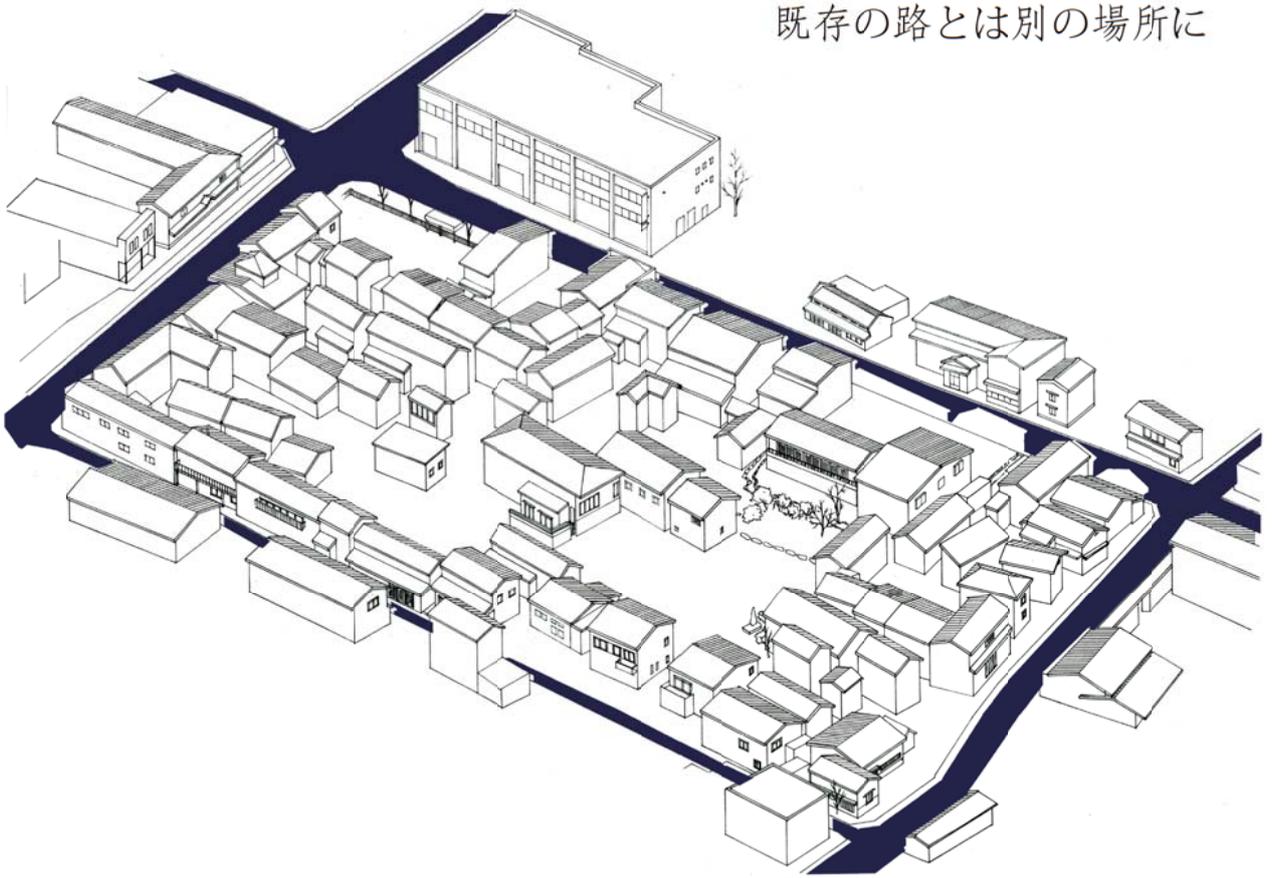


交差路に旅館を設ける  
観光客も路をつかう

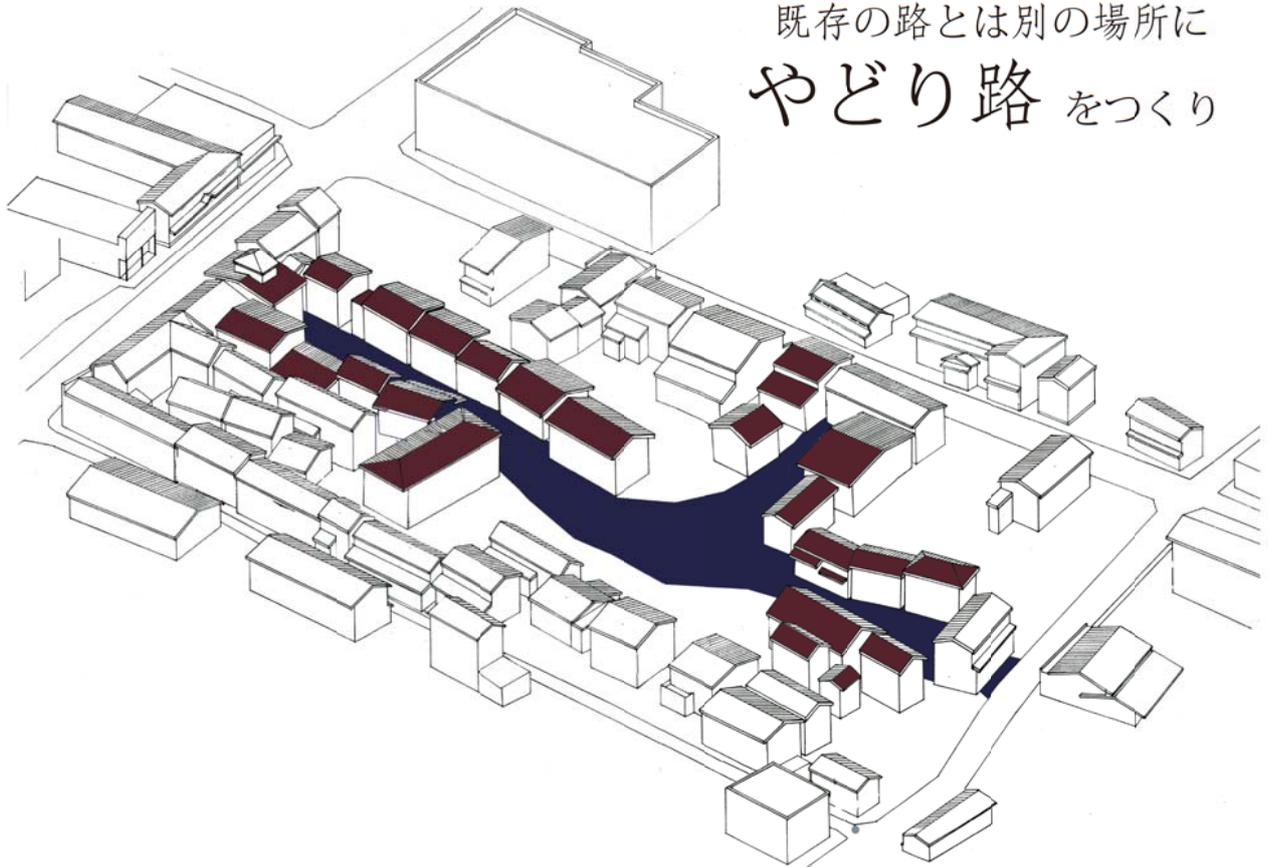


生活の拠点となり  
家は増える

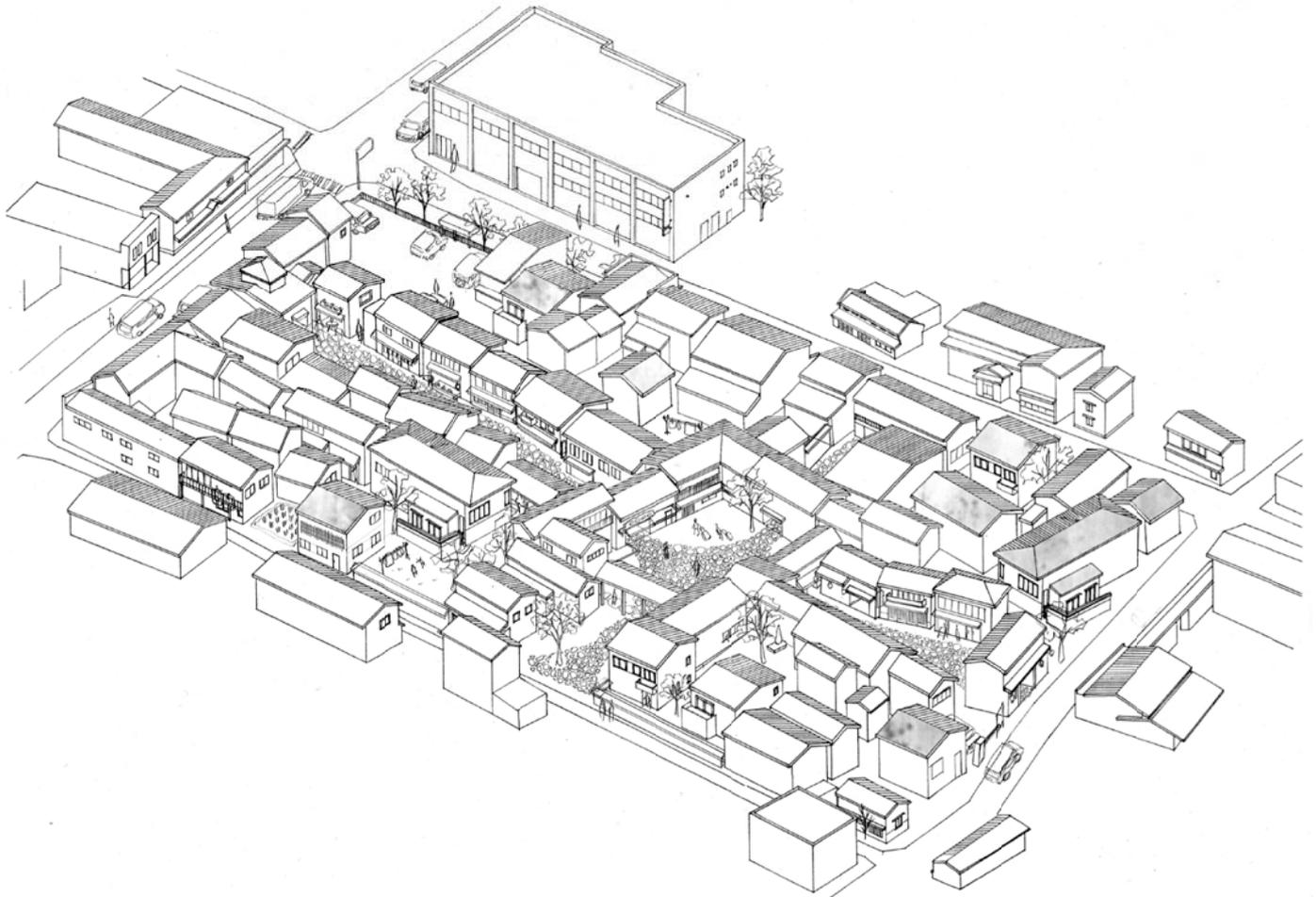
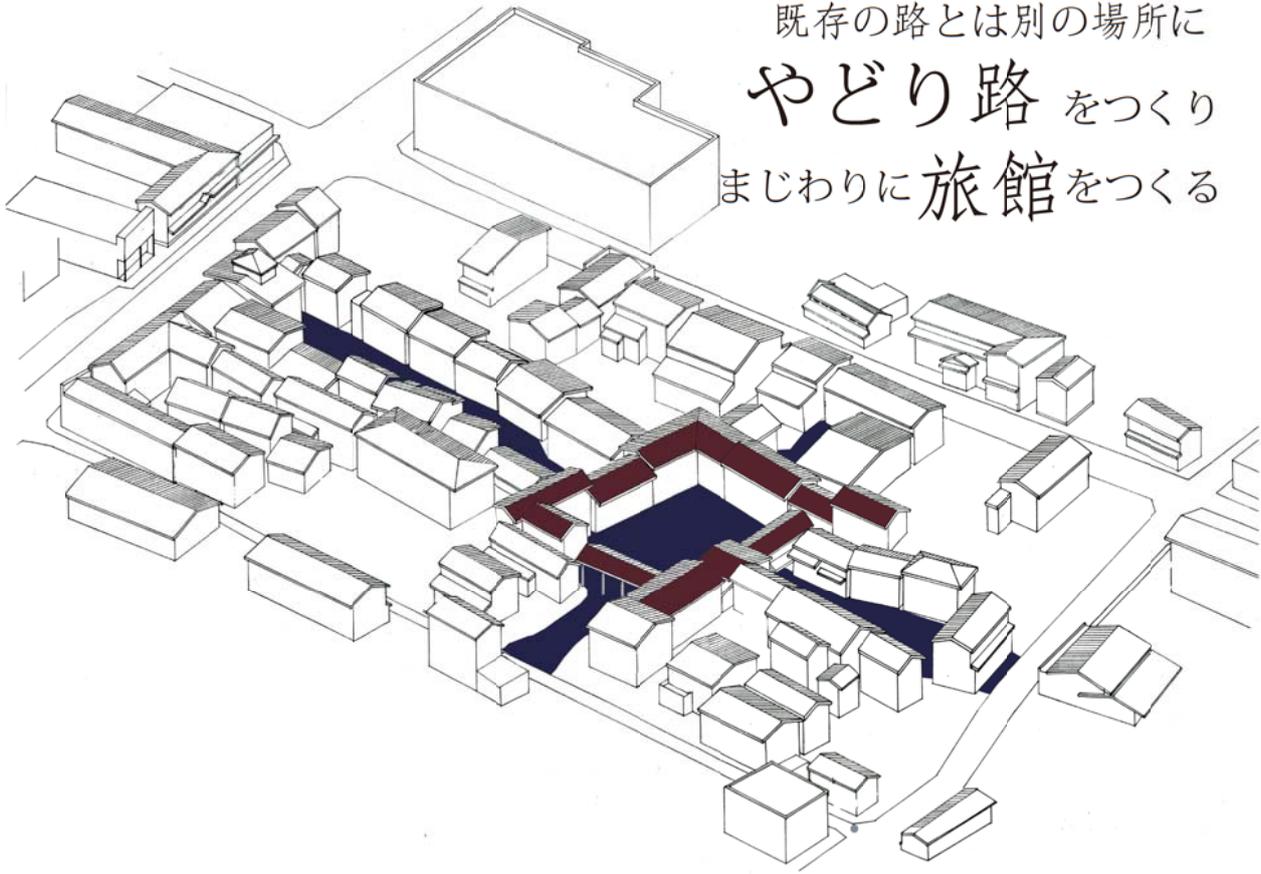
既存の路とは別の場所に



既存の路とは別の場所に  
やどり路をつくり



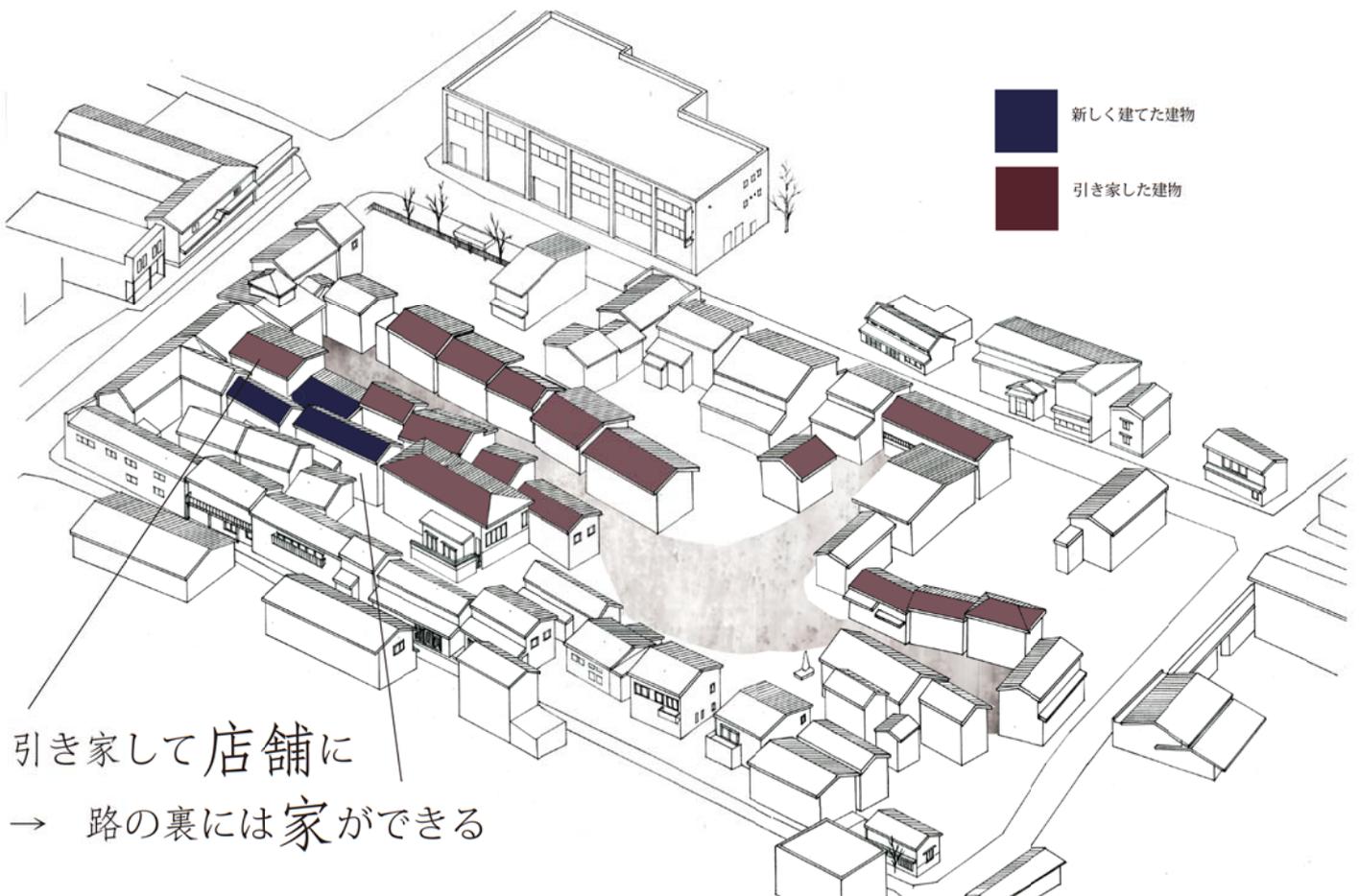
既存の路とは別の場所に  
やどり路をつくり  
まじわりに旅館をつくる





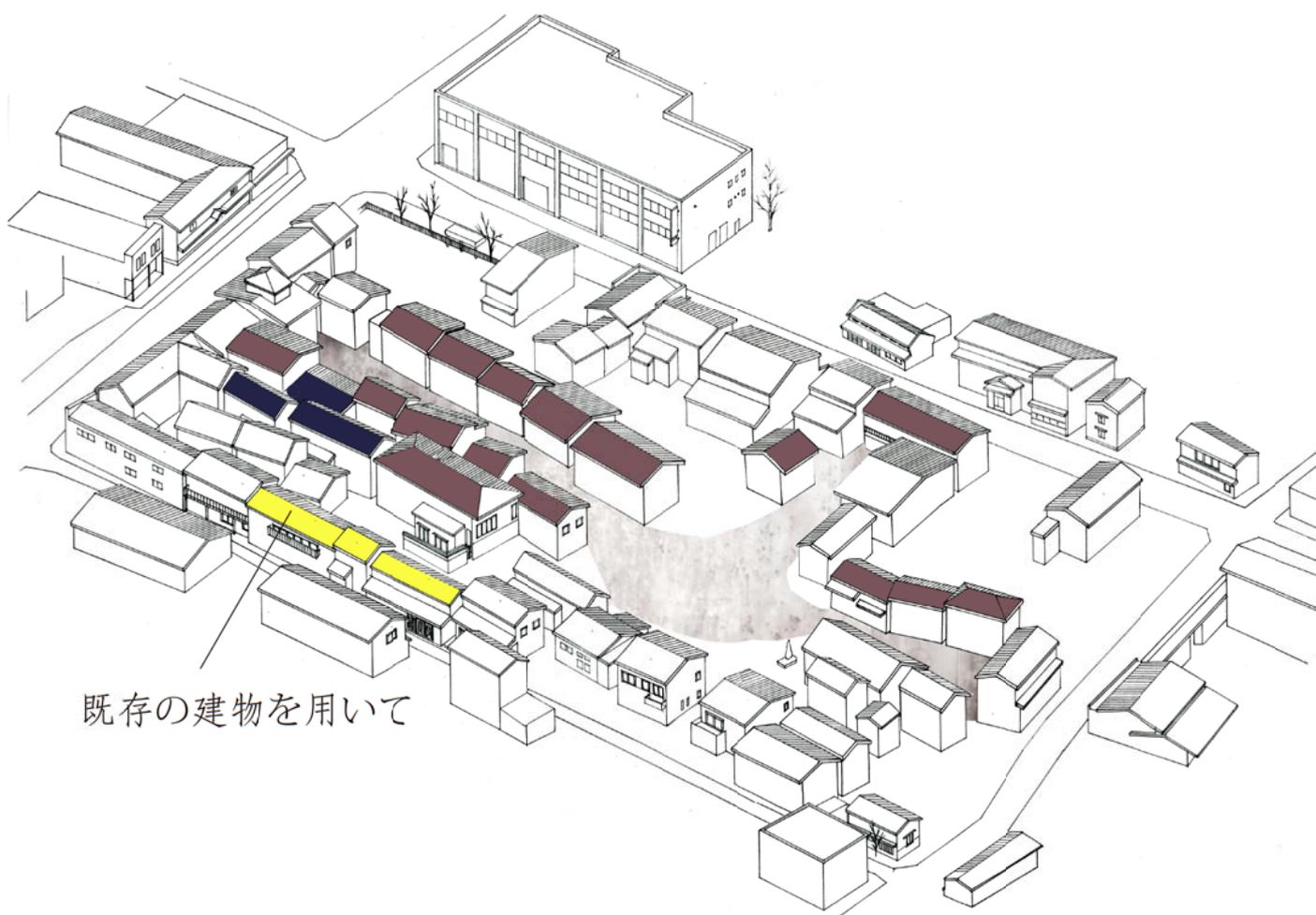
# 壱

路をつくる

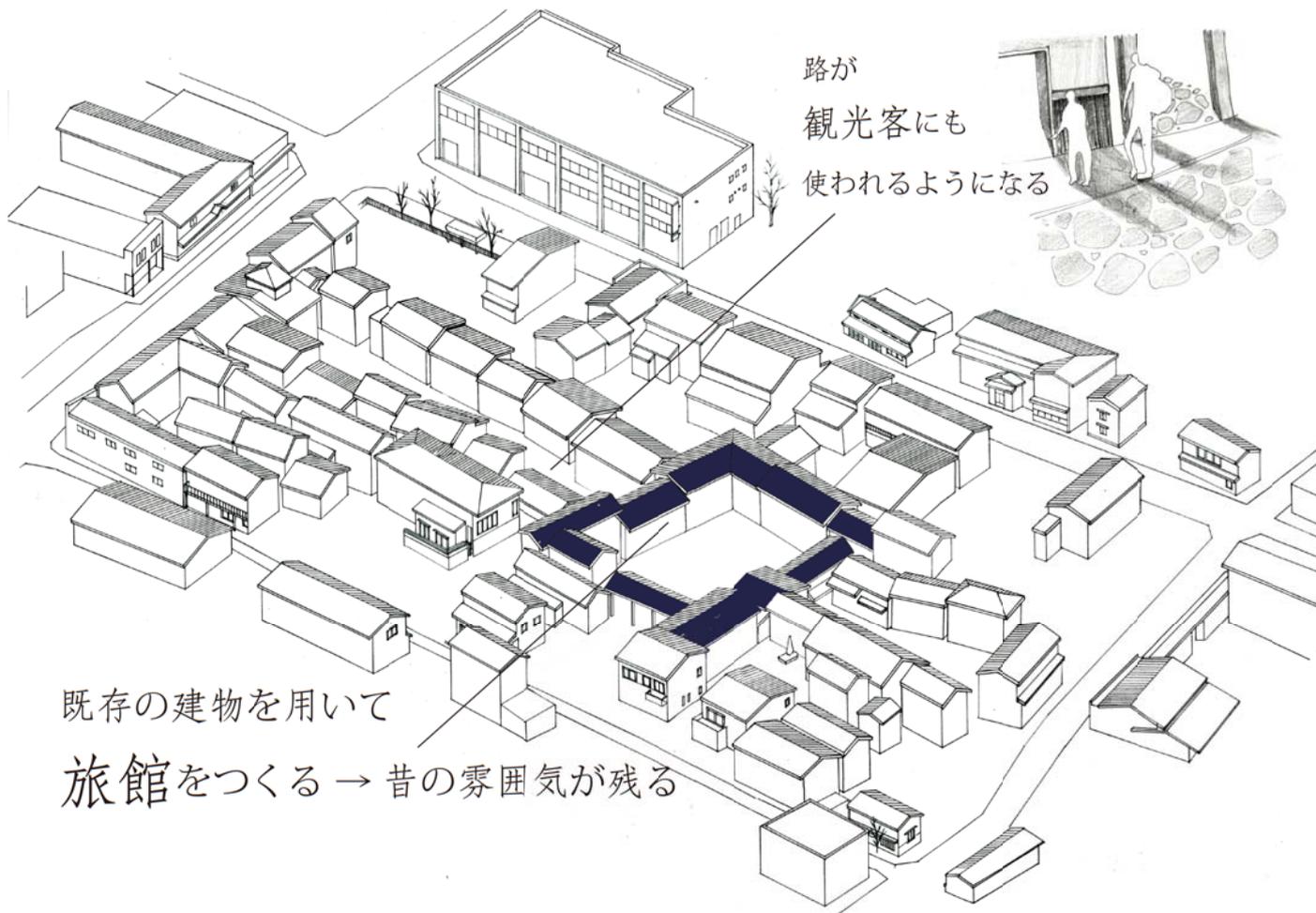


# 式

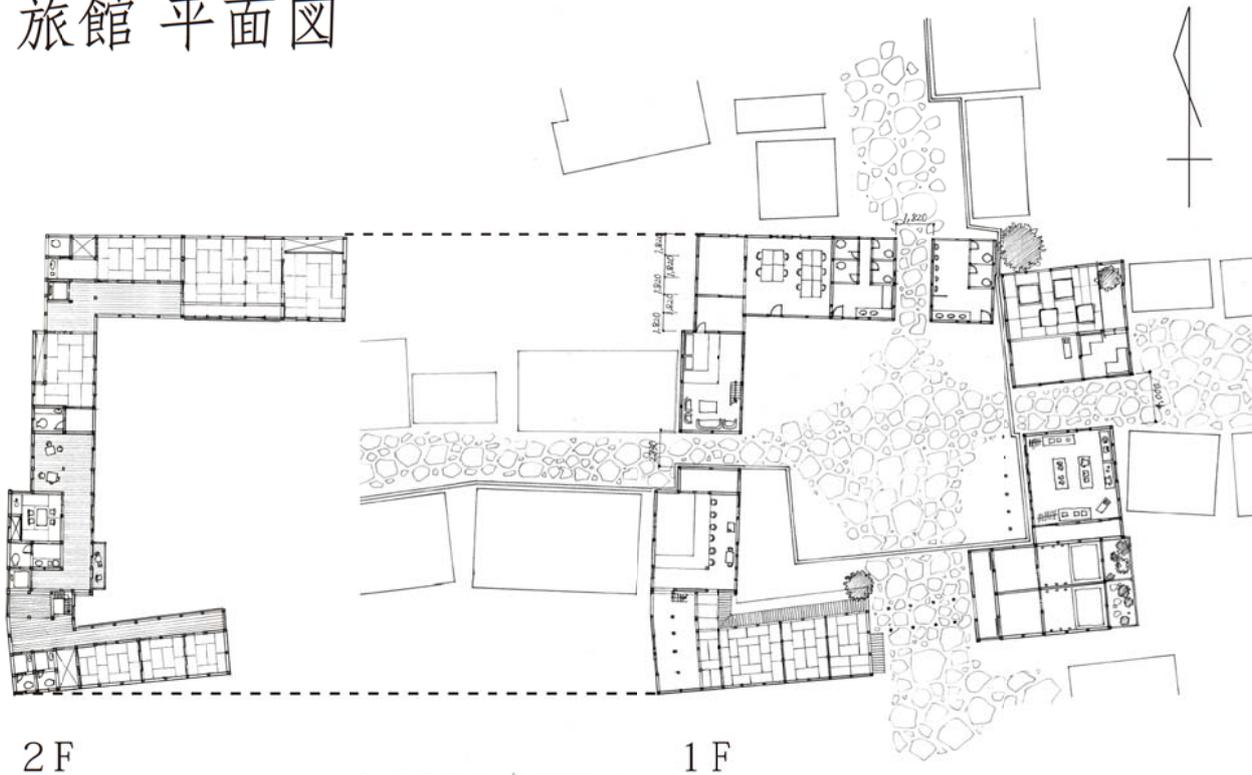
旅館 であつなぐ



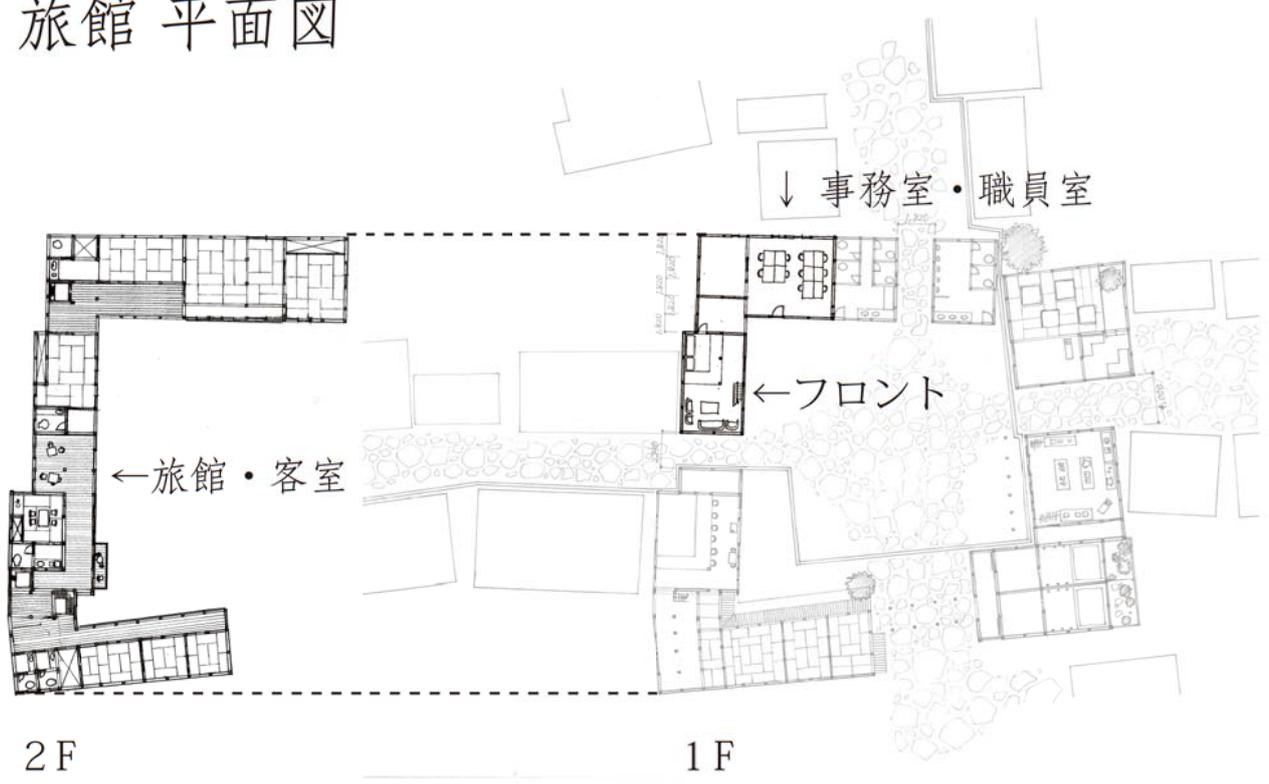
既存の建物を用いて



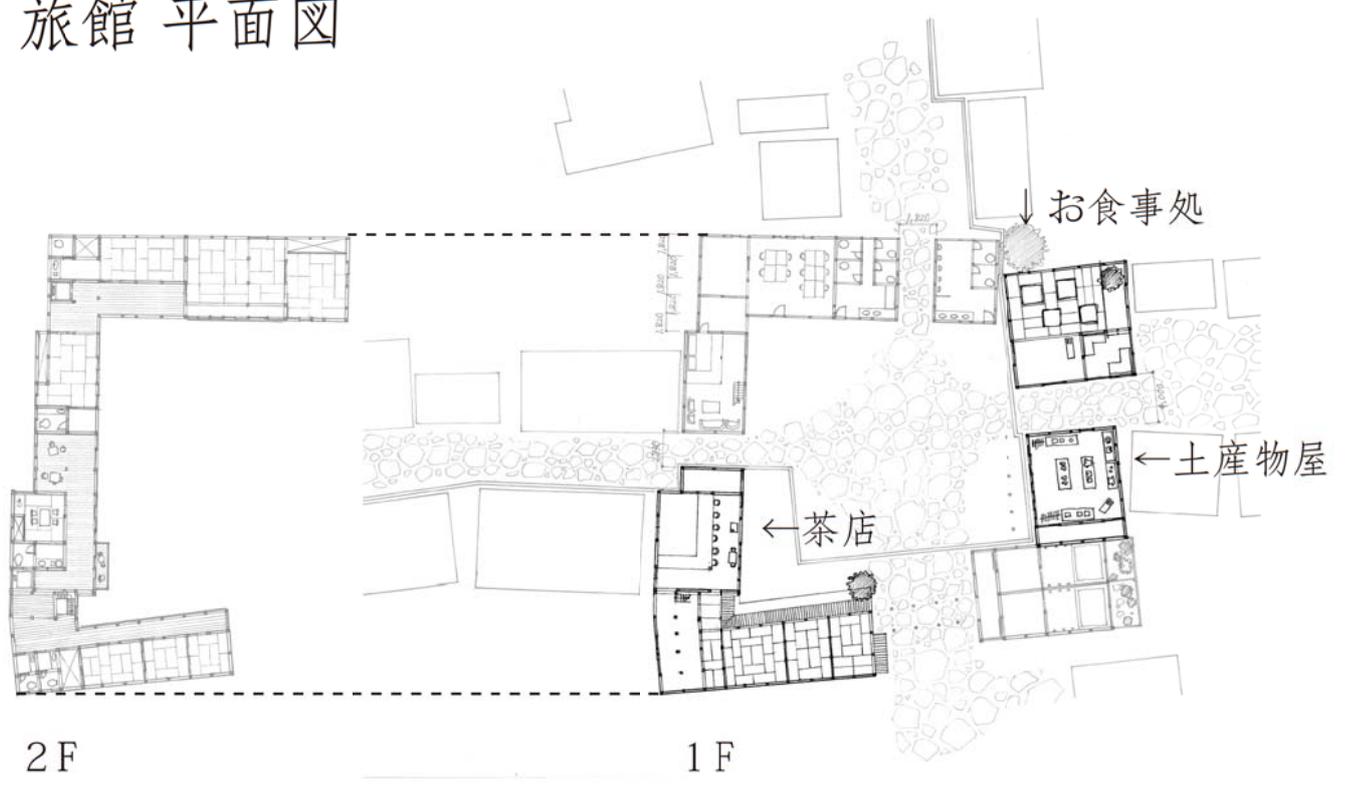
## 旅館 平面図



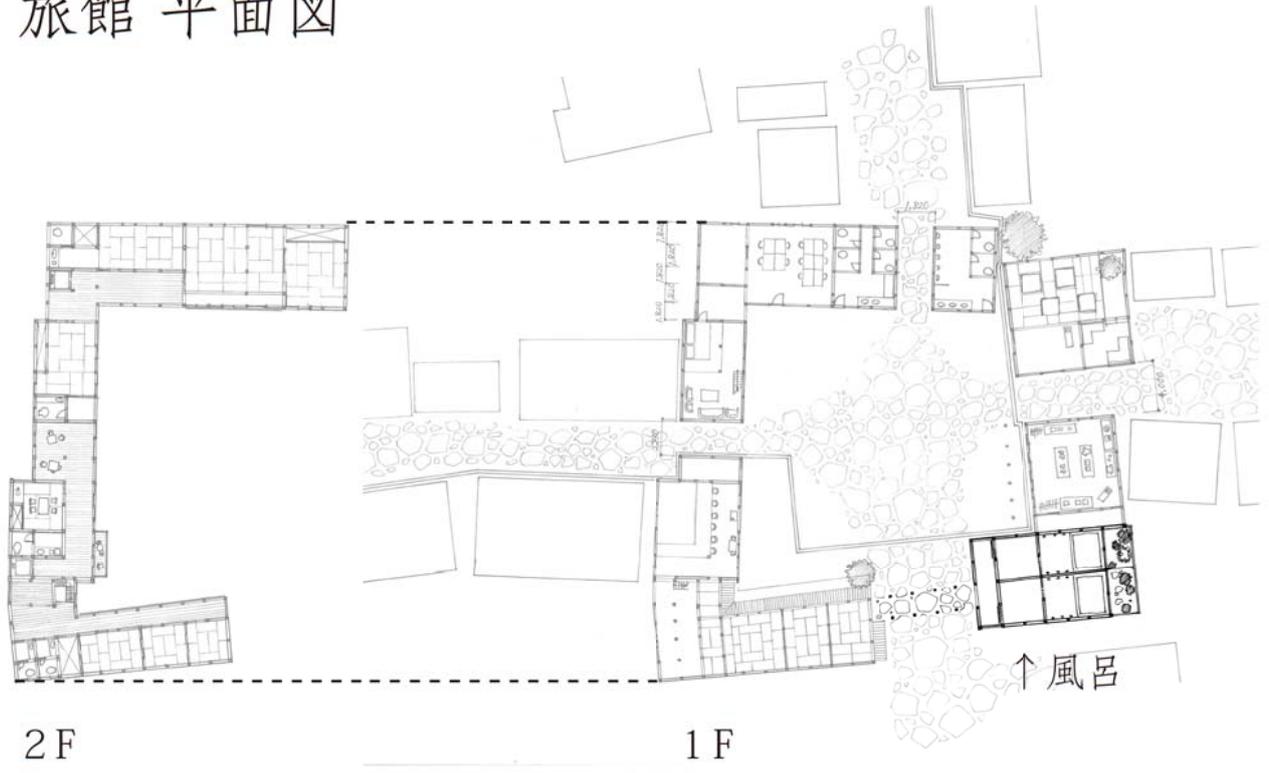
# 旅館 平面図



# 旅館 平面図

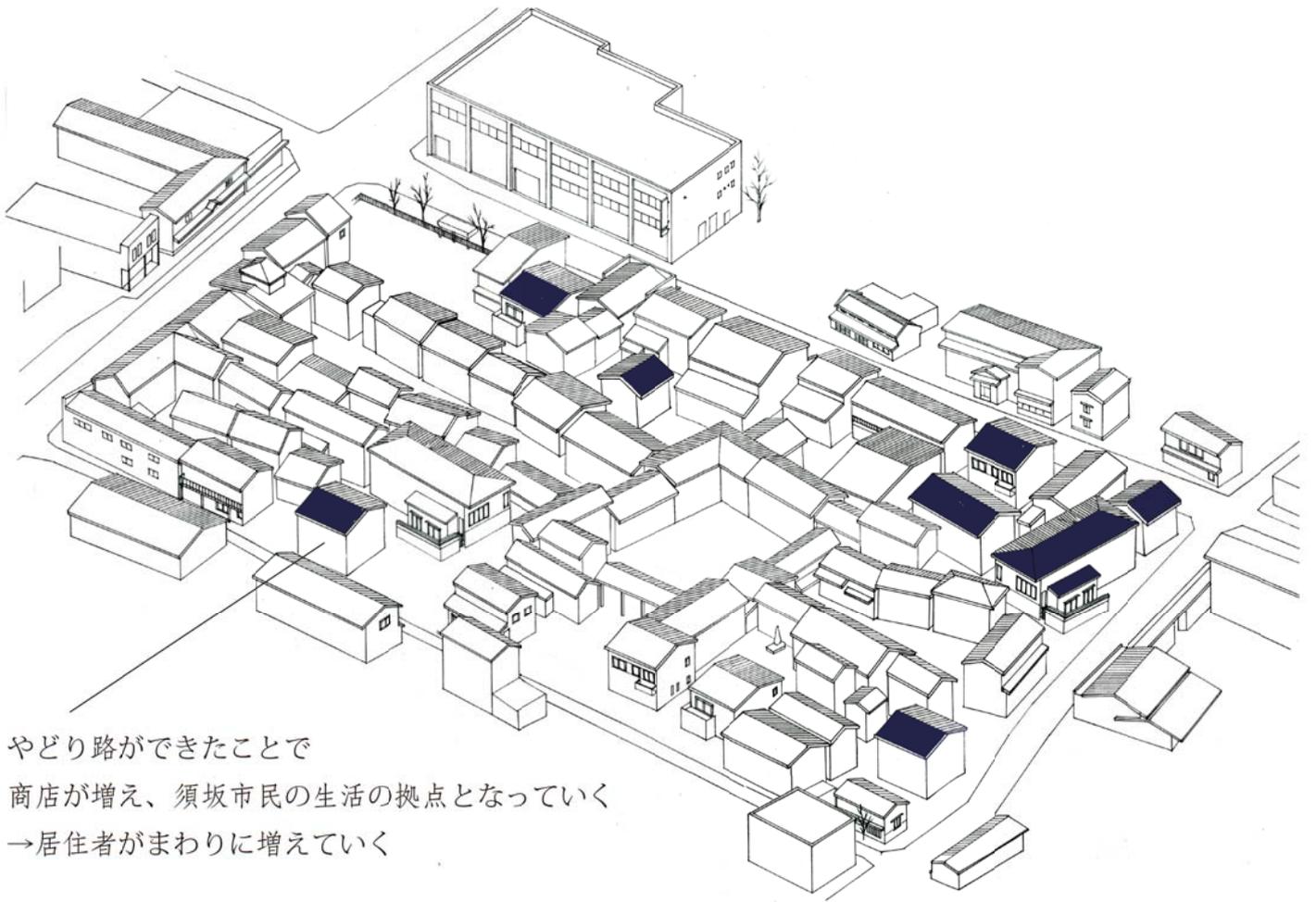


# 旅館 平面図



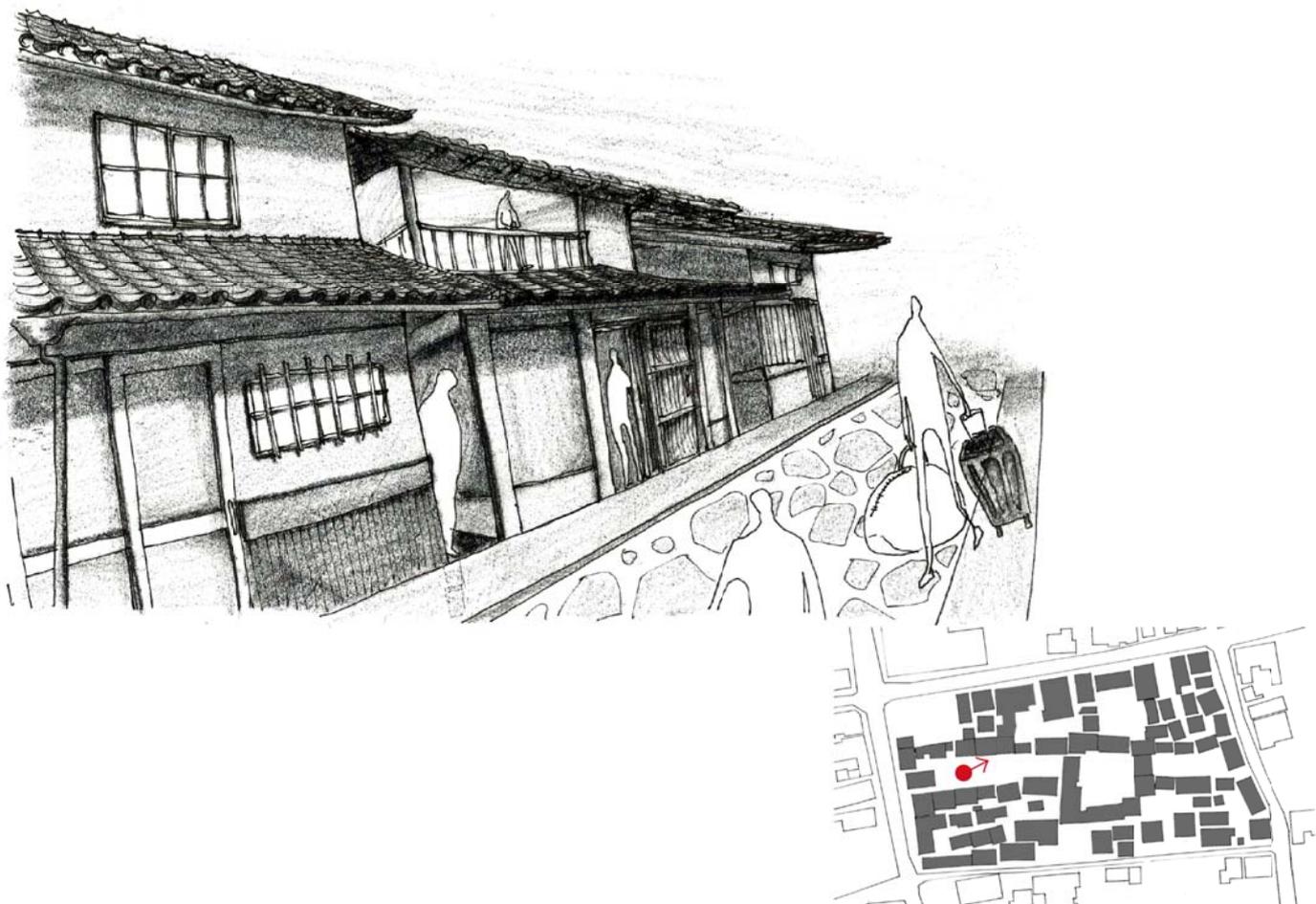
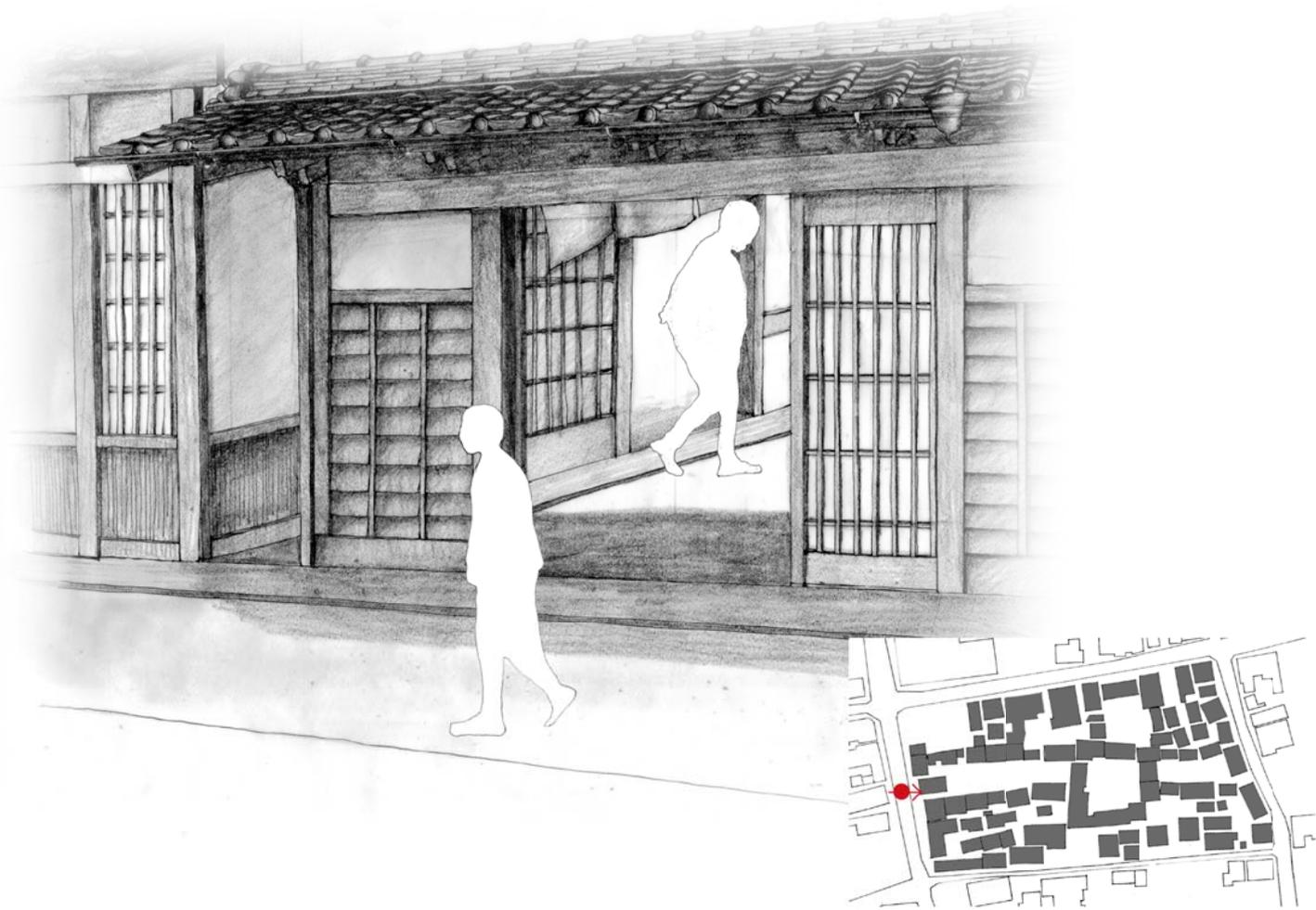
## 参

家がふえる



やどり路ができたことで  
商店が増え、須坂市民の生活の拠点となっていく  
→居住者がまわりに増えていく







ご静聴ありがとうございました。



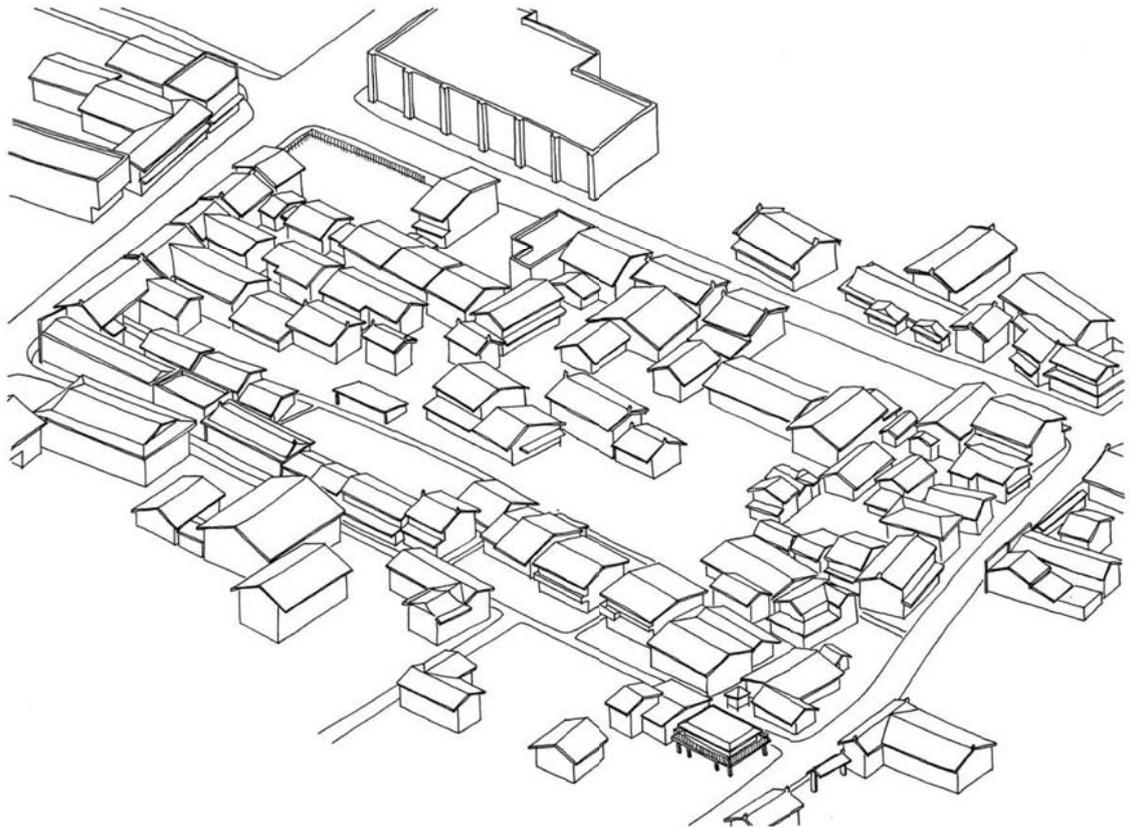
# 縁側が結ぶ 人とまち

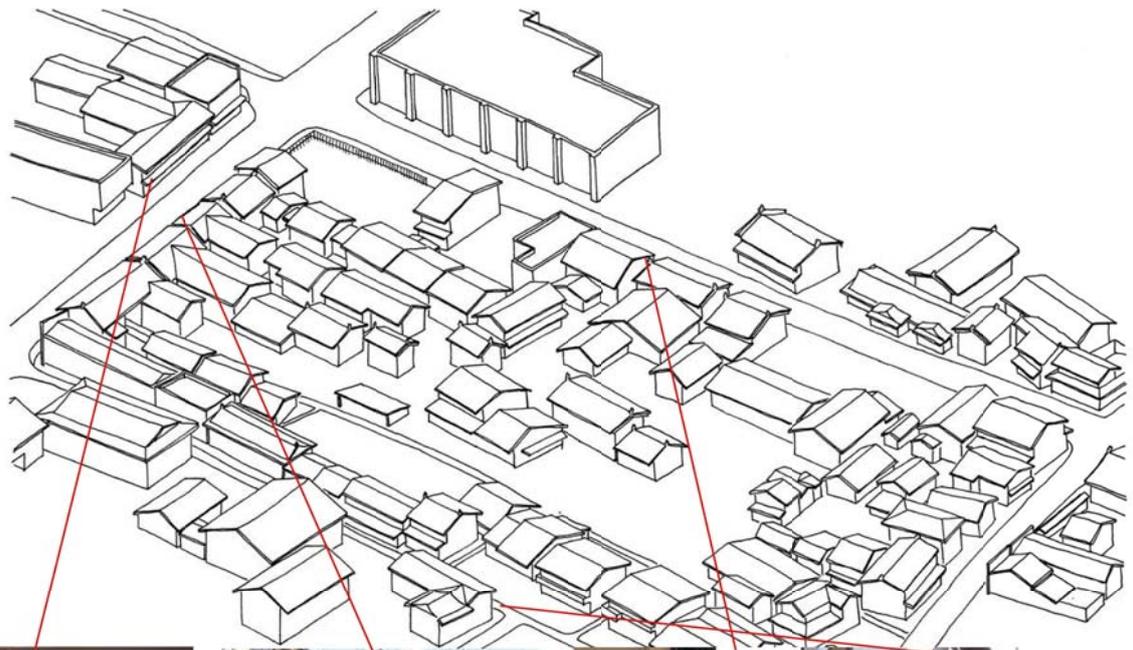


信州大学工学部建築学科 3 年 杉浦友裕

Step 0

現状





門と庭



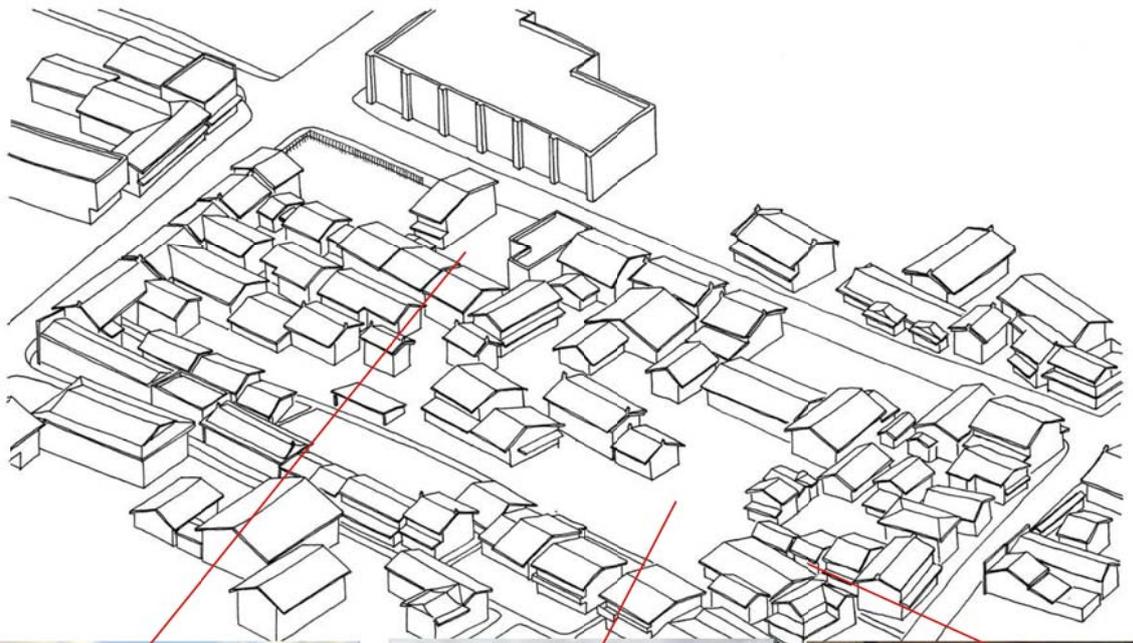
蔵の町並み



小路



路地



増改築の痕



空き地



空き家

## Concept

プライベート空間の確保を考慮しすぎた結果、街区は個人の私有地の集合体となりつつある。

道路に面する建物の正面はきれいに整備されているのに対して、一步街区内に入ると増改築の継ぎ接ぎの痕や空地・空家が目立つ。

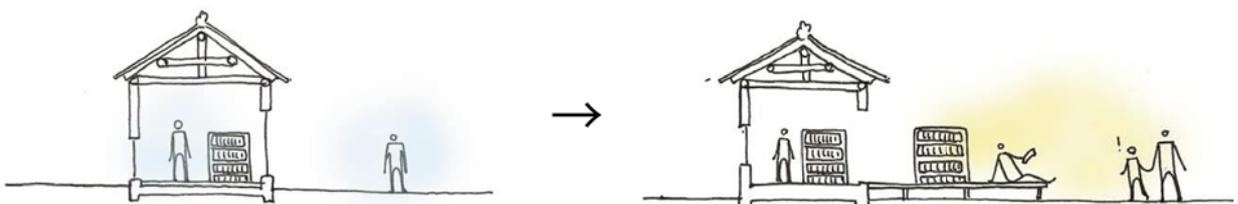


“**街区の縁側**”を設け、人と人のつながり、室内と室外のつながり、街区内と街区外につながりという3つのスケールのつながりを作り、街区に一体感を持たせることを目指す。

## Point



壁によって区切られてしまう室内と室外は、縁側を設けることで緩やかに結ばれる。縁側に腰をかけて談笑したりなど、人と人のコミュニケーションの場にもなる。



縁側の幅を広げてウッドデッキにし、室内の機能を引っ張り出すことで、本来建物の中に納まっている機能を外にいる人も利用できるようになる。

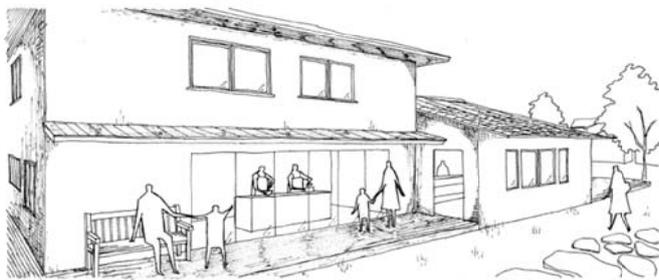
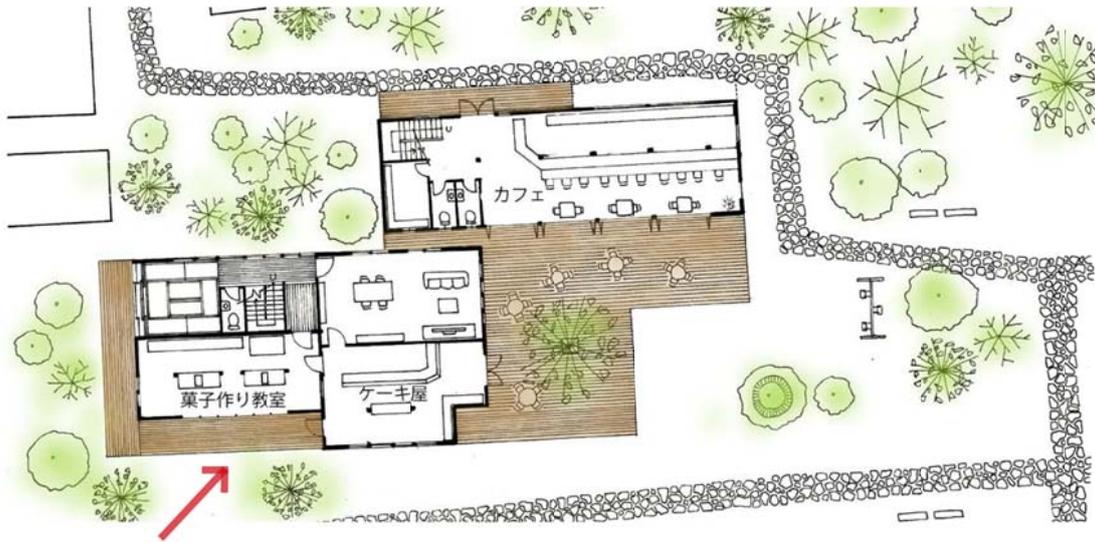


# Step 1

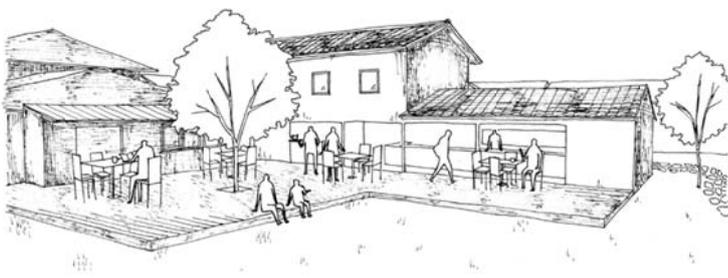
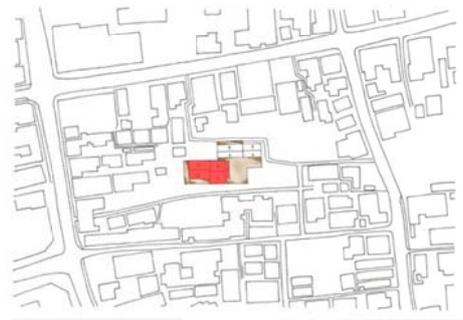
## 中央広場の形成

Step 0 Step 1 Step 2 Step 3

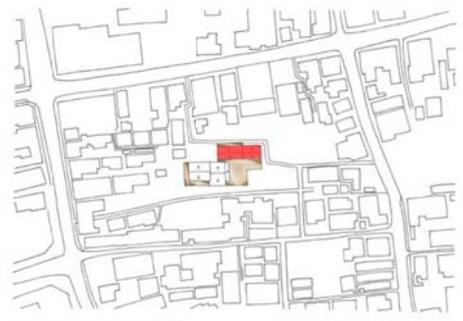




菓子作り教室



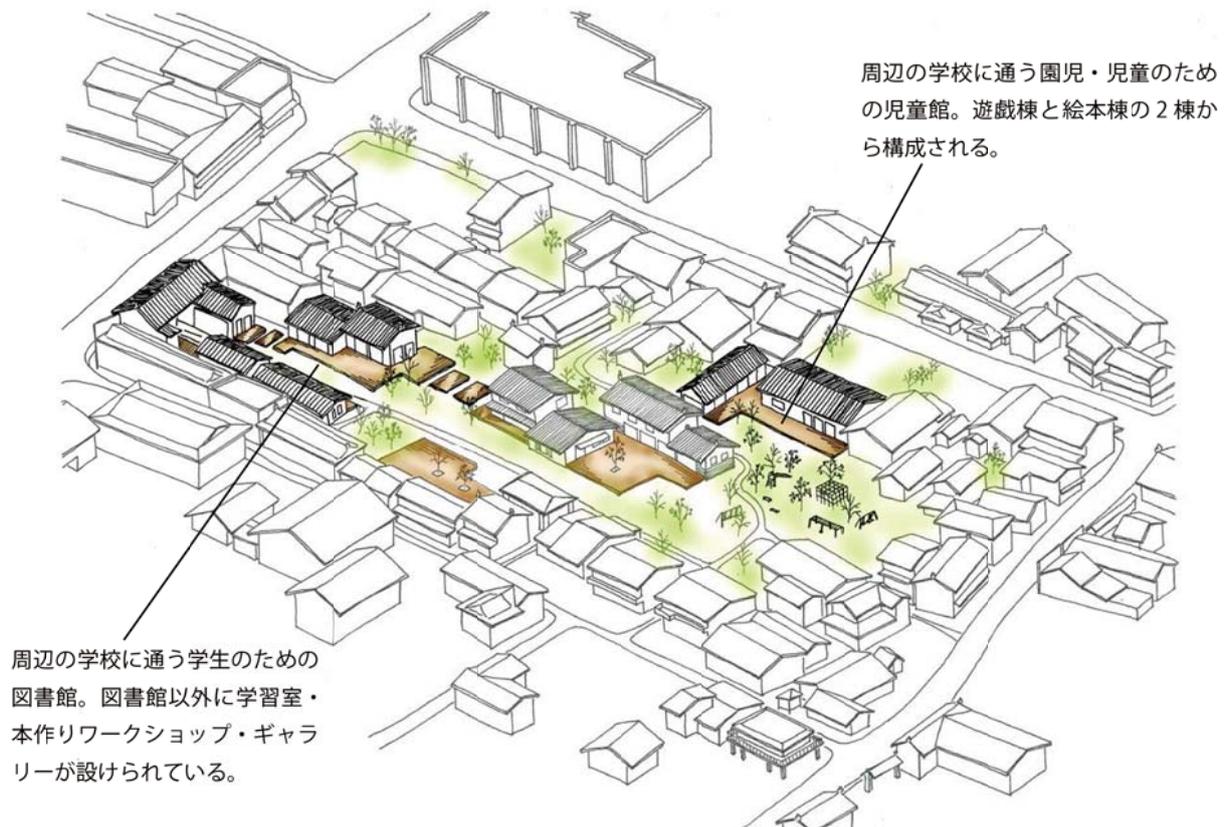
カフェ広場

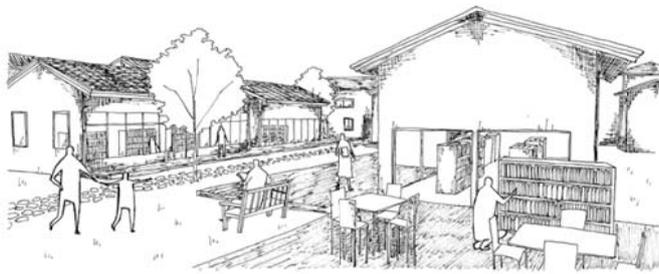
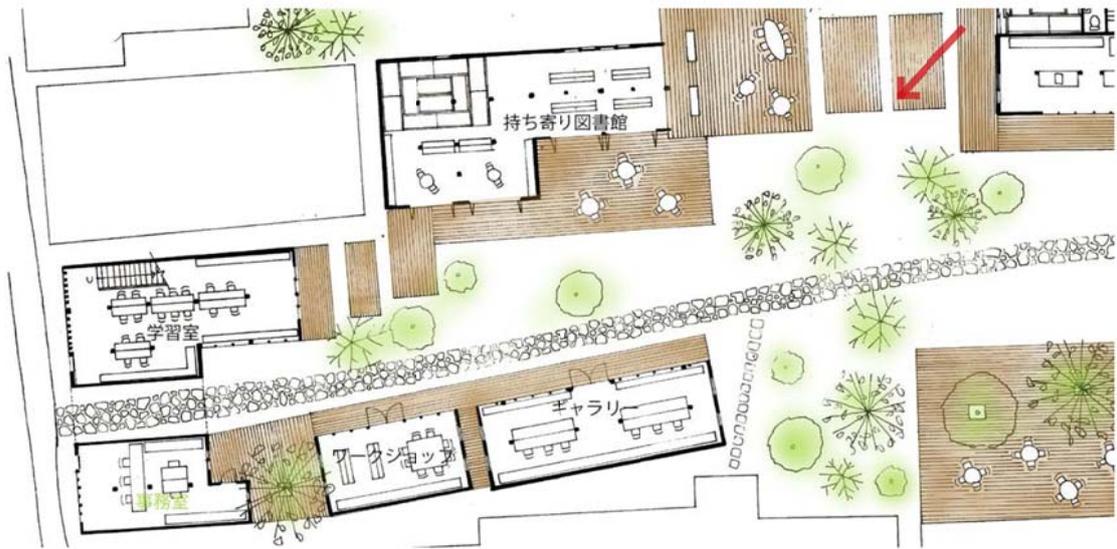


## Step 2

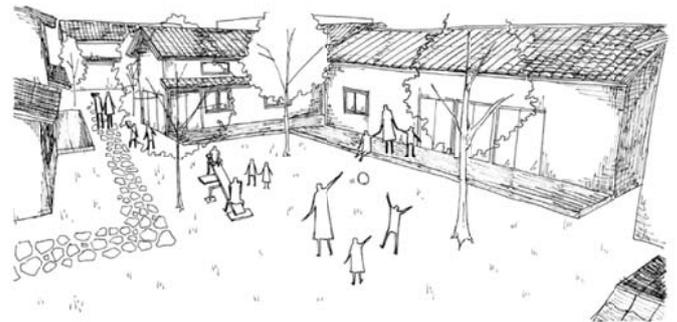
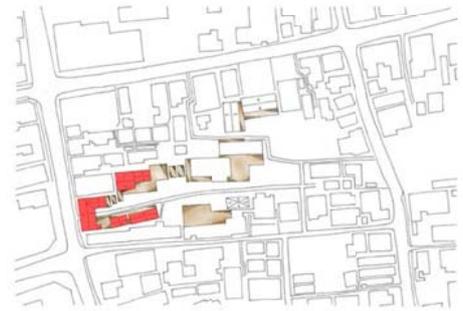
### 地域に開けた機能

Step 0 Step 1 Step 2 Step 3

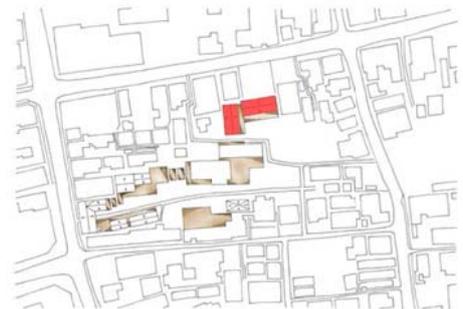




図書館



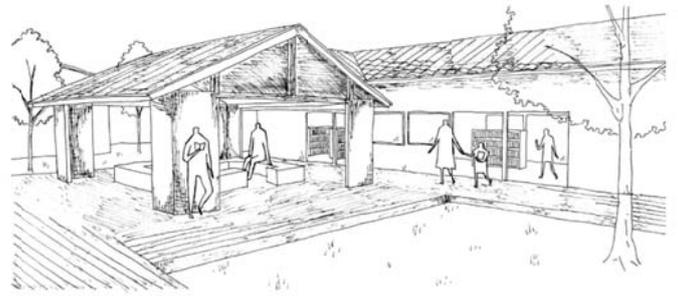
児童館



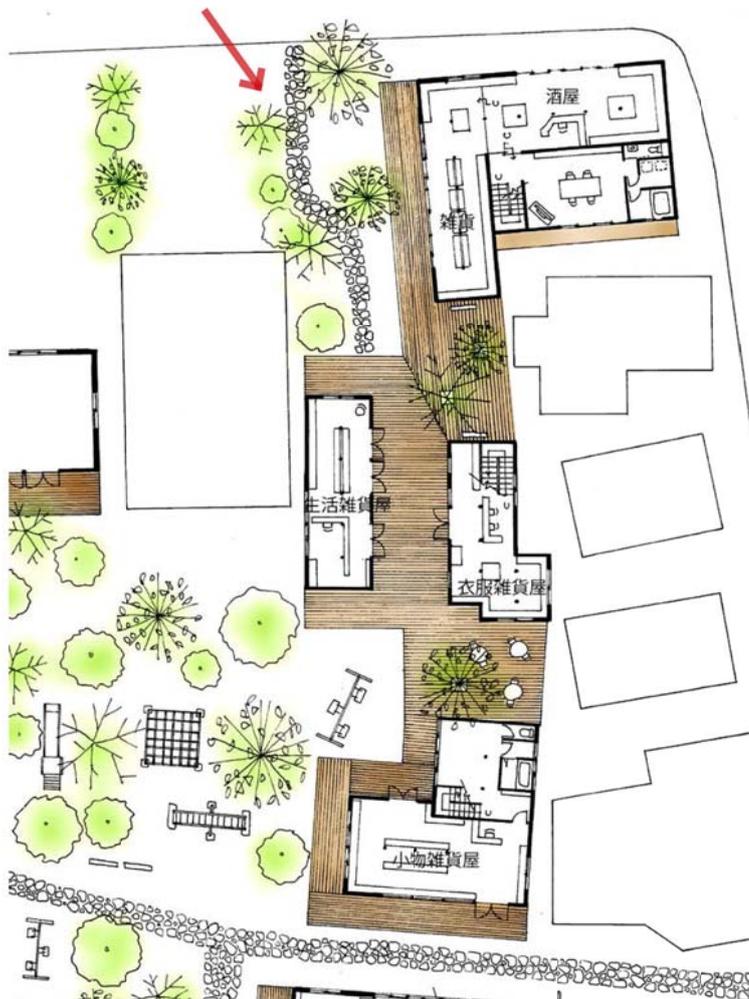
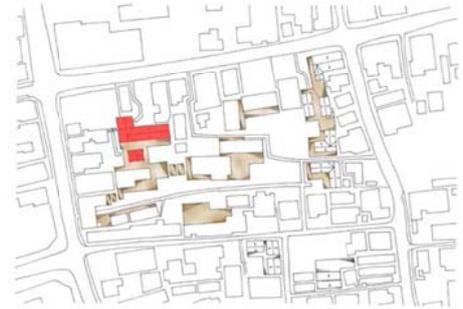
## Step 3

### 街区内への誘致と街区外への広がり

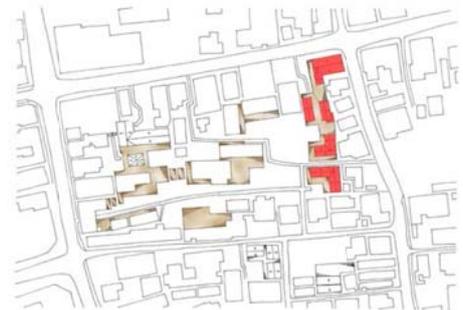




東屋と書店



店舗群





ご清聴ありがとうございました

# 民家の再生

2015.02.07

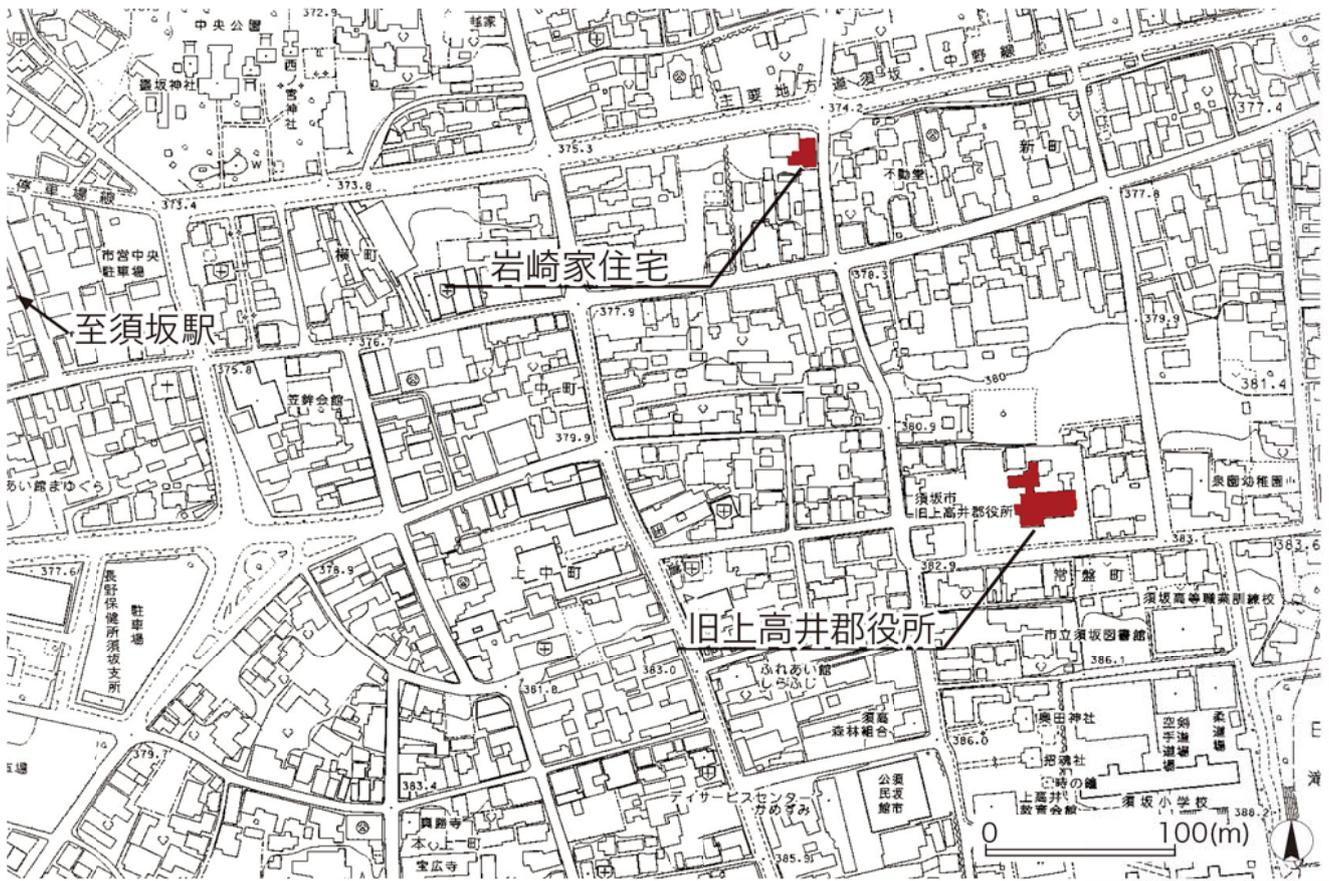
信州大学 工学部 建築学科

## ■課題内容

須坂の町家を再生せよ

## ■再生条件

- ・多世代の家族が住まうことのできる集合住宅であること。  
ただし、家族構成は自由、店舗や公共施設を含めても良い。
- ・なるべく既存を活かし、大規模な増築はしないこと。  
ただし、古いものにこだわりすぎないこと。



対象民家の位置

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



建物外観

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



建物外観

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



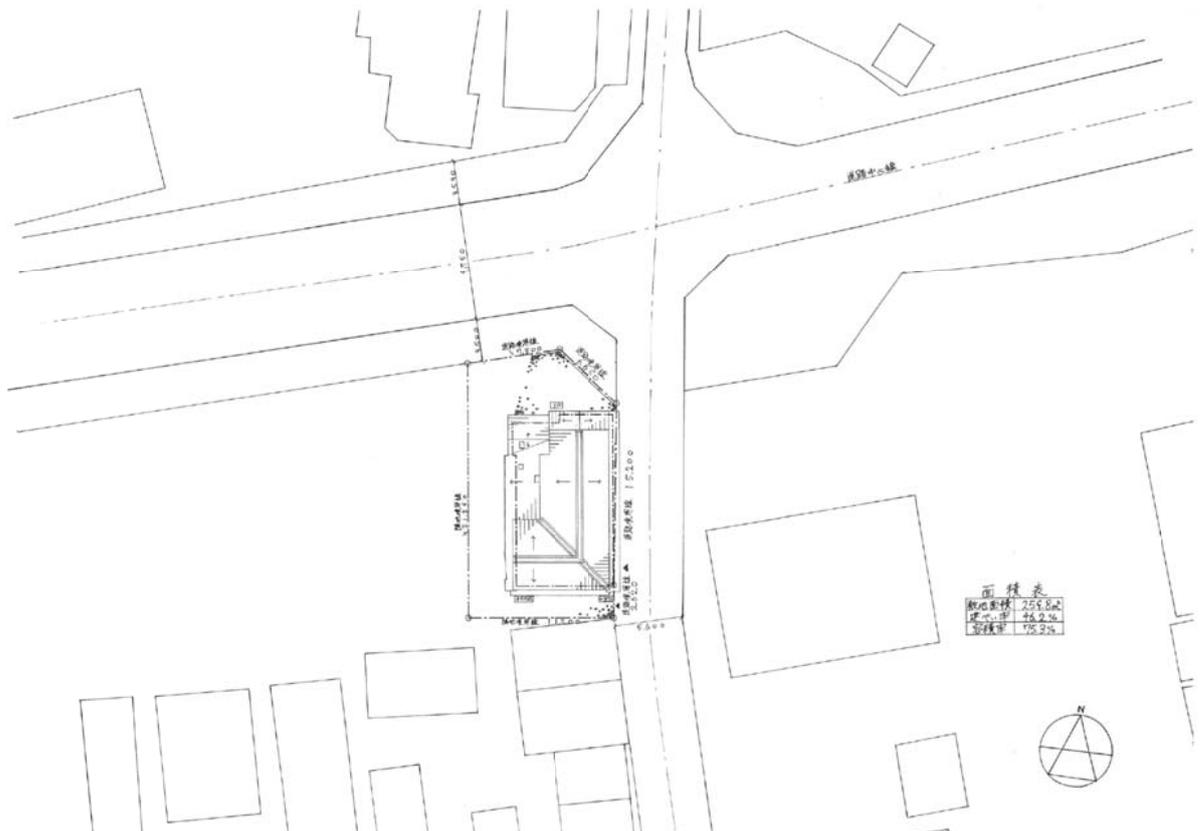
実測風景

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



実測風景

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



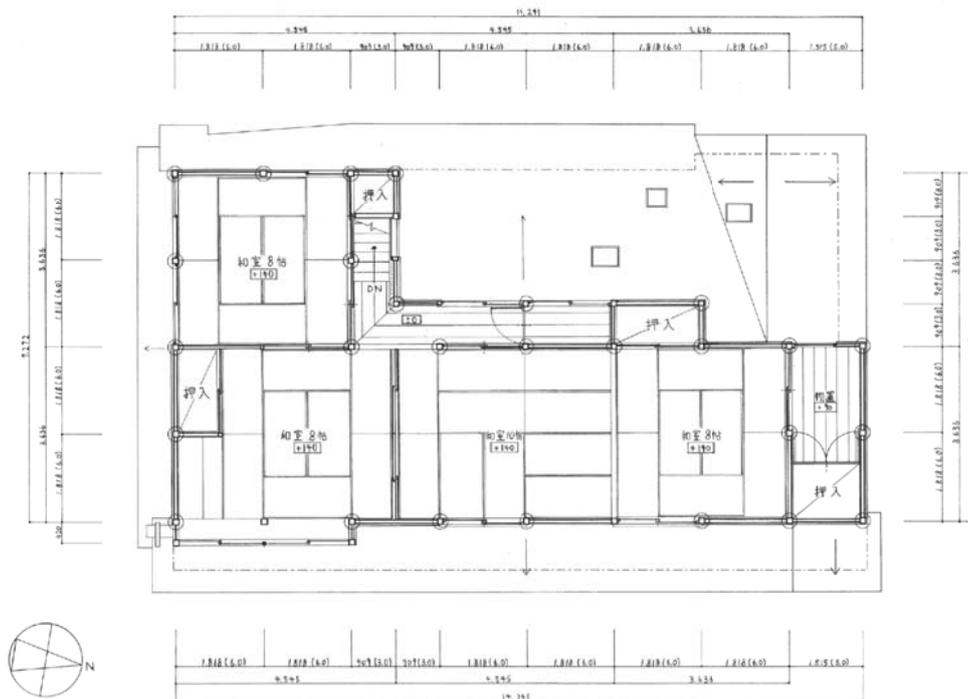
周辺配置図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



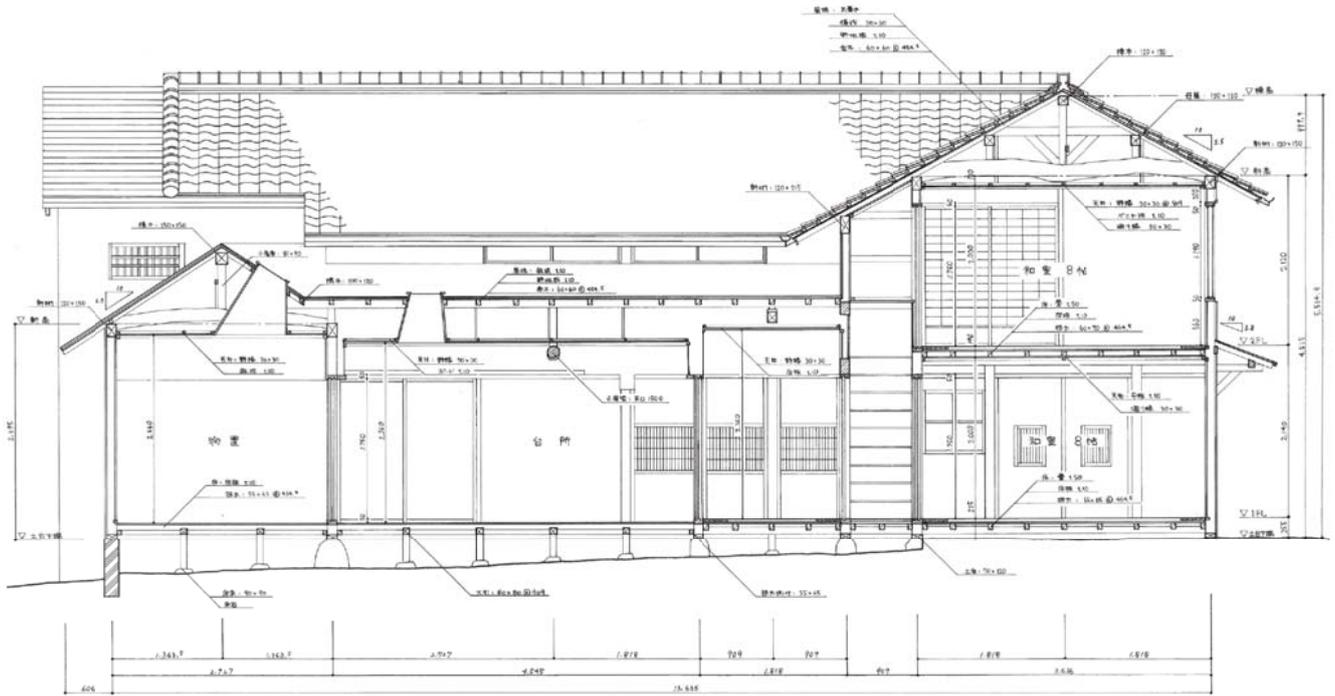
1 階平面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



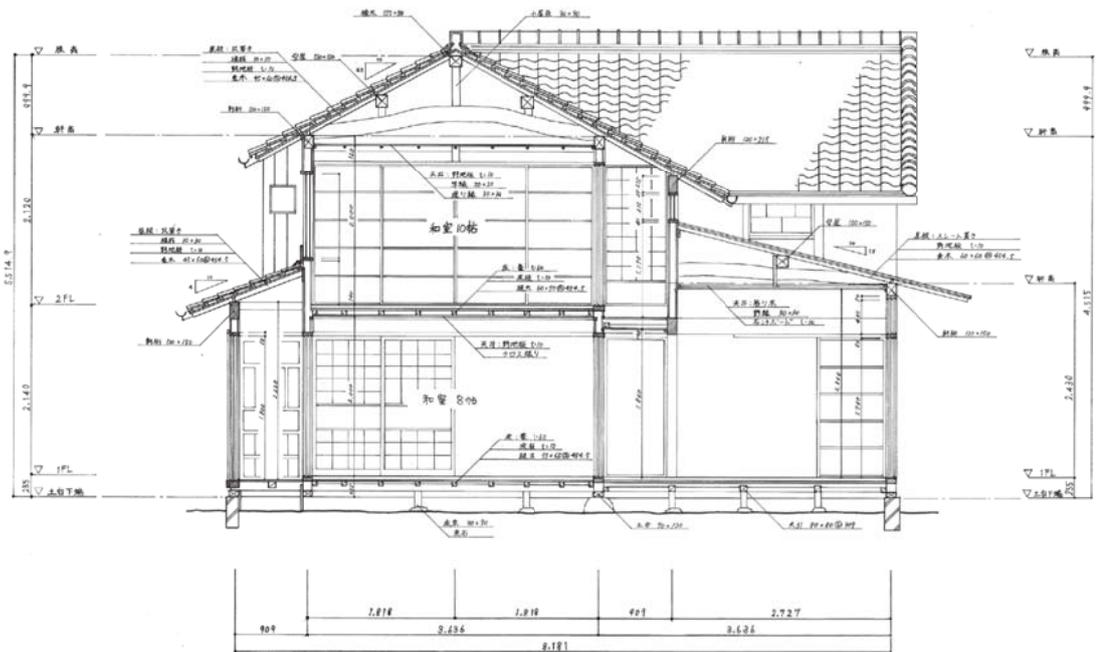
2 階平面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



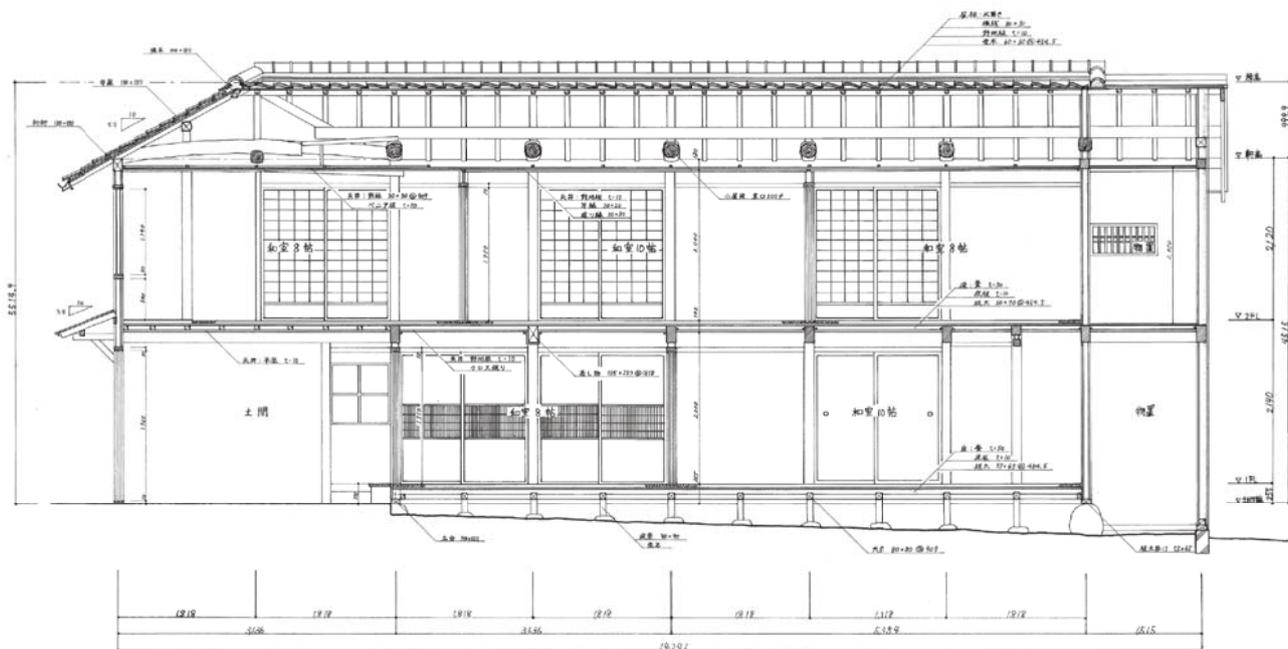
矩計図 (梁間)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



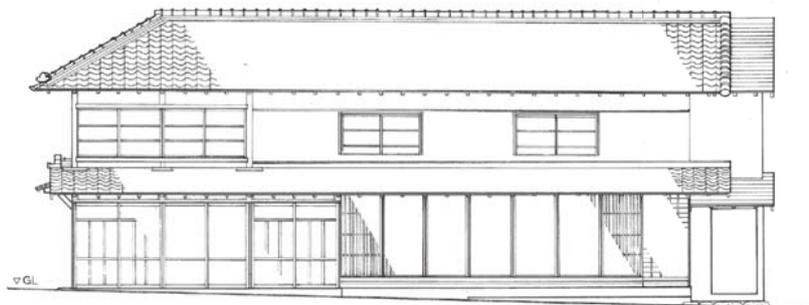
矩計図 (梁間)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-

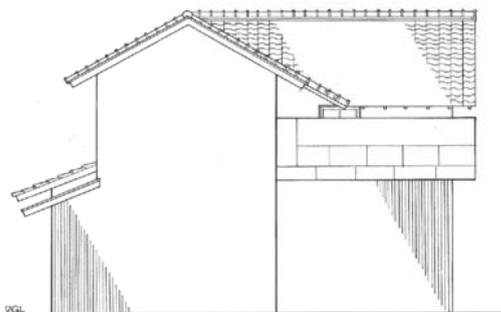


矩計図 (桁行き)

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



東立面図



北立面図



南立面図

立面図

民家再生 -岩崎家住宅再生計画-



# ちょっくら直売所

信州大学3年 近藤岳弘

## テーマ/プログラム

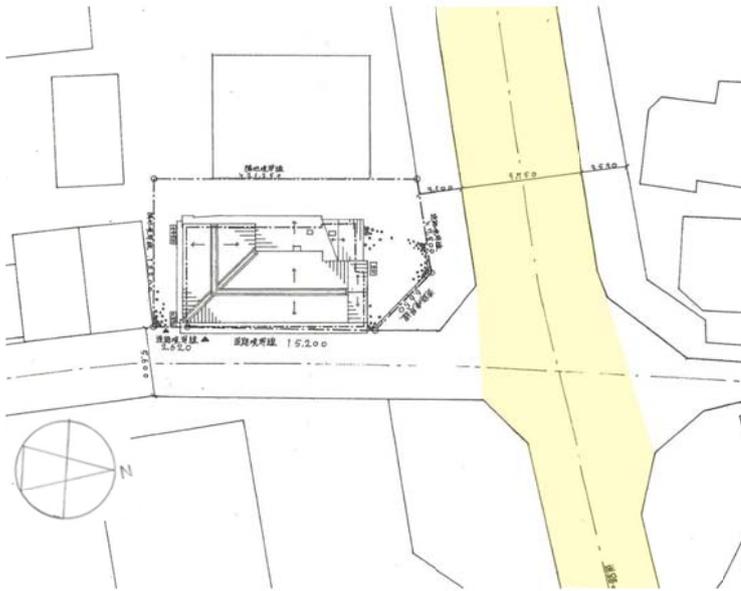


### 「集合住宅に直売所と料理教室」



- ・須坂市は立地の良さから果物の王国と称される
- ・高齢化や若者の減少から離農者が増え、産業が衰退しつつある
- ・産業の活性化を目標に地産地消を促す拠点として「直売所」を設けたい
- ・購入してすぐ帰るのではなく、「地産地消の料理教室」を併設することにより、農家直伝の調理法を教えたり、地域の人が立ち寄って談笑できる環境を目指し地域ににぎわいを出したい。

# 配置



対象敷地

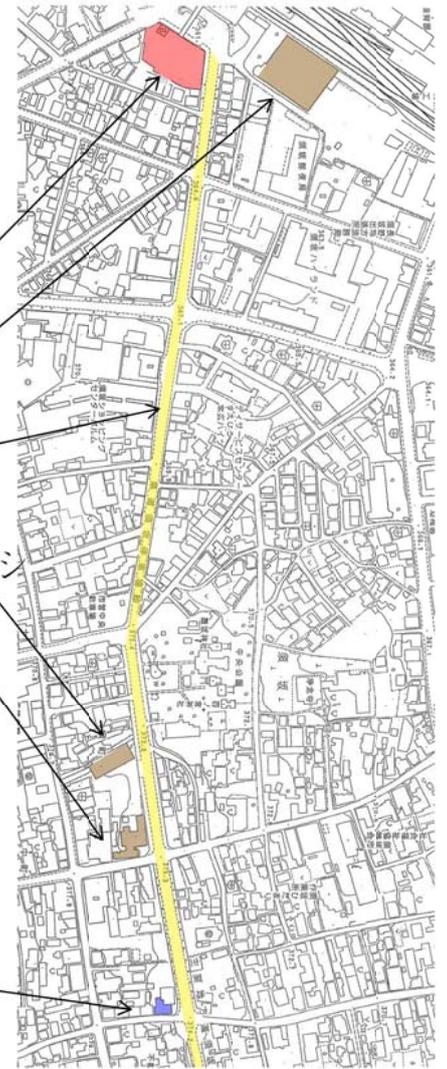
現在地

イオン

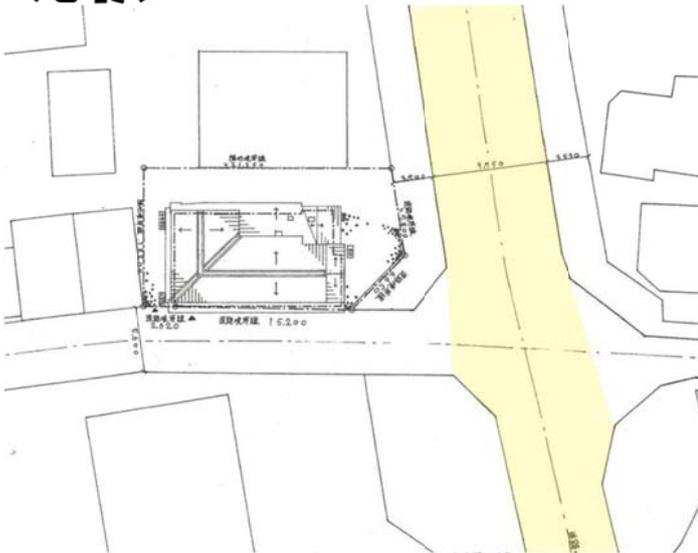
駅前通り

マツモトキヨシ

旧小田切家  
住宅



# 現状



- ・駅前通りと細道に面し、その分人通りが多い
- ・集合住宅にする際、  
建物の広さが少し足りない？
- ・他2面は建物に近接し、増築する際、  
明かりの確保が難しい？
- ・南北に向かい低くなる傾斜

# 方針

古いものを尊重せず、  
ただ広さを確保しただけの増築



新築とあまり変わらない



古い部分を尊重し、広さを確保するため、  
生活の一部を外部にあふれ出させて増築する  
あふれ出し部分を地域の人との交流につなげる

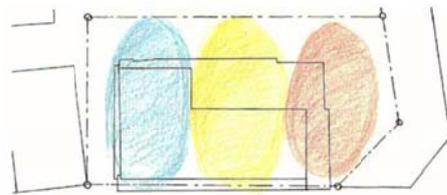


無理のない増築から見える、古いものと新しいものの融合

## できるまでの流れ (ダイアグラム)

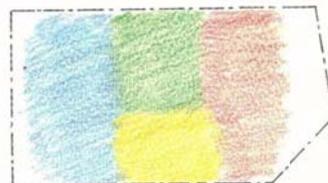
### 1.「分析」

地域に開けている空間(パブリック)  
住む人のための空間(プライベート)  
2つが混ざる空間(中間領域)



### 2.「光庭」

2つが混ざる空間(中間領域)に  
光庭を設け通風、採光の確保

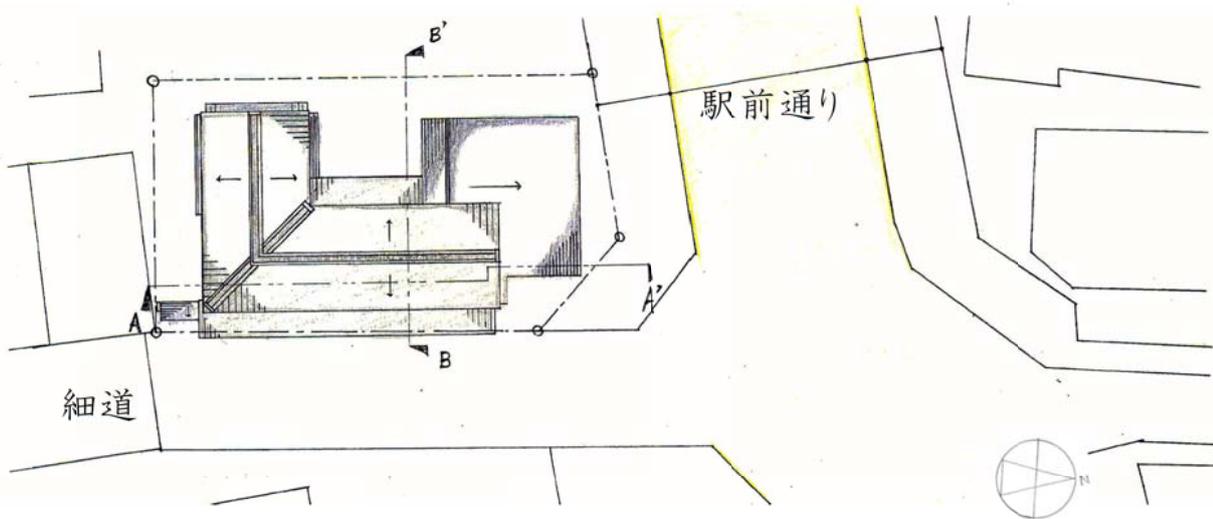


### 3.「つなげる」

庭に奥行をつけ、回遊性の向上。  
3つの領域がつながり、傾斜の  
吸収と生活の一部のあふれ出し  
を行う



# 再生案の配置



- プライベート
- 中間領域
- パブリック
- 庭

集合住宅 + 直売所 + 料理教室

家族構成

農業を営む老夫婦	2名	
農業を営む若夫婦	2名	
料理教室を営む夫婦	2名	
子供	2名 × 2	計10名

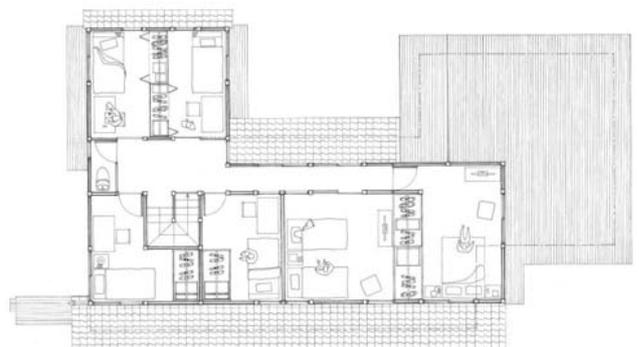
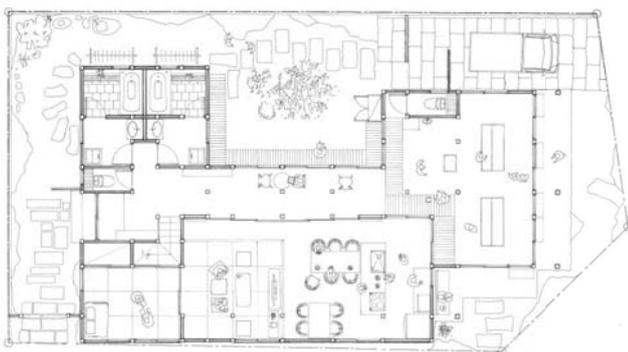
## 再生後1階/2階の概要説明

### 1階

- ・ 地域の人に来ることができて、談笑、交流のスペース
- ・ 住む人が集まれる生活の場

### 2階

- ・ 住む人が主に寝るために使う場



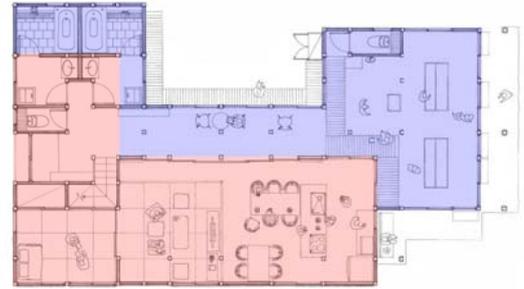
# 1階平面 再生案

- ・既存のL字型は残す
- ・以前増築された部分を改築

■ 残す  
■ 改築

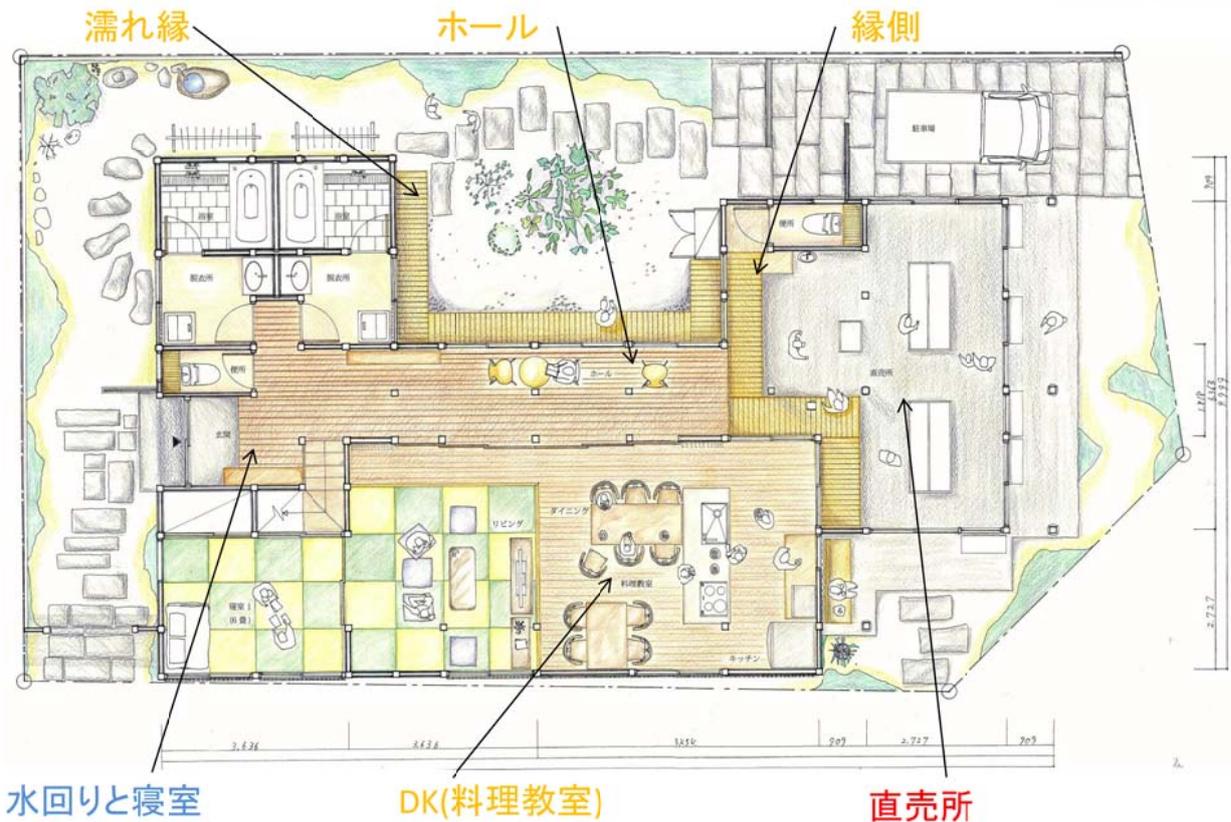
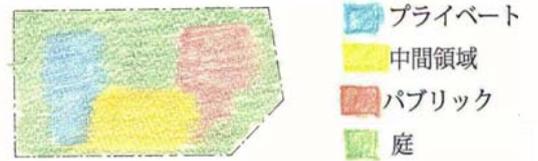


既存



再生

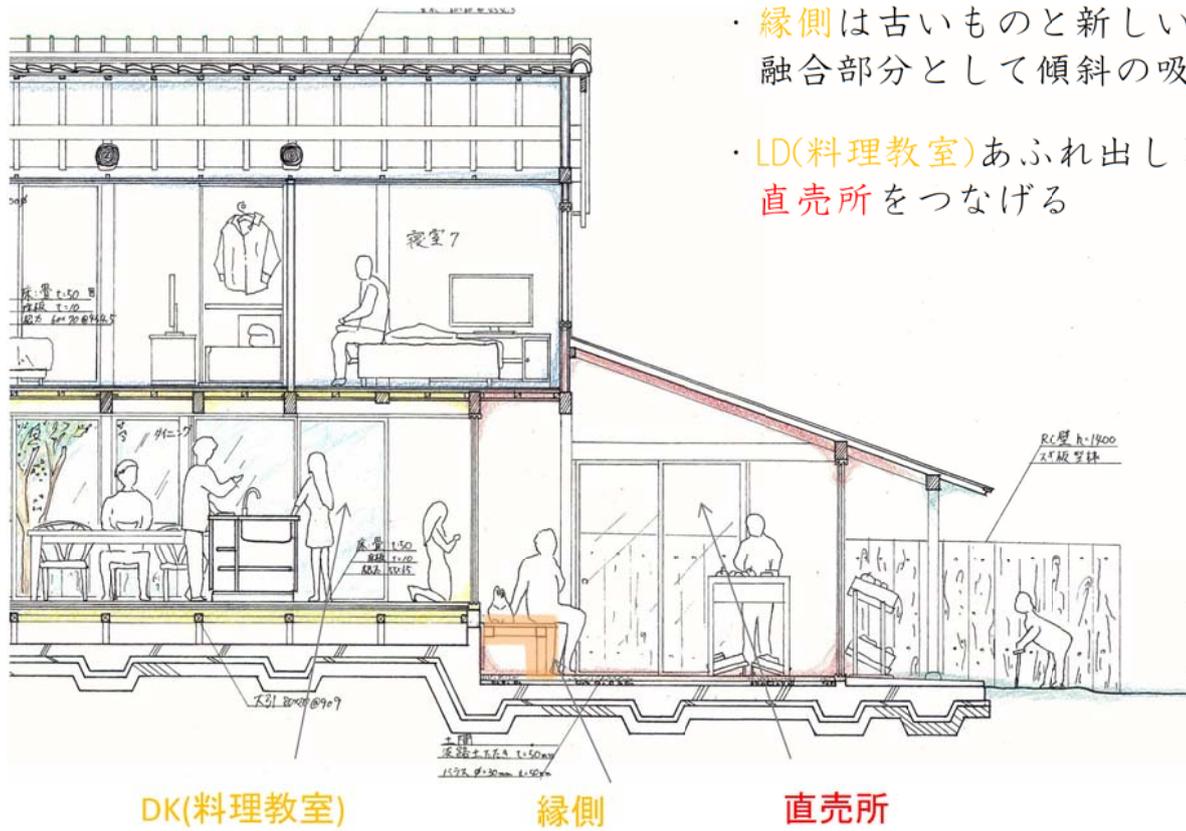
# 1階平面 再生案



水回りと寝室

DK(料理教室)

直売所



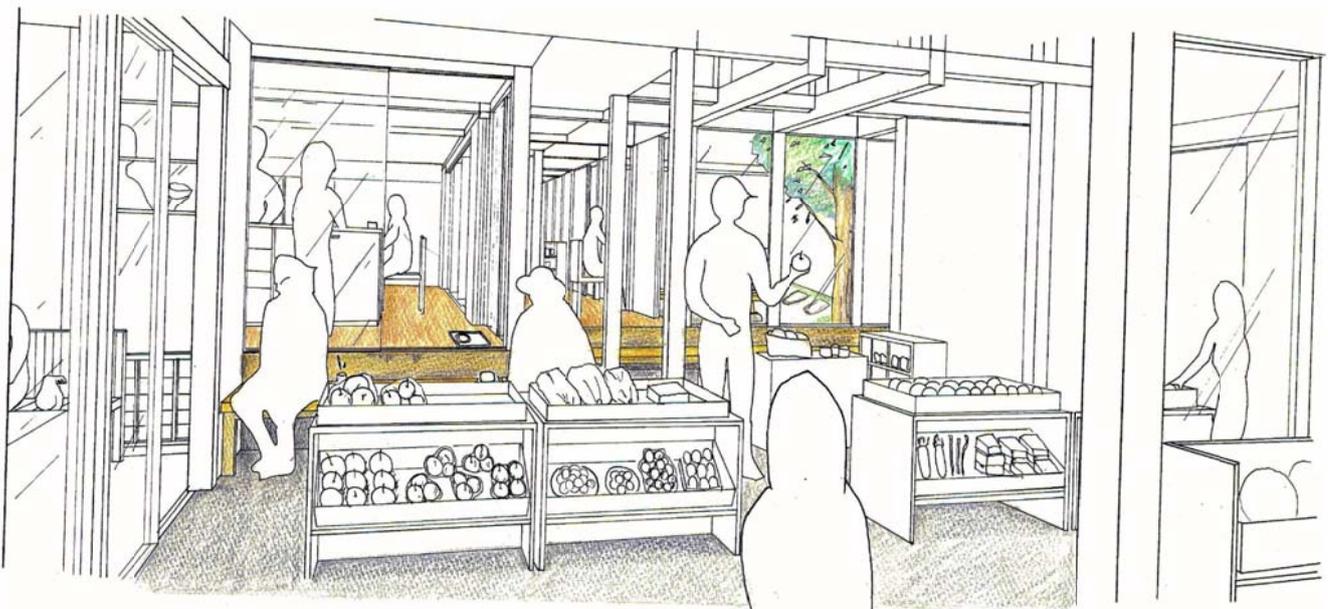
- ・ 縁側は古いものと新しいものの融合部分として傾斜の吸収を行う
- ・ LD(料理教室)あふれ出しと直売所をつなげる

DK(料理教室)

縁側

直売所

# 1階平面 再生案

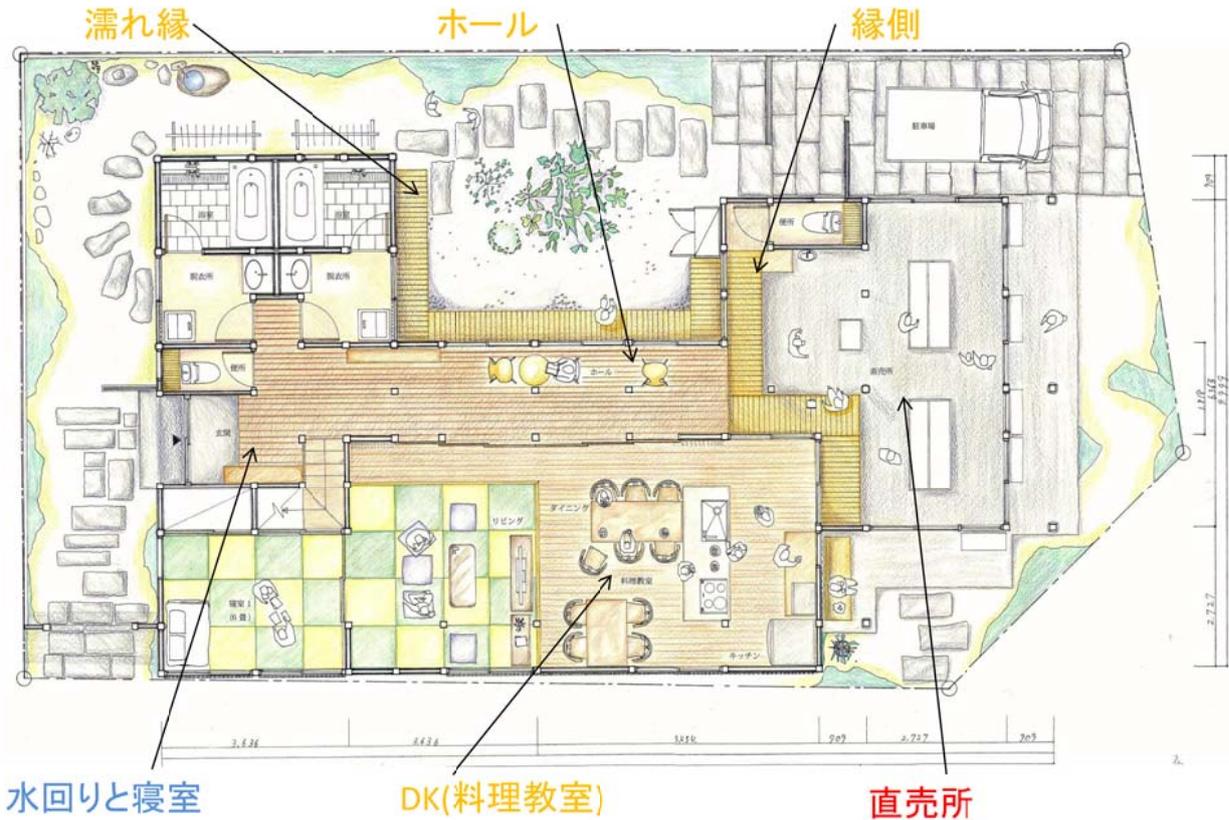
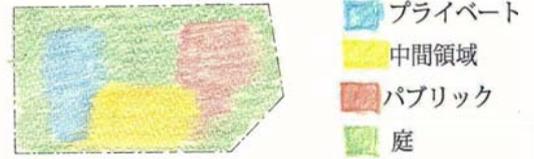


直売所の風景

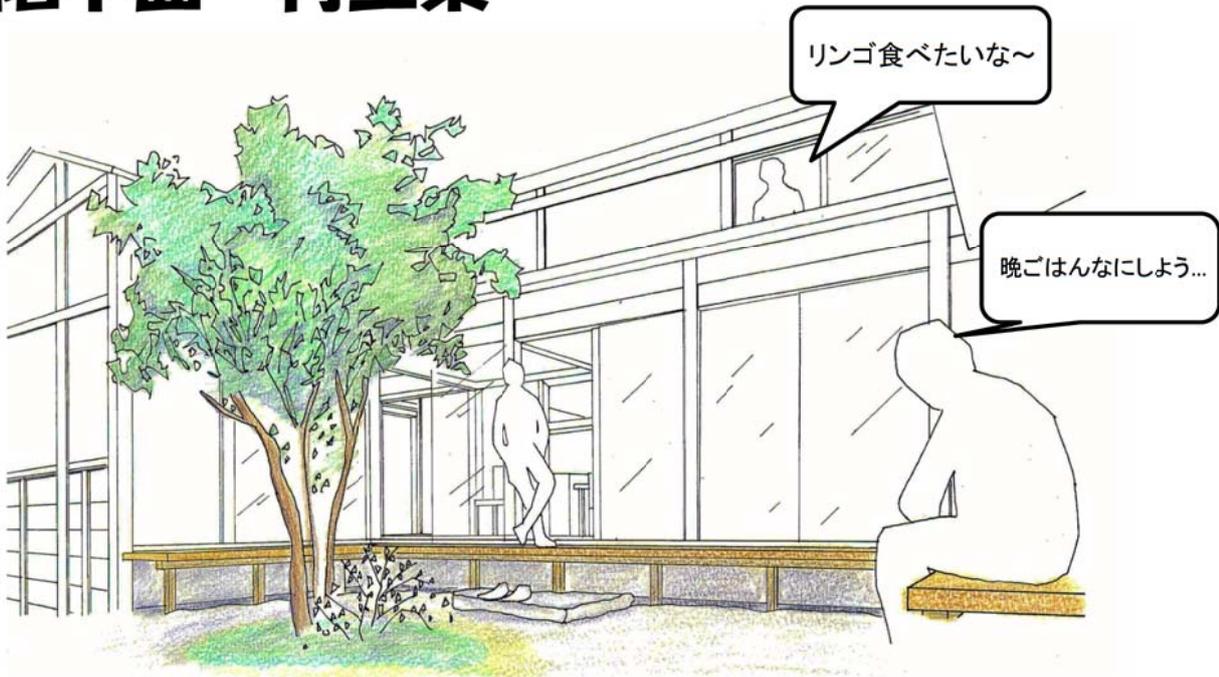
- ・ 直売所から料理教室/ホール/庭を眺める



# 1階平面 再生案



# 1階平面 再生案



庭の風景

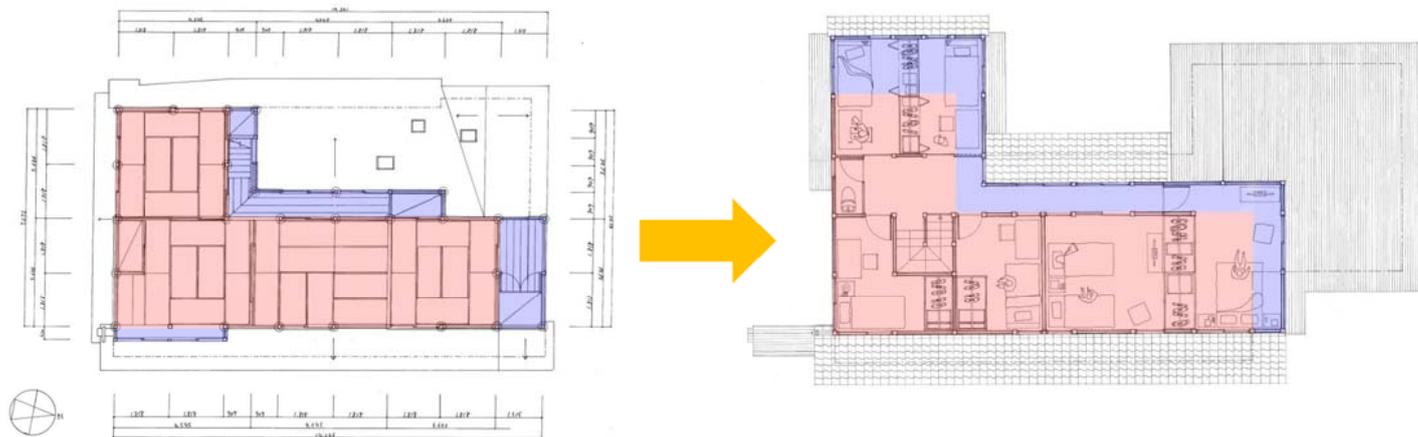
・居住者と庭



# 2階平面 再生案

- ・既存のL字部分は残す
- ・最低限の増築

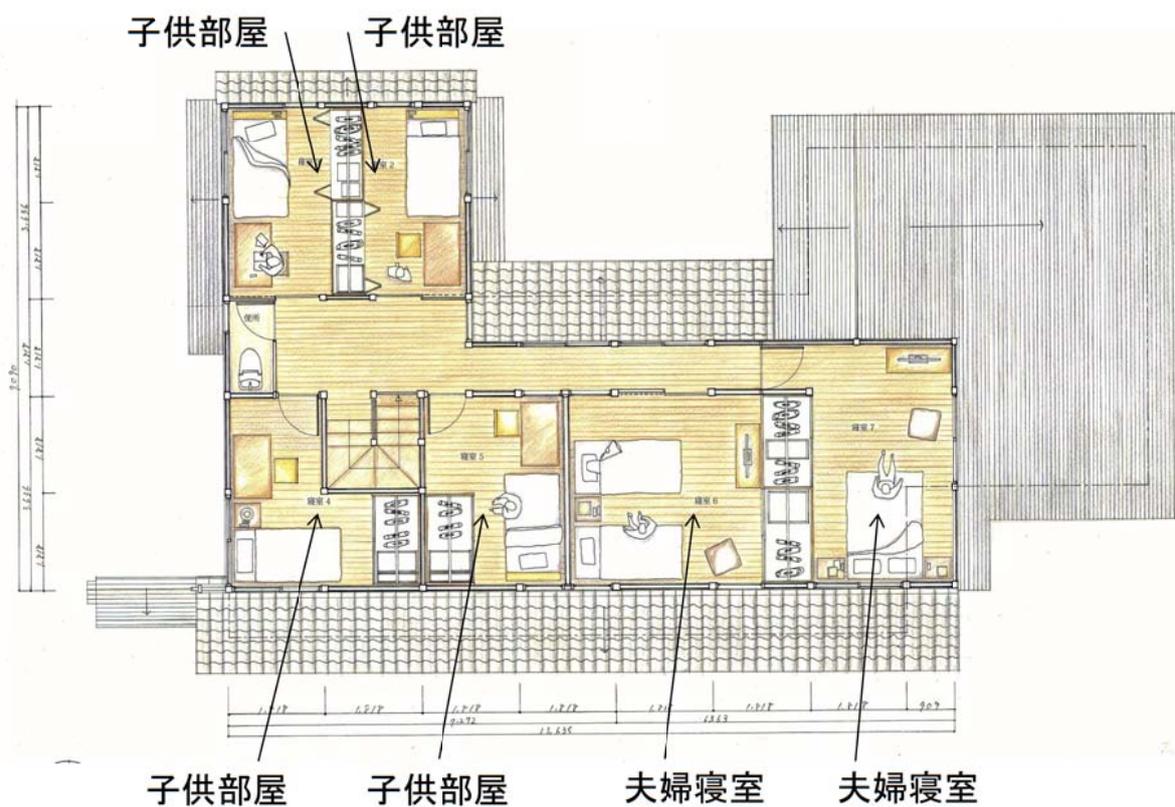
■ 残す  
■ 改築



既存

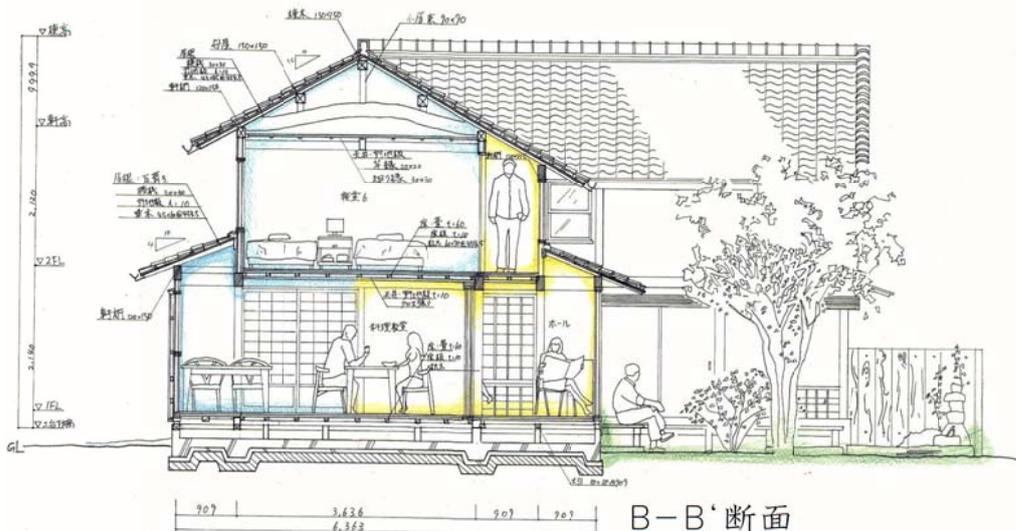
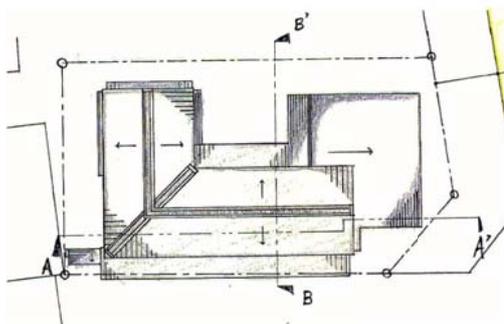
再生

# 2階平面 再生案



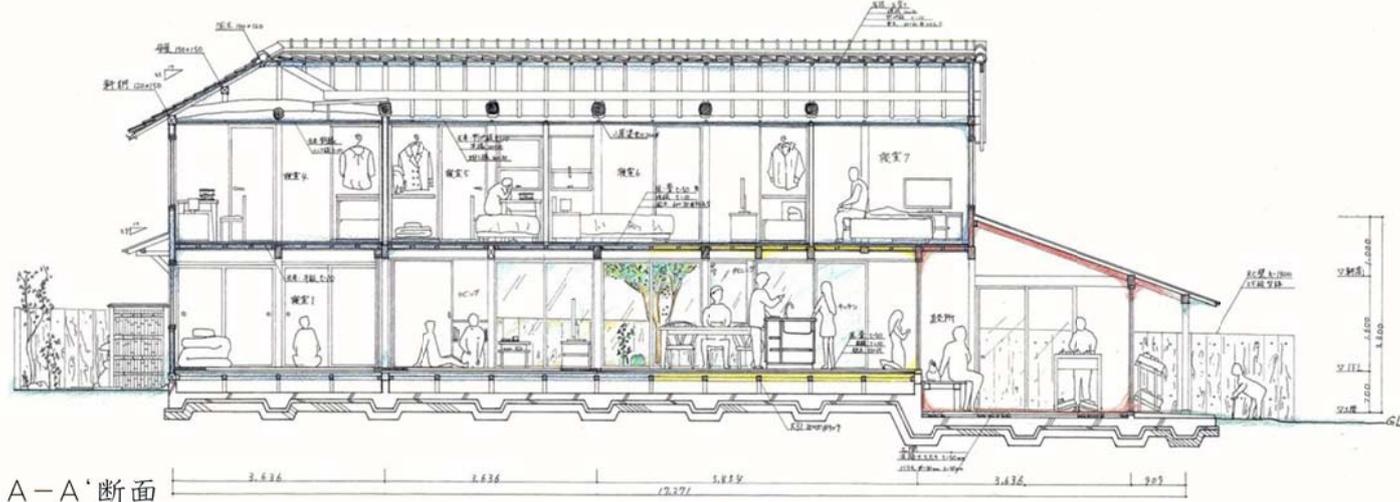
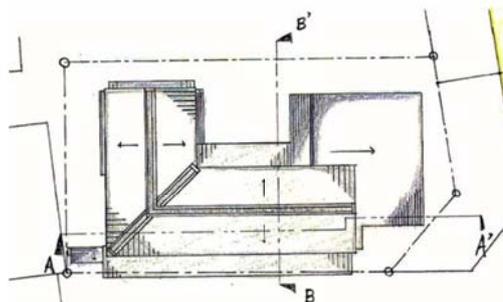
# 断面計画

- プライベート
- 中間領域
- パブリック
- 庭

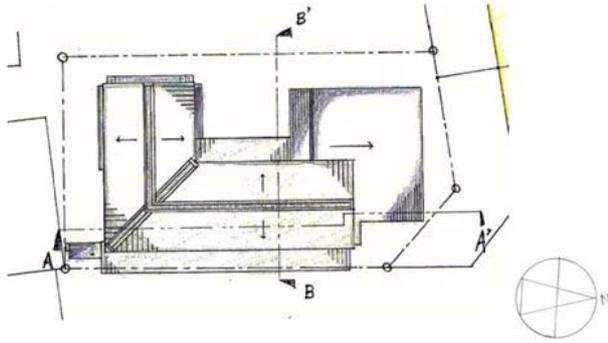


# 断面計画

- プライベート
- 中間領域
- パブリック
- 庭



# 立面計画



北立面図



西立面図

2階部分は極力増築しない



地域に庭があふれ出す

以上の再生案から  
集合住宅に直売所と料理教室を併設することで  
地域ににぎわいが出てくるのではないかと思います。



おわり...

ご清聴ありがとうございました。

## スリットが切り取るアートな日常



信州大学工学部建築学科三年 鬼頭美絵

### コンセプト

須坂を歩いていると優しく話しかけてくれるおじいさんに会ったり、元気よく学校から帰ってくる小学生を見かけたりする。このまちの人は元気であたたかい。そんな人たちを結んだらきっとあたたかくて楽しい場所ができる。

民家を再生して、みんなが集まる美術教室兼下宿を開く。自然が豊かなこのまちで感性を磨きながら、コミュニティを築きながら、日常に彩りを加える。

# プログラム

## \* 住人

美術教室の講師とその家族

両親夫婦

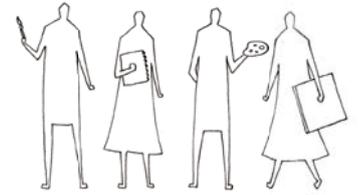
下宿に暮らすアーティスト×4



講師家族



両親夫婦



アーティスト

+

## \* 美術教室に通う人々

(小学生から大人まで年齢は無制限)

## \* アーティストインレジデンス

(各種の芸術制作を行う人物を一定期間ある地に招聘し、その地に滞在しながらの作品制作を行わせること)

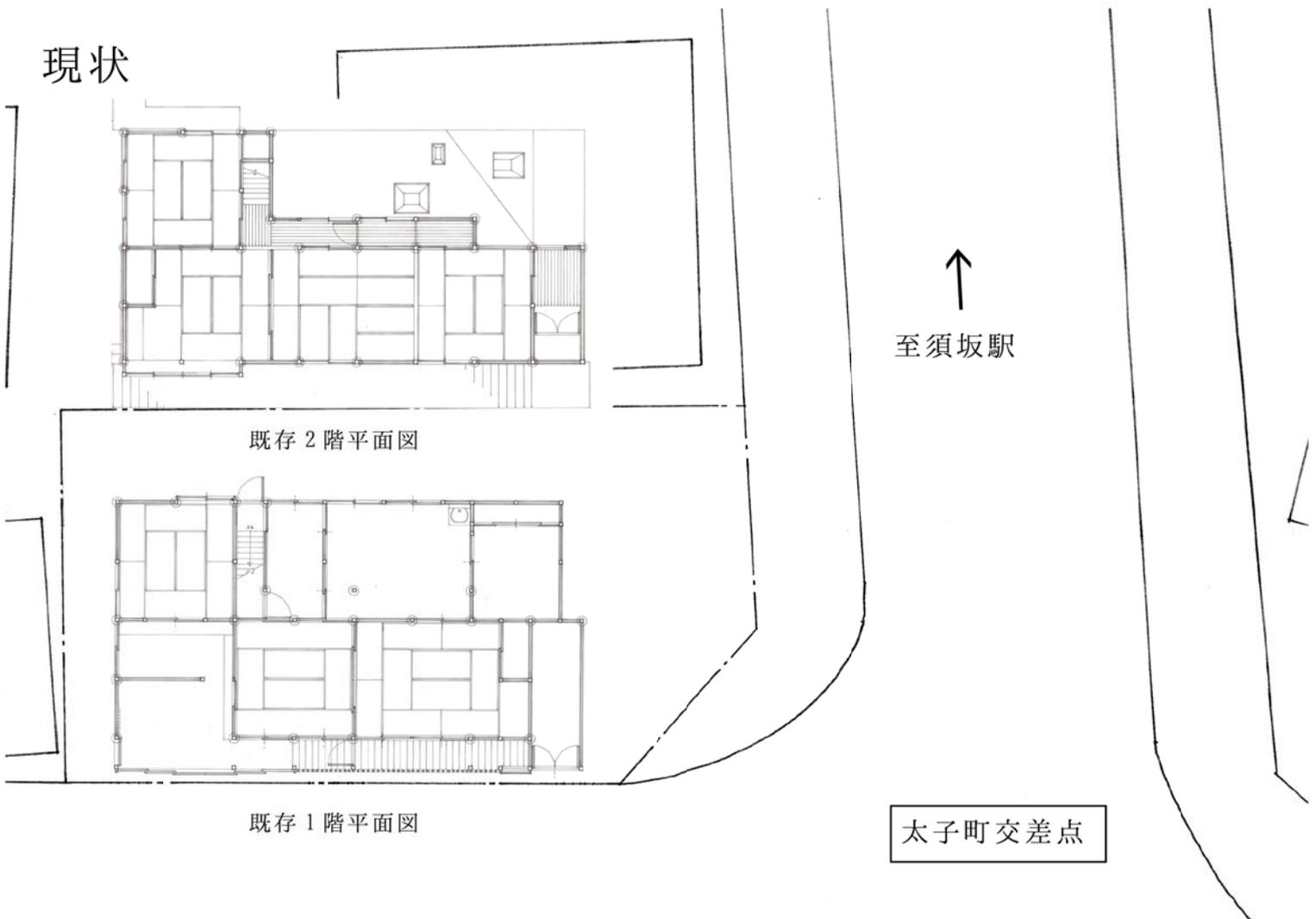


生徒たち

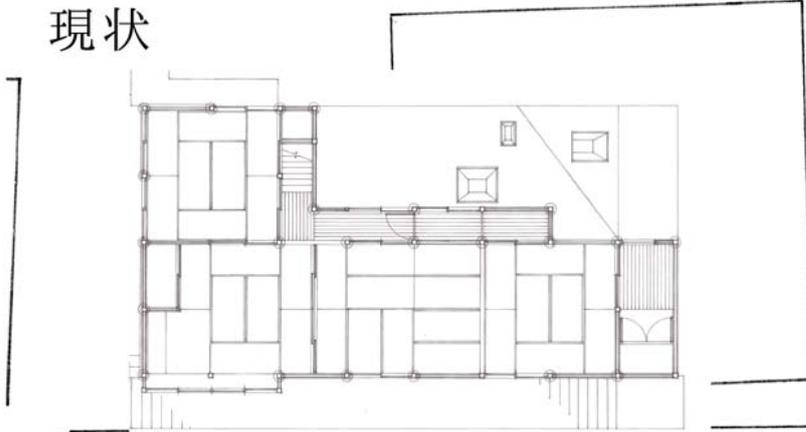


アーティストインレジデンス

## 現状



現状



既存 2 階平面図



既存 1 階平面図



交差点から見た民家。



美しい町並みを形成

現状



既存 2 階平面図



既存 1 階平面図

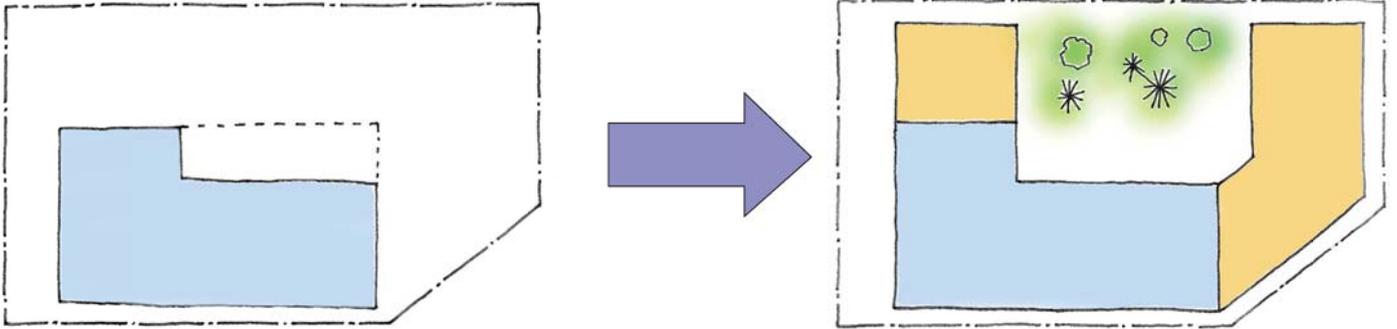


天井が低いのが特徴



道に面する渡り廊下

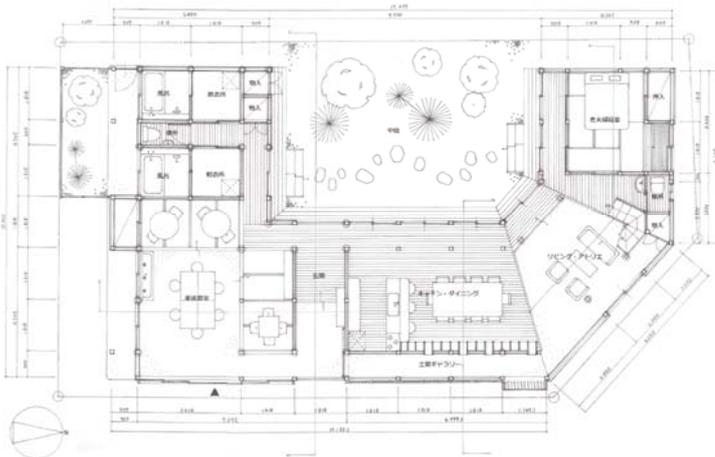
## 再生のポイント①



既存の建物の増築された部分を減築

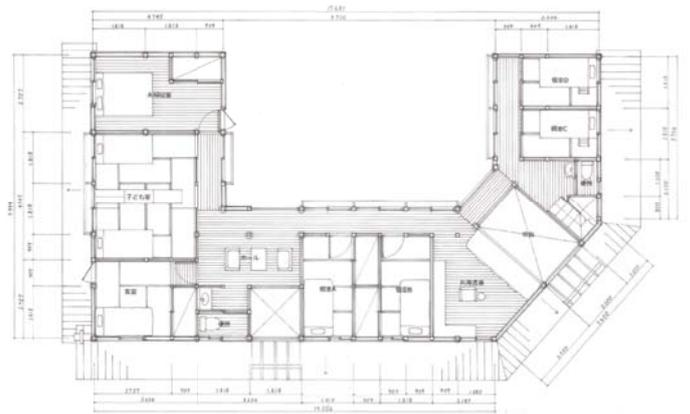
角に対して新しい面、内側に中庭を作るように増築。

## 再生のポイント②：平面構成



### 1階

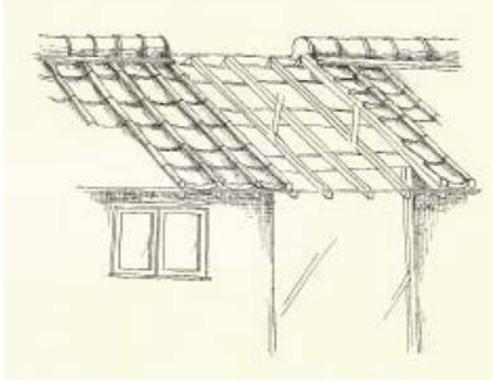
美術教室や住人のためのキッチンダイニング、リビング、アトリエなどみんなです使う空間を配置



### 2階

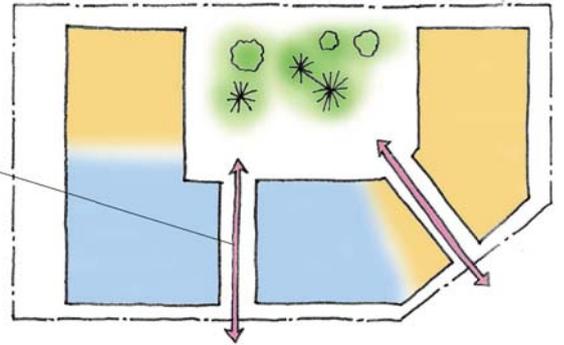
個室や共用書斎、ホールなど住民のための空間を配置

## 再生のポイント③：スリット

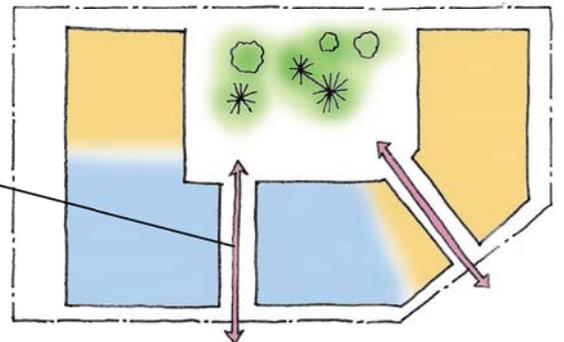


### スリット

建物の一部の骨組みを残して、ガラス張りにする。外から内側の中庭まで視線がとおり、室内には光が届く。さらに吹抜を設けることで、古民家特有の薄暗さと天井の低さに変化を持たせる。

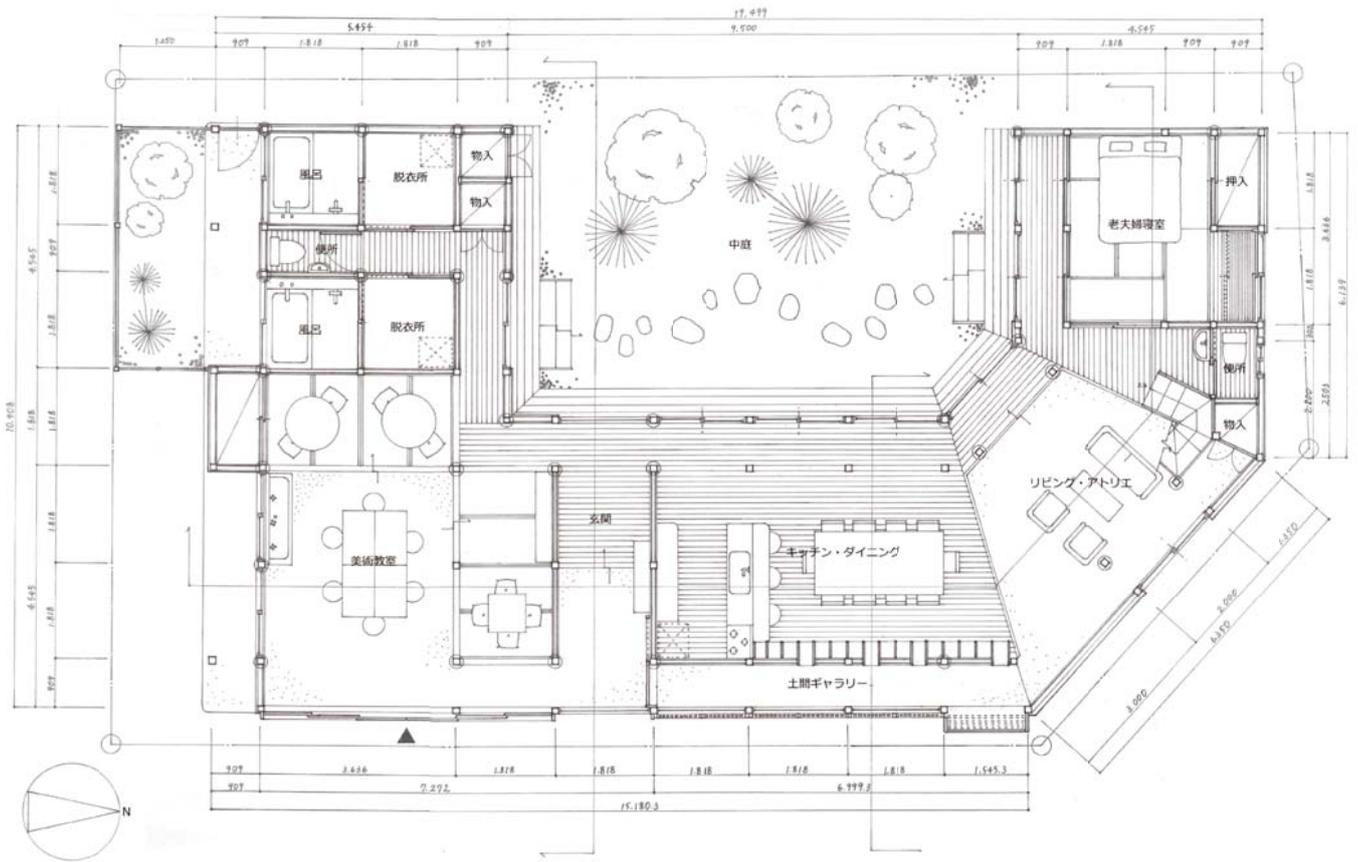


外から内に視線が抜けるようにスリットを二つ配置。室内の活動と奥の庭を切り取る。

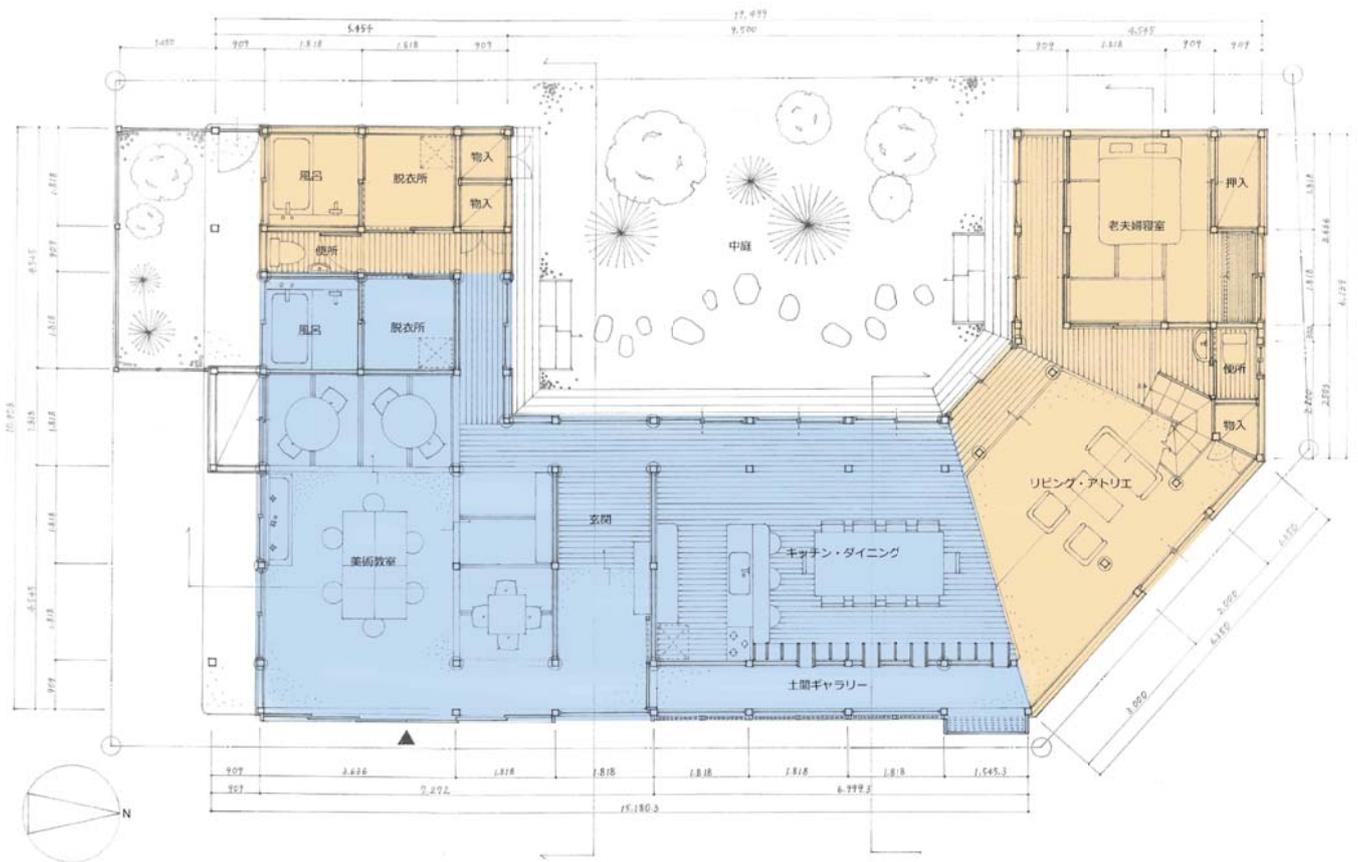


外から内に視線が抜けるようにスリットを二つ配置。室内の活動と奥の庭を切り取る。

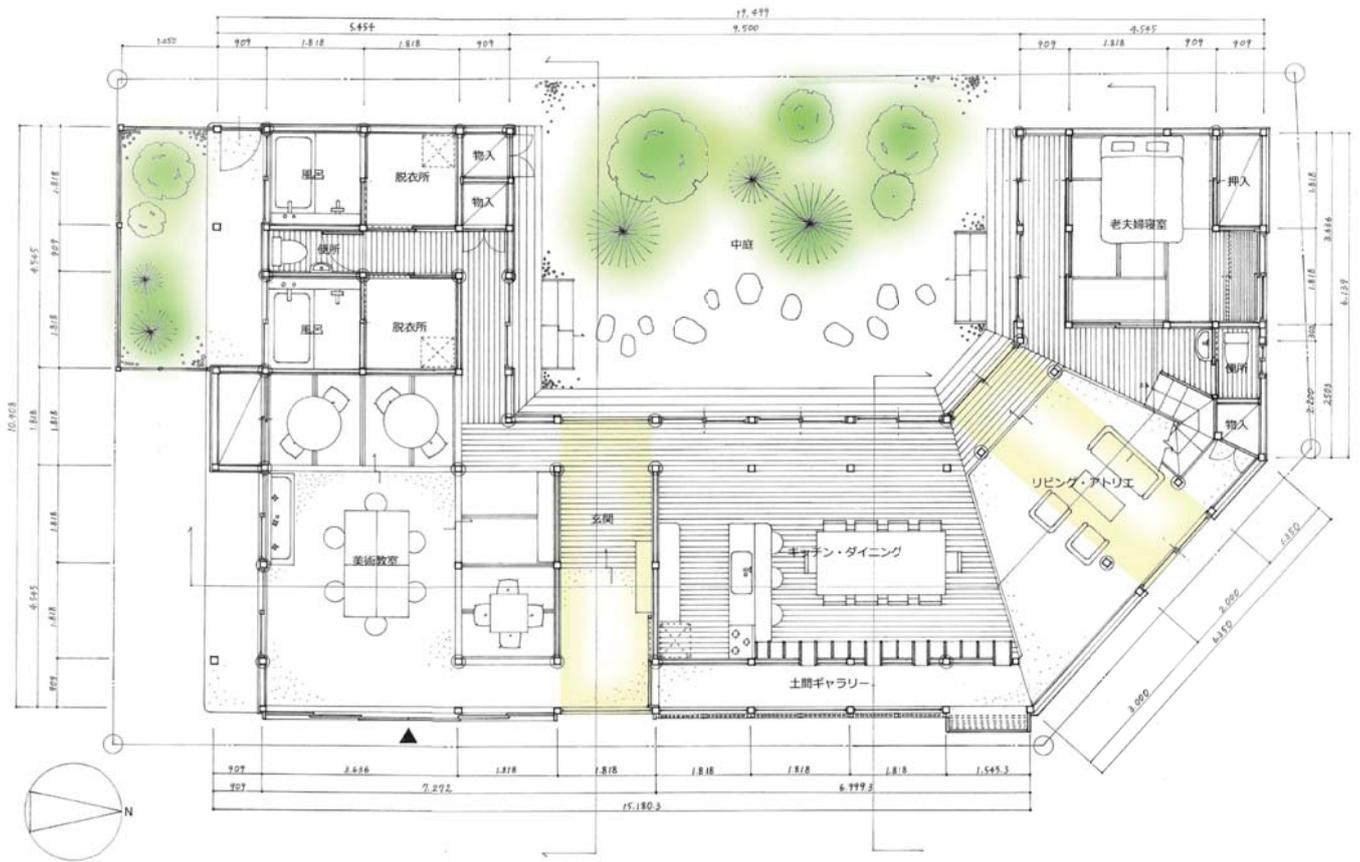
# 1 階平面図



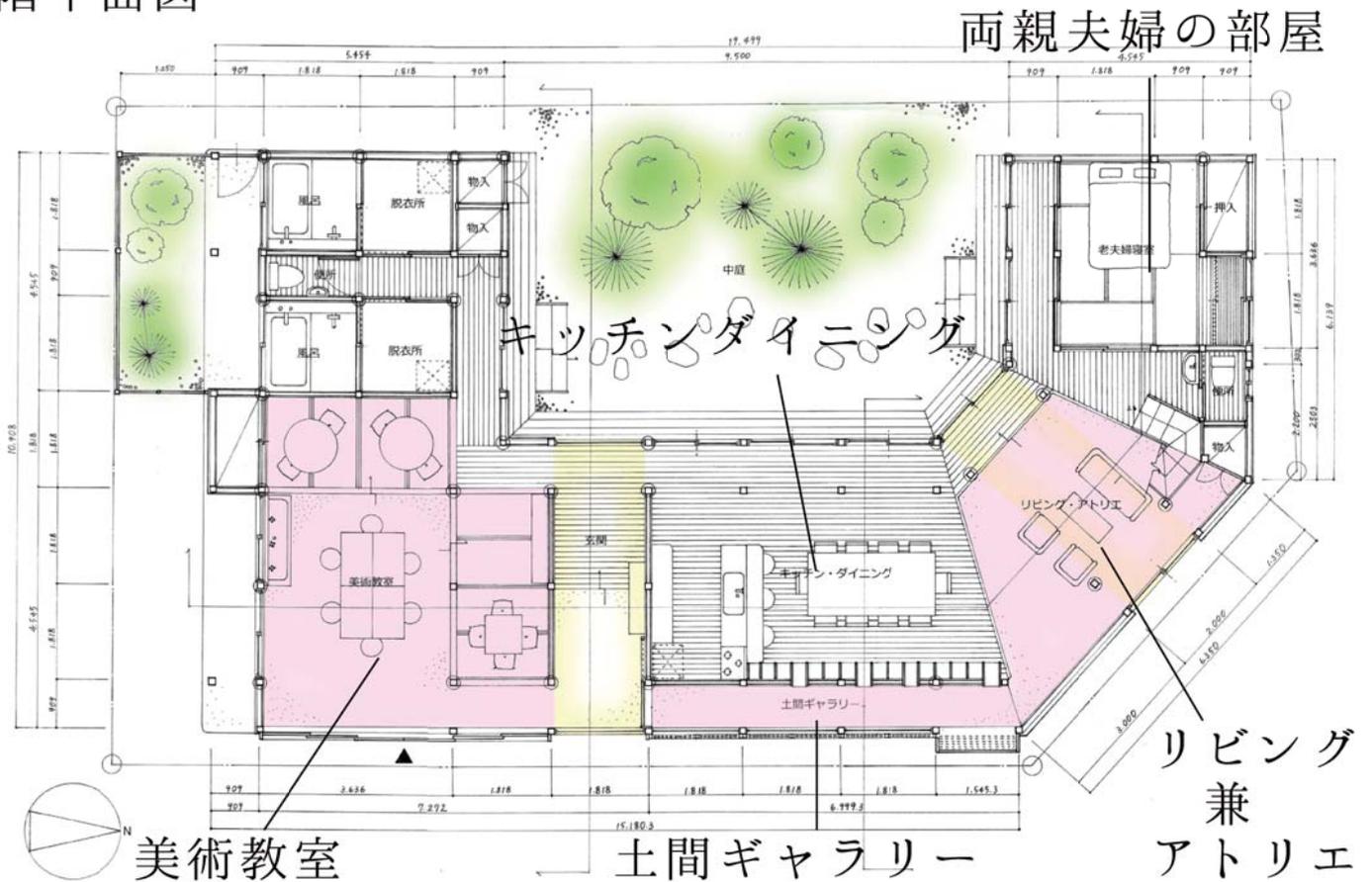
# 1 階平面図

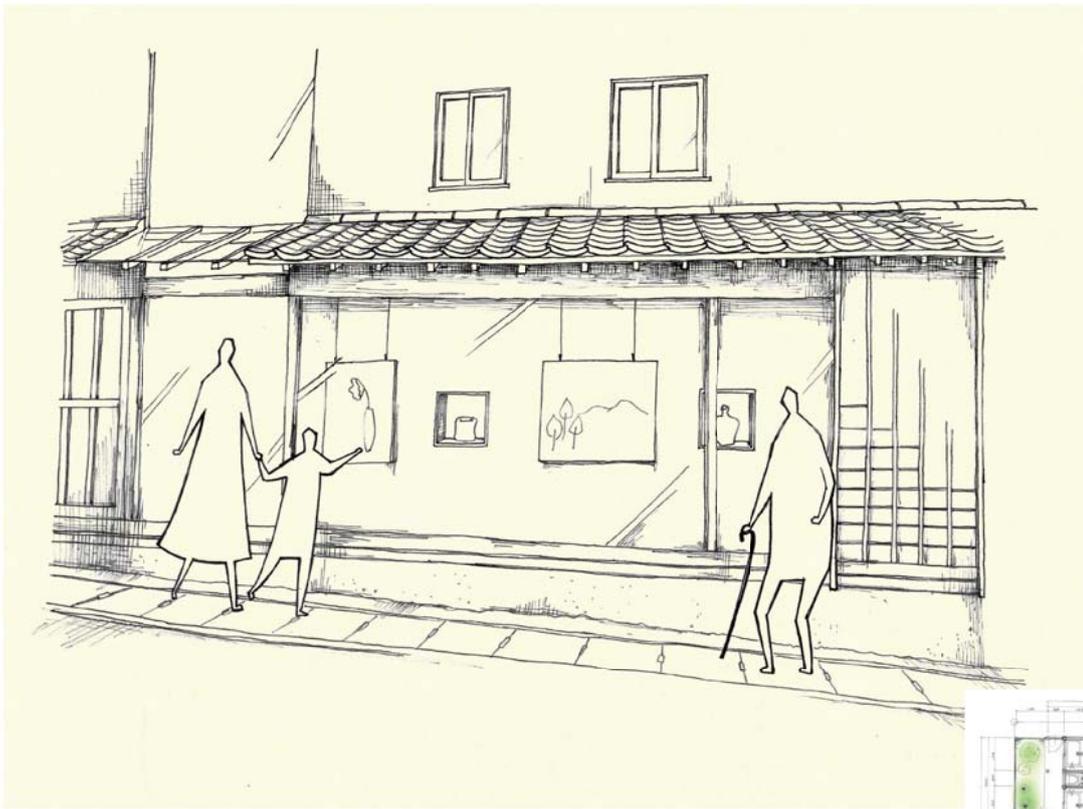


# 1階平面図

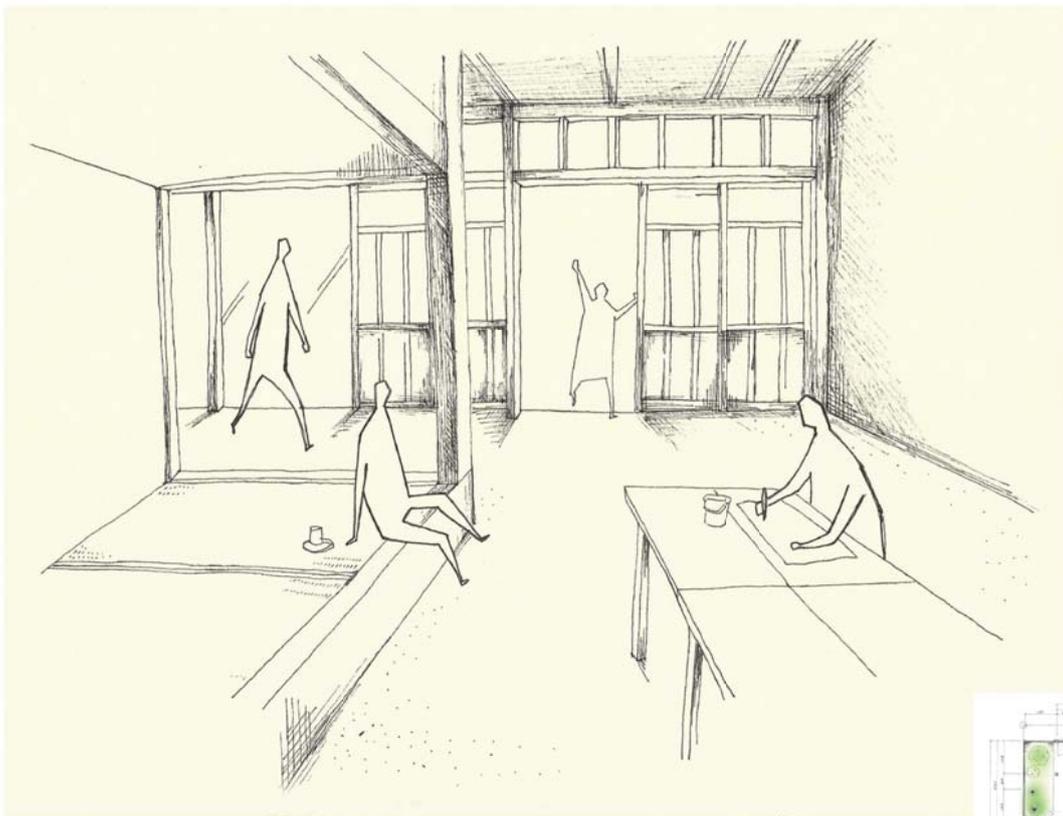


# 1階平面図

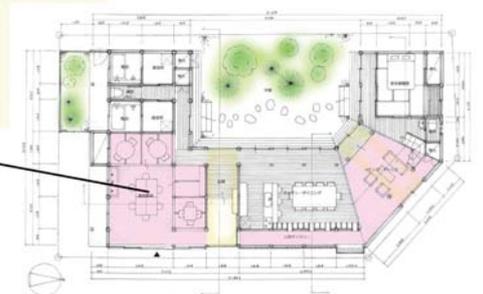




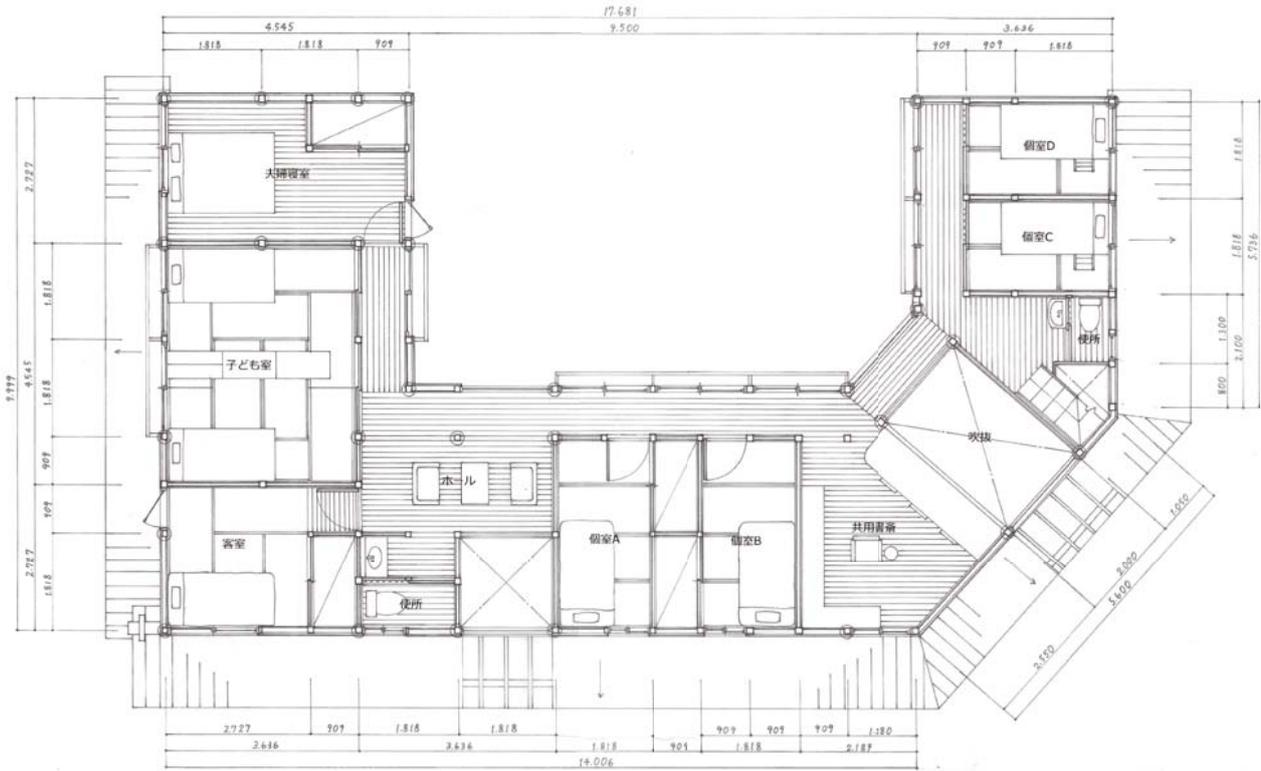
もともと渡り廊下だったところを土間ギャラリーに。  
格子戸を開け放つと通りかかった人も見る事が出来る。



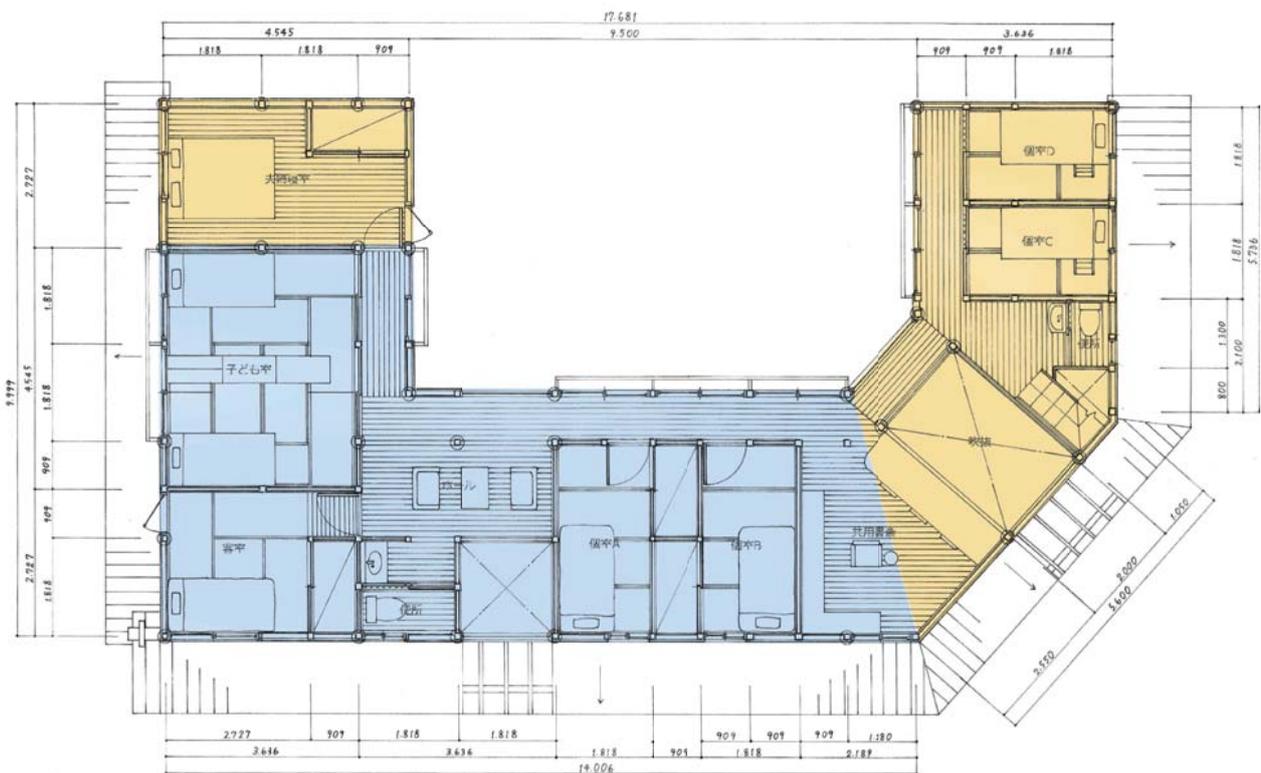
土間を再生して美術教室に。  
古民家の落ち着いたある雰囲気。



## 2階平面図



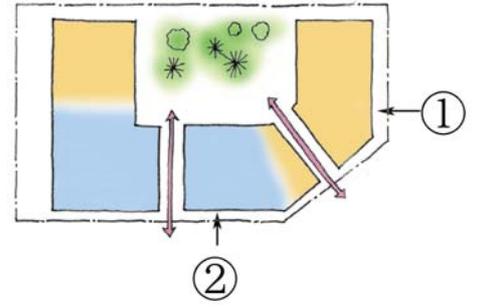
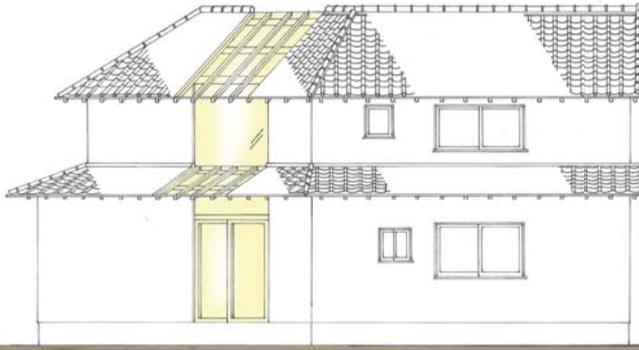
## 2階平面図



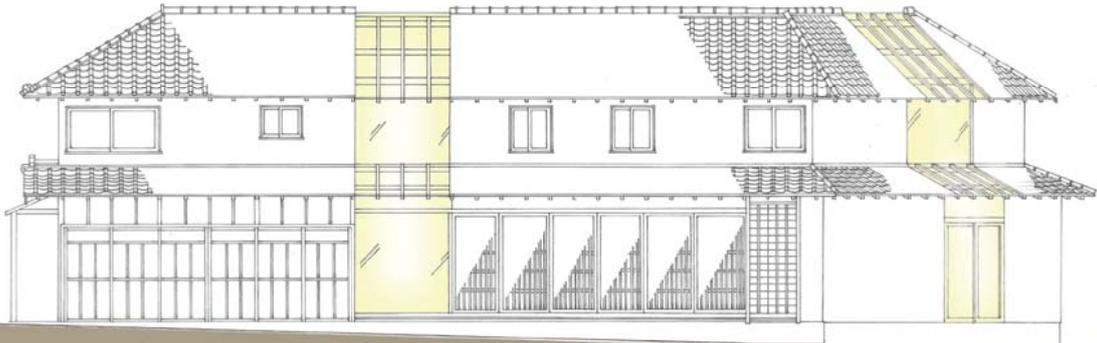




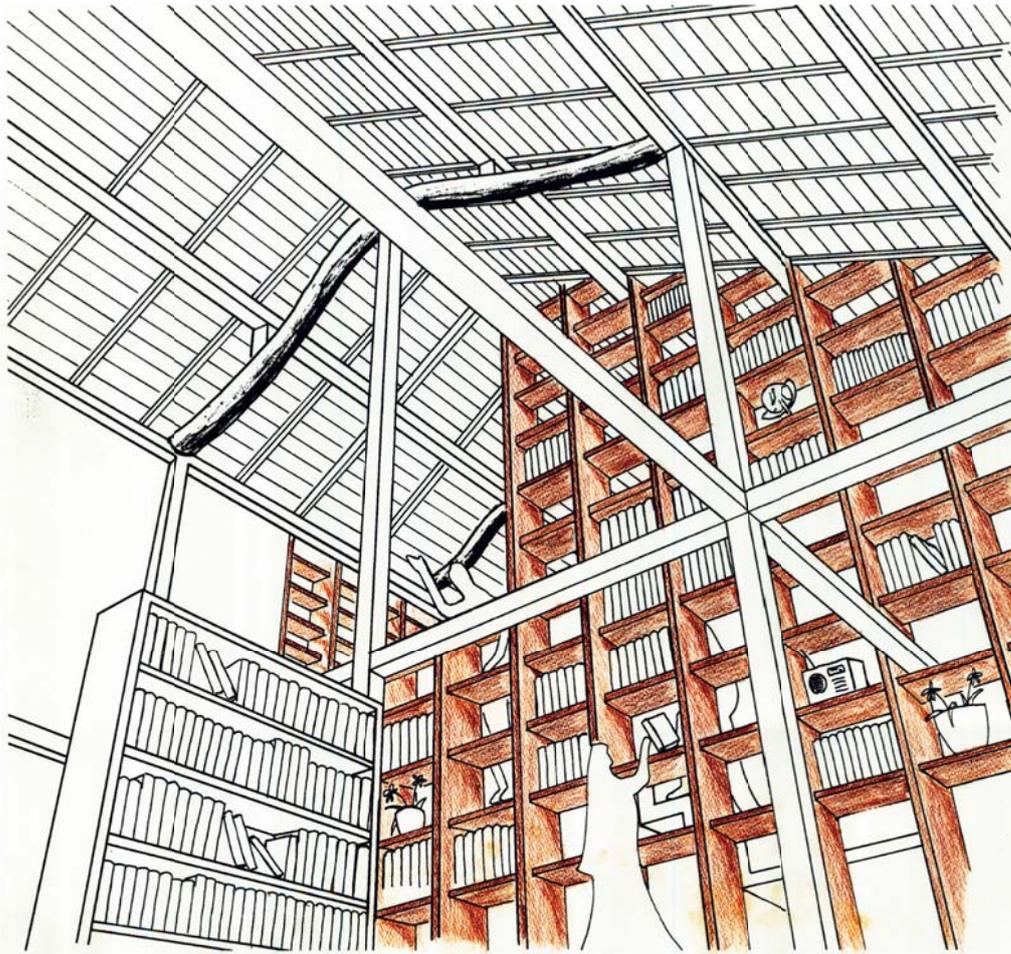
① 外観



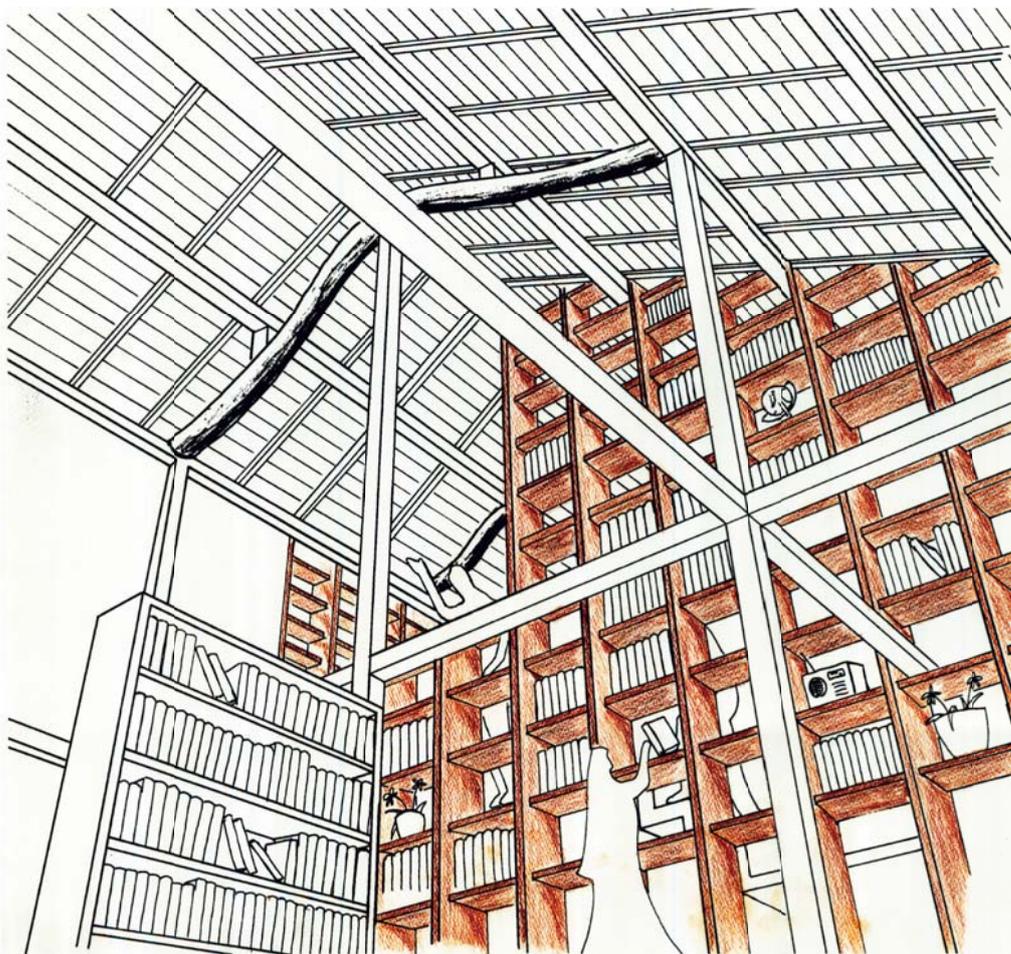
② 外観



ご静聴ありがとうございました



信州大学工学部建築学科3年  
行谷 拓哉



## コンセプト

須坂における「にぎわい」とは  
どのようなものでしょうか？

「もちより図書」という  
本の集まる場所から、人々の  
思い出の集まる場所に昇華する。

そこから生まれる小さな交流は、  
どこかなつかしく、  
暖かみのある、  
須坂らしいにぎわいなのでは  
ないだろうか。

住む人と、町行く人の  
思い出・本を集積できる  
古民家の再生を行う。

# プログラム

## 住民構成

住居を管理する老夫婦と図書を  
管理する老夫婦の4人がオーナー。

須坂の老夫婦2組 (4人)

単身の男女 6人

住民は単身の男女6人で年齢は様々。

合計 10人

住民はそれぞれが本好きや活字に  
関わる仕事をしている。



## 現状



←通り沿いの景観が非常に  
美しく、**趣がある**。

→  
大通り沿いは建物の顔になる部  
分だが、あまりその役割を果た  
していない。



## 操作



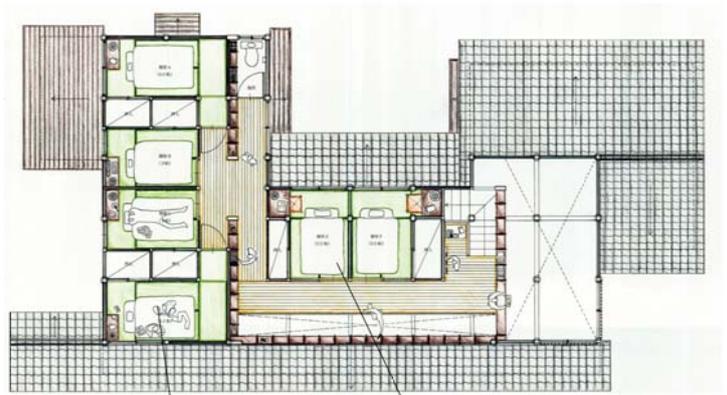
趣のある景観は残し、建物の後ろ側・正面を減築する。

## 操作



趣のある景観は残し、建物の後ろ側・正面を減築する。

後ろ側・正面に屋根を延長するように増築する。



住居管理の  
老夫婦寝室

LDK

中庭

図書管理の  
老夫婦寝室

個室 A~D

個室 E~F

一階には老夫婦 2 組が住み、二階にはその他の住民が住む。

生活の中心は一階の LDK と中庭になる。



A

B

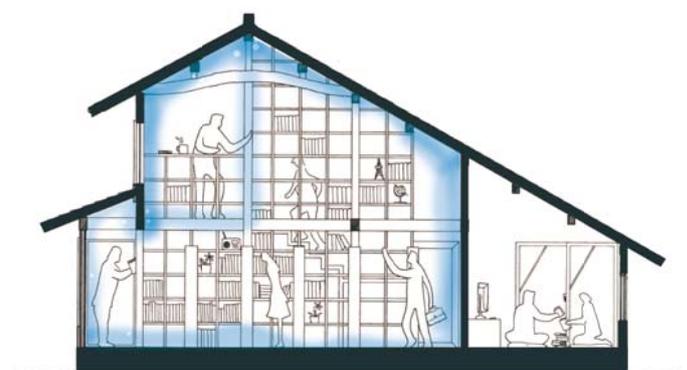
A

B

A



B



天井が低いという特徴を利用して、  
本棚・吹き抜け・中庭を介することで  
奥行きをつくり、開放感を創出する。

屋根を伸ばすように増築したこと  
で、入るほどに天井が高くなり、よ  
り解放的な空間になる。



平面再生案の説明



本棚が、既存・新築をつなぐように入り込んでいる。  
 本棚が、部屋を区切る役目を持っている。



中庭側に本棚が開いているため、中庭と一体的な空間になっている。



通り側は公共性のある「もちより図書」になっている。

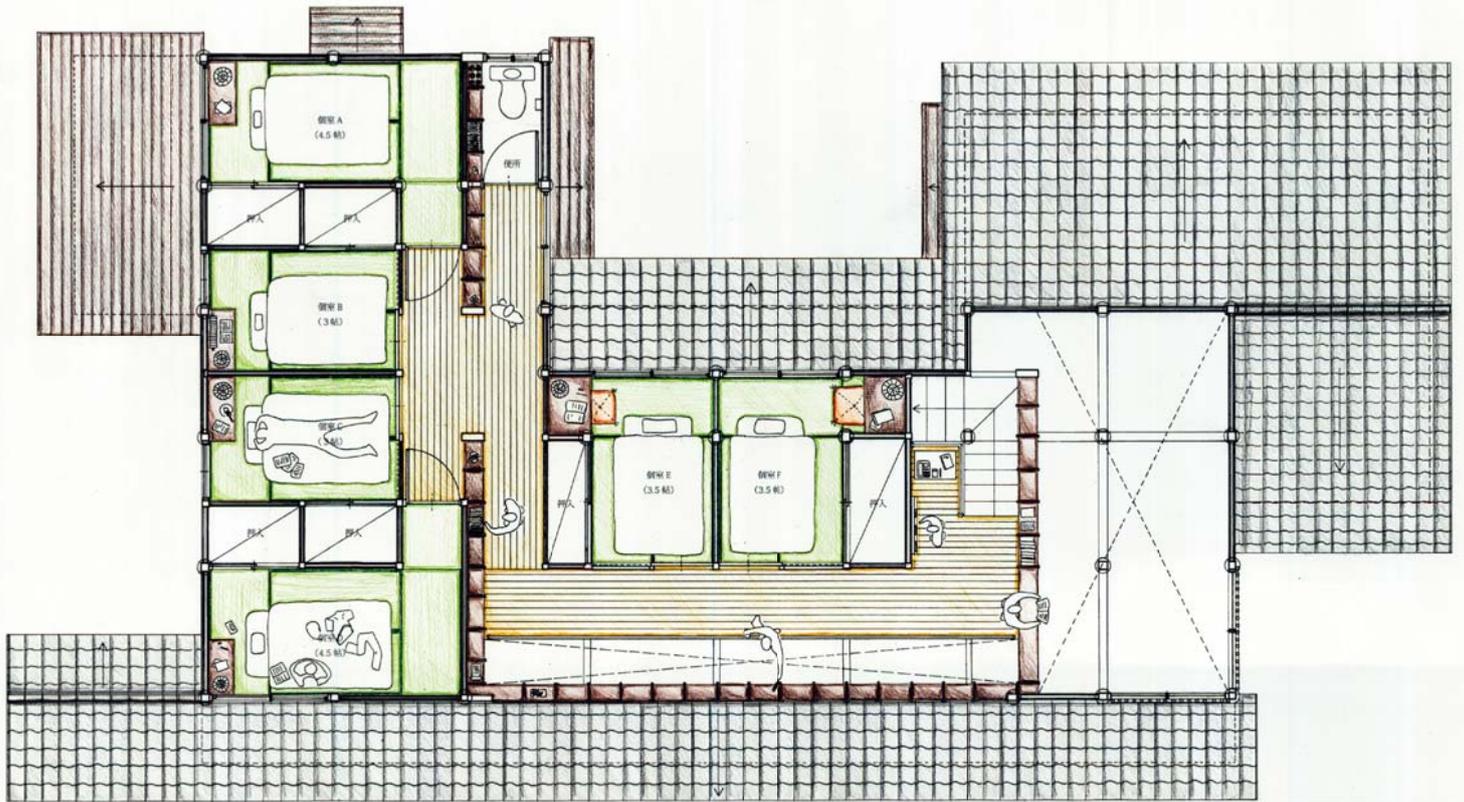
下屋の部分がギャラリーになっていて登下校の児童などの目にとまる。



既存の格子越しに、  
本棚が見えるようになる。

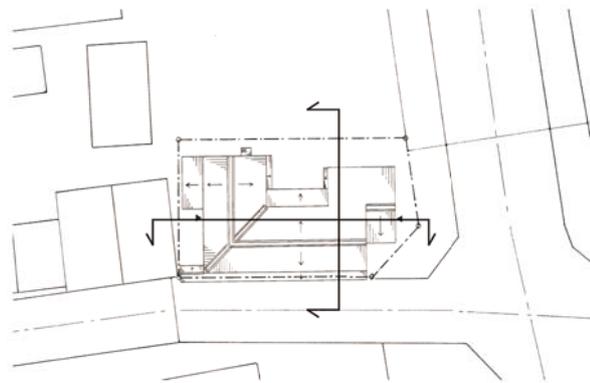
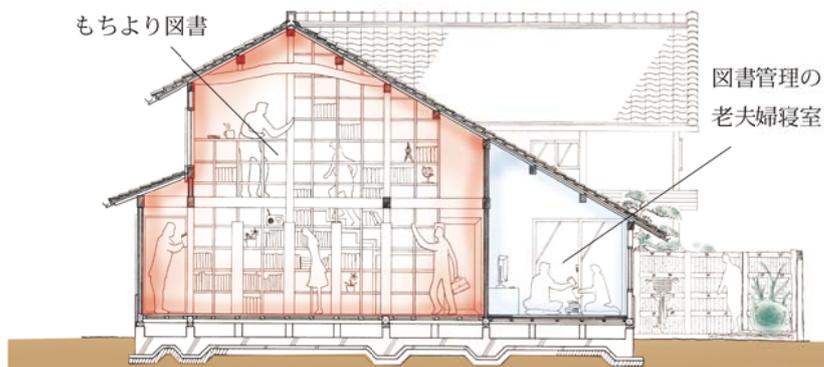


ギャラリーを歩く

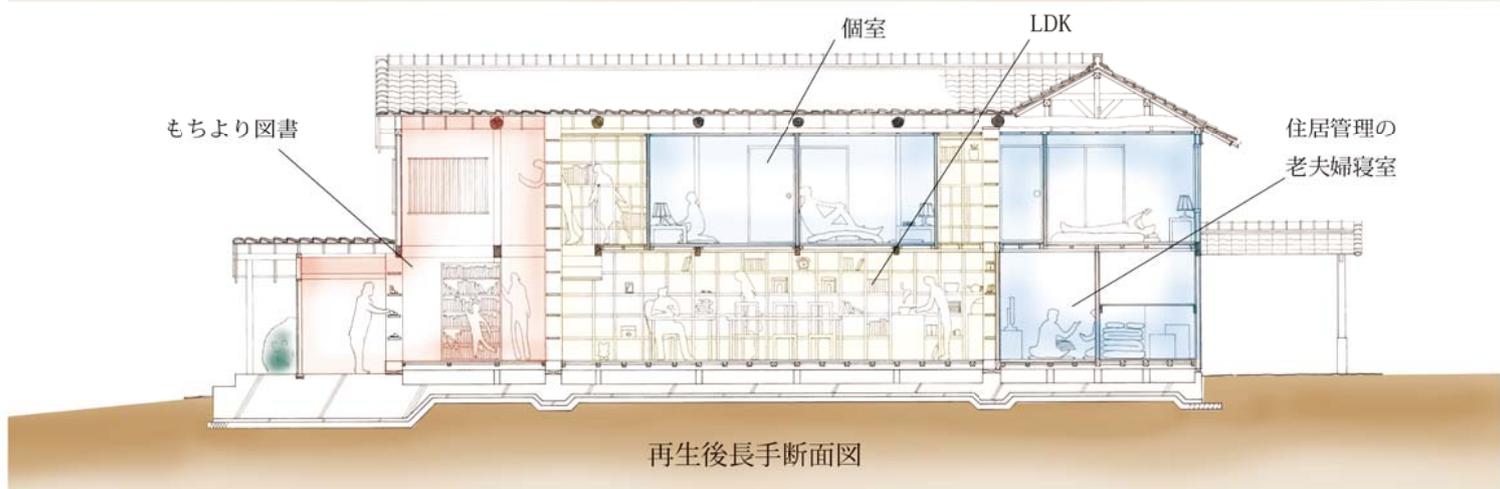


2階に住む人のスペースは最小限。  
大きな吹き抜けが1階とのつながりを強くする。

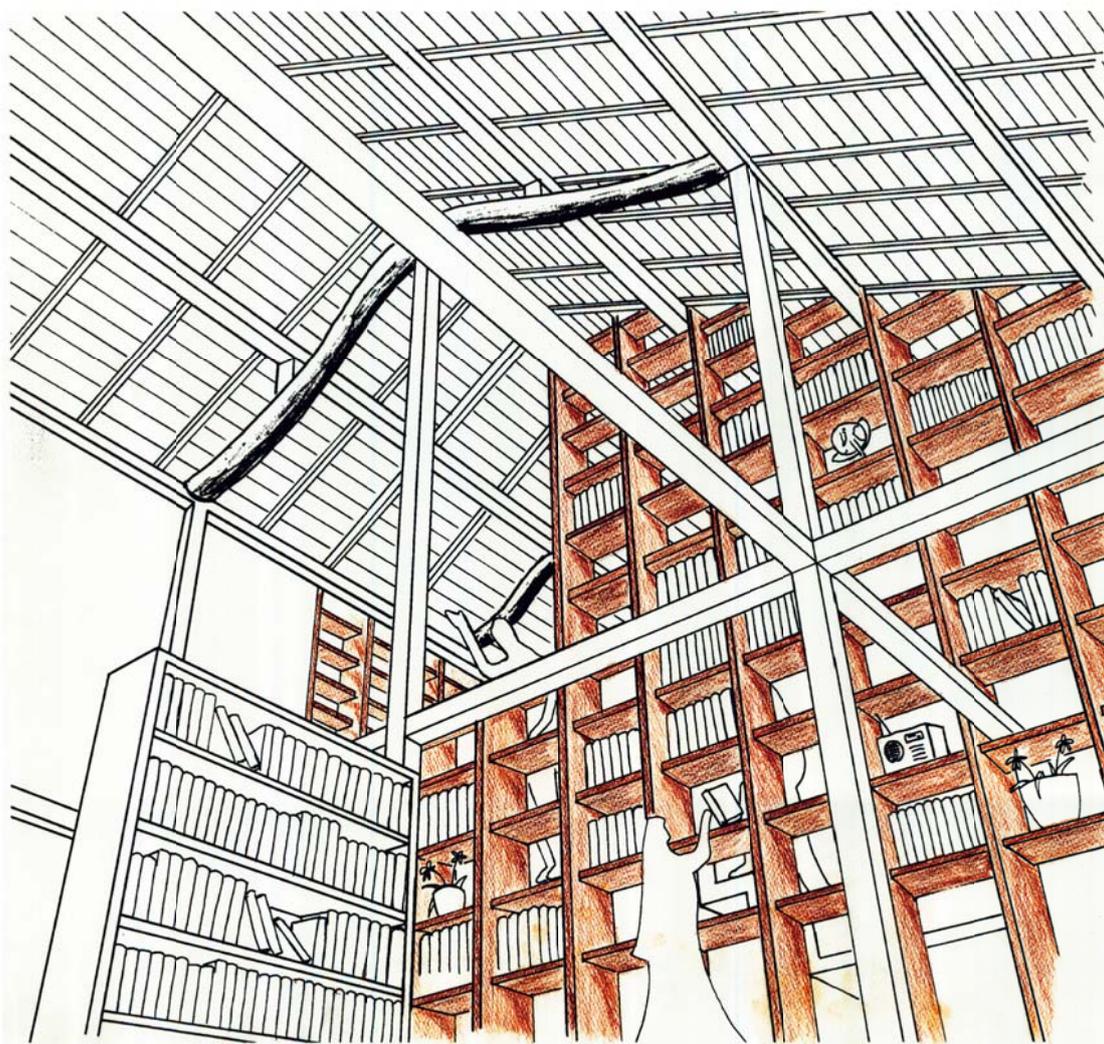
# 断面計画



再生後短手断面図



再生後長手断面図

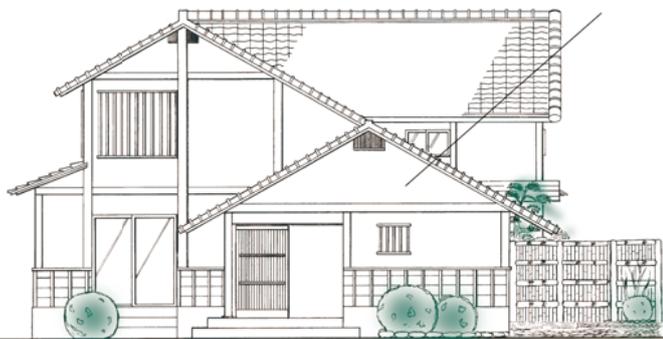


図書空間のパス。

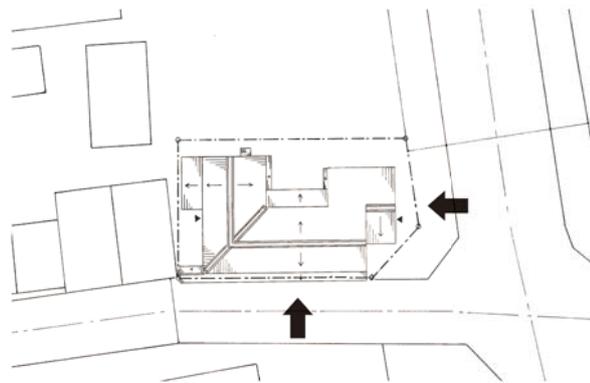
本棚の一部が抜けていて、そこから一階の人とコミュニケーションをとれたりする。

# 立面計画

特徴的な外観

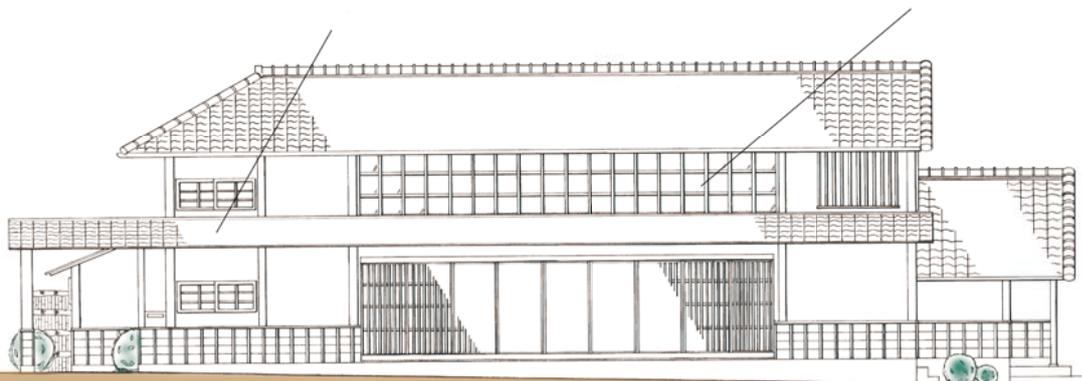


再生後北立面図



外観は趣のある現状を維持

2階の開口は本棚

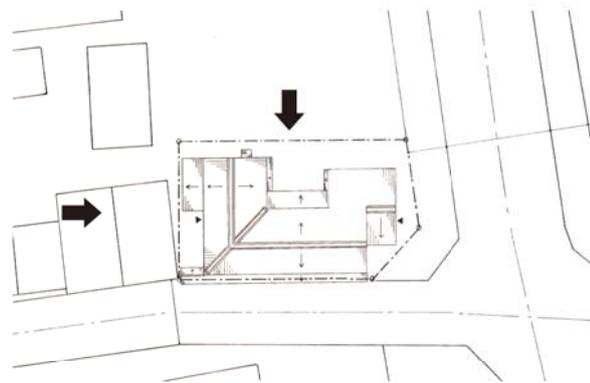


再生後東立面図

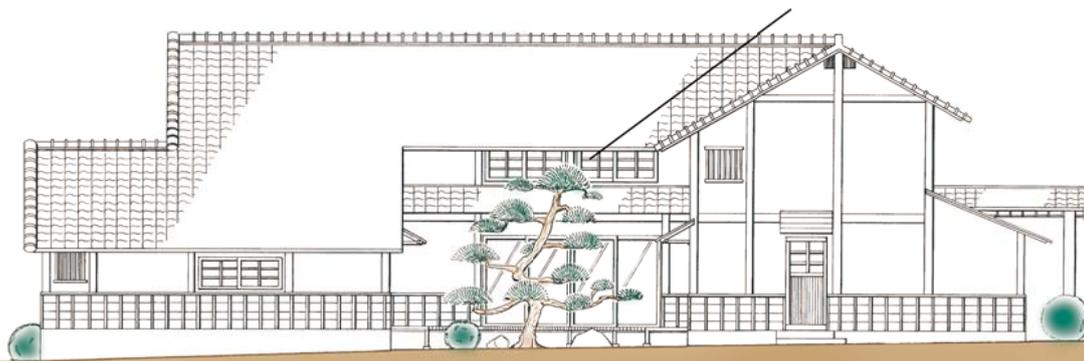
# 立面計画



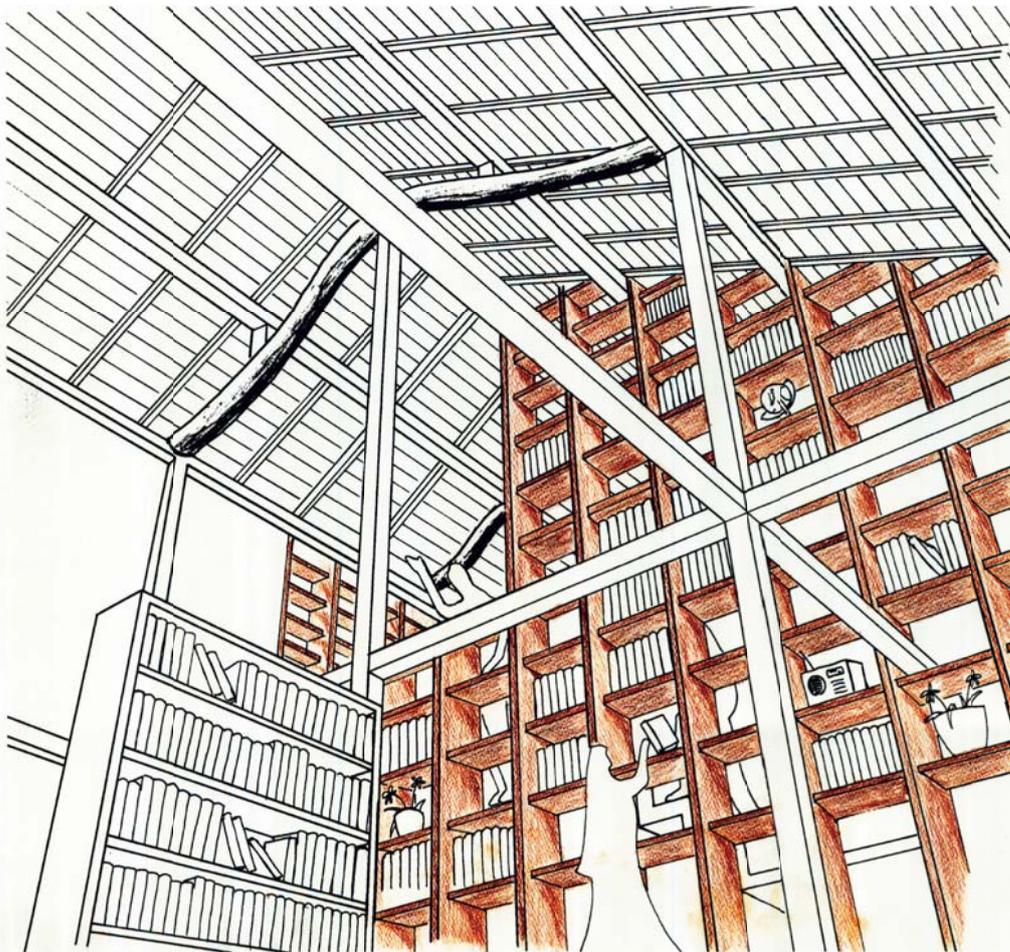
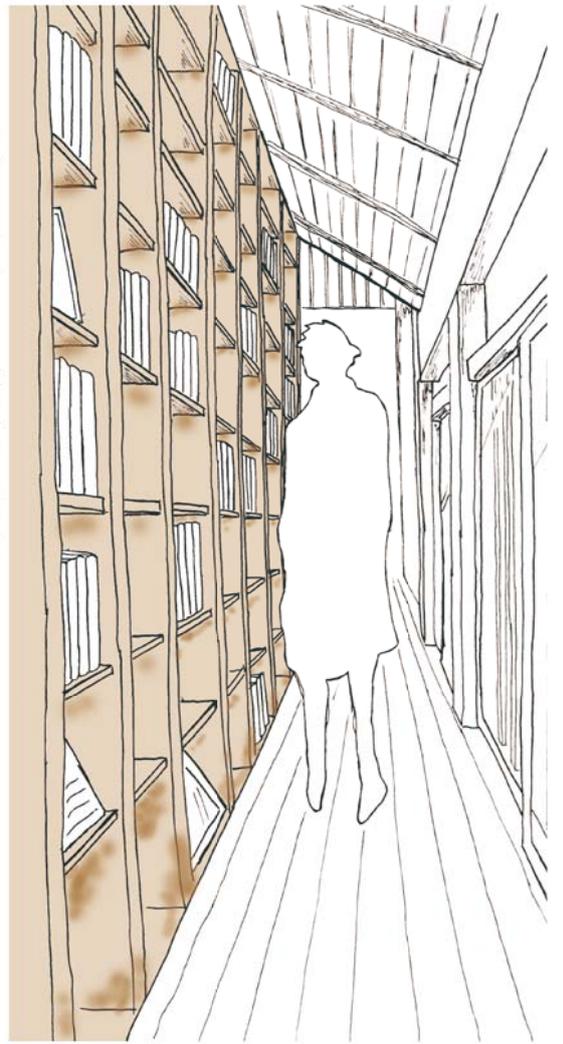
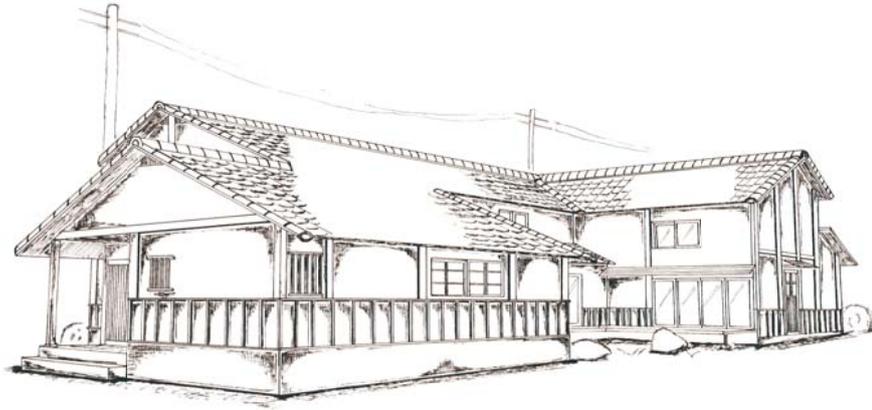
再生後南立面図



増築により出来た中庭



再生後西立面図



ご清聴ありがとうございました。

# まちなかベンチのデザイン

## 認知環境システム学演習課題



信州大学 工学部 建築学科

### 課題①

- ・ 須坂市の歴史的市街区に求められるベンチについて考える。



# 課題②

- 地域のニーズおよび敷地の特性などを配慮した上で、適切な配置を試みる。



# スケジュール

10月上旬	現地見学・調査	候補地の選定（まちづくり課） 現状把握＞周辺図作成
10月下旬	作業開始・打合せ	各班に分かれての作業 打合せは不定期に実施
11月	↓	打合せ@しらふじ 図面作成（中旬締切）＞メールにて送付＞改訂作業
12月	製作ベンチを決定	プレゼンテーション 製作作品の選定＞発注
01月	ベンチ製作開始	部材の加工・組立て…可能であれば学生参加
02月	製作終了・配置	

# 須坂のまちなかベンチ

ふれあい館まゆぐらにおけるベンチの設計

1班 及川 高橋 津雲 安室

## 須坂のまち

須坂は長野県の北部に位置する、明治から昭和初期にかけて製糸業で栄えたまち。土蔵造りや大壁造りの建物が現在でも残っており、蔵の町として伝統ある町である。歴史ある蔵の町並みを残すことに町が積極的であり、また訪れた人と町の人が交流を持てる温かい町。

周囲を北信五岳の美しい山に囲まれ、アルプスも望むことが出来る。自然と歴史が調和し温かな人と出会える魅力的な町である。



横町通り



本町通り

# 現地調査

## 現状

- ・病院に近く、関係者の人が多く利用。
- ・まゆぐらの前を通過する人は多くみられたが、ベンチで休憩をする人は調査時見なかった。  
(普段は病院関係者、地元の学生、観光客、直売所に買い物をしに来る人が利用)
- ・敷地内のベンチはそれほど目立つものではない。
- ・2人掛けのベンチが個々に配置されている。



## 実際に感じたこと

- ・須坂の歴史を感じることでできるまゆぐらの前でいっつくするのは心地よく、落ち着いた空間である。
- ・大きな整地をもっと活用したい。
- ・まちとまゆぐらへつながる空間として、人が集まり繋がれる空間に出来ないか…
- ・もし個人的に訪れた時に、先客がいたら利用しづらいのでは…？



2

# 現地調査



ベンチを計画する場所の写真（上の写真）  
2か所  
（病院側の整地、中央通り側の広い空間）

ふれあい館まゆぐら（左写真）

3

# 広域敷地図



図.1 敷地広域図



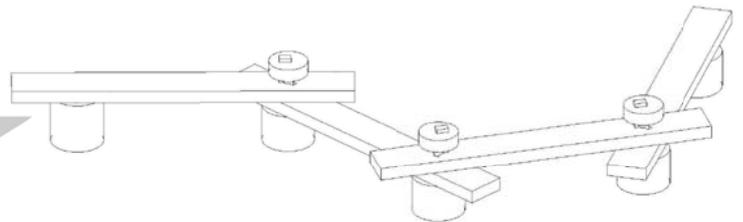
4

## ベンチ計画の概要

### Concept

まちに溶け込む可変性のあるベンチ

- ・ 1人でベンチを利用する人、2~3人で利用する人両方を考慮したあらゆるニーズに対応したベンチ
- ・ 周囲の環境、須坂のまちに溶け込むベンチ



ベンチ①完成図

### 対象とする人

- ・ 病院関係者
- ・ 須坂を訪れる観光客
- ・ 地元の人
- ・ 直売所に買い物をしに来る人

### ベンチ詳細

座面高さ：400mm、500mm  
座面：300mm  
板厚：100mm  
板材の長さ：2600mm  
使用材料：スギ  
スギの比重⇒0.38g/cm<sup>3</sup>

5

# 配置図

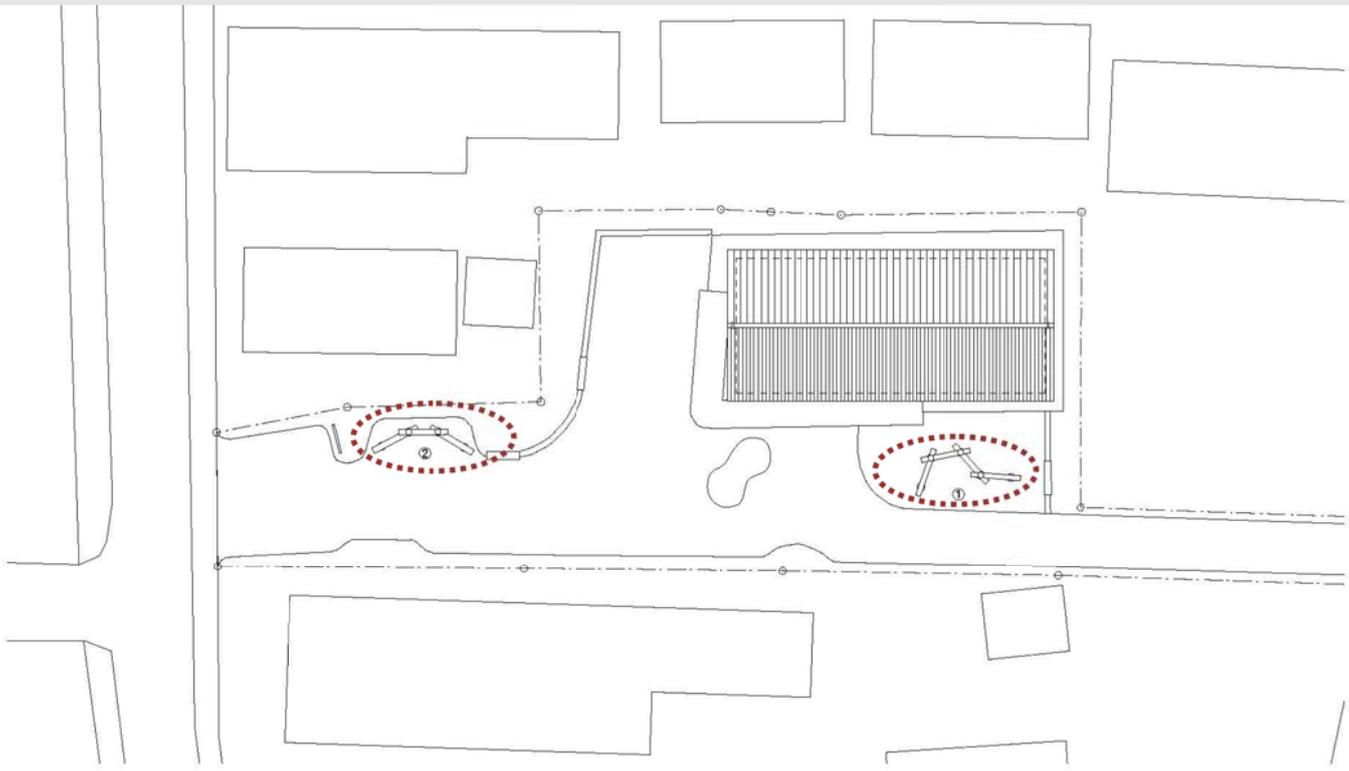


図. 2 配置図

ベンチ配置図

# ①平面図

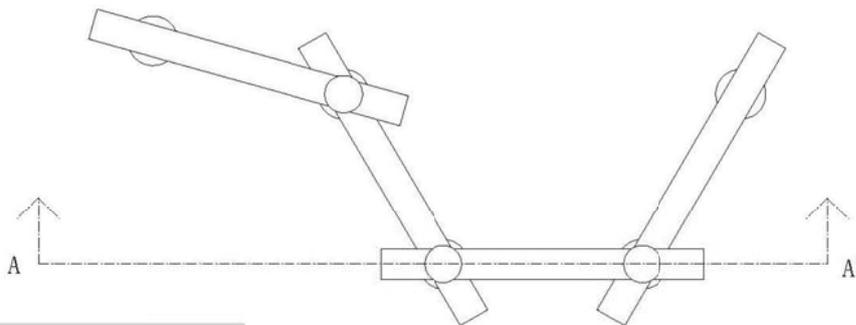
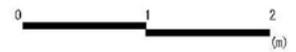


図. 3 ベンチ①平面図



ベンチ①平面図 (S=1/50)

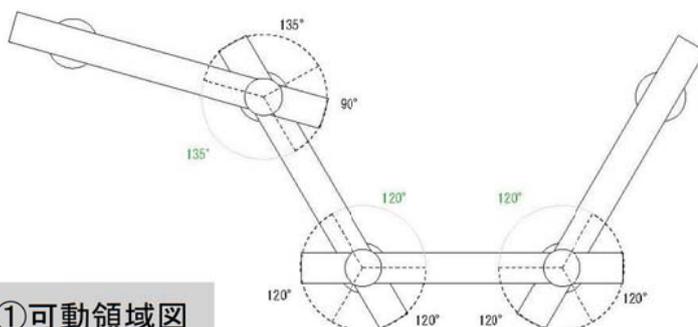


図. 4 ベンチ①可動領域図



ベンチ①可動領域図 (S=1/50)

## ②平面図

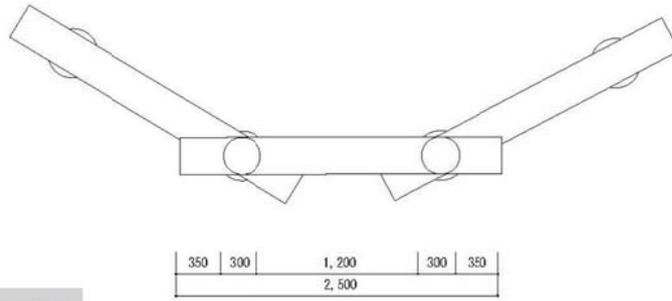


図. 5 ベンチ②平面図

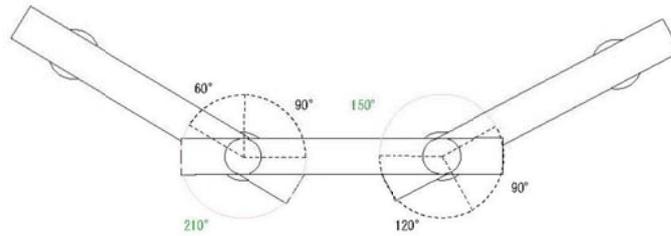
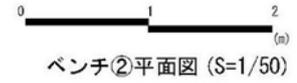
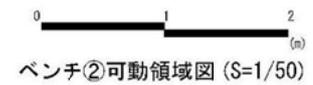


図. 6 ベンチ②可動領域図



8

## ①断面図、①組み立て図

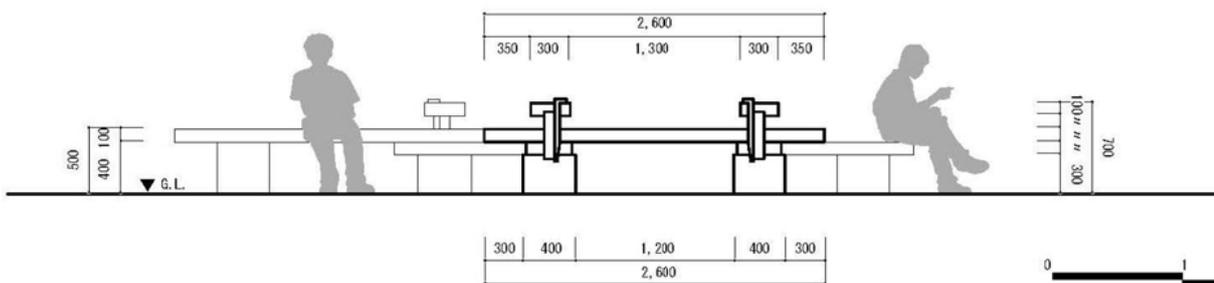


図. 7 ベンチ①断面図

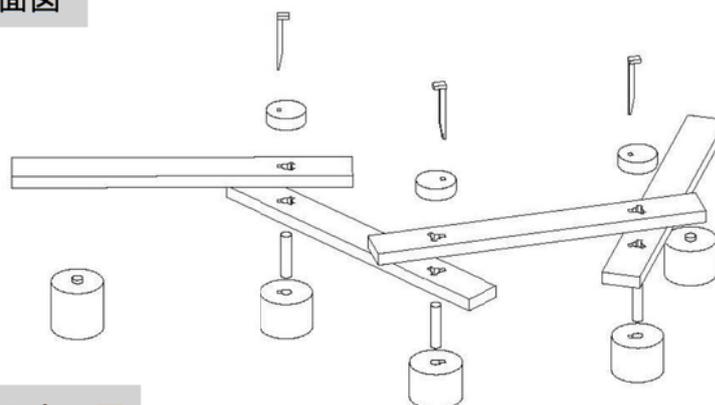
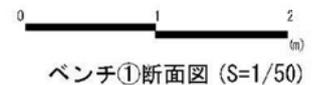
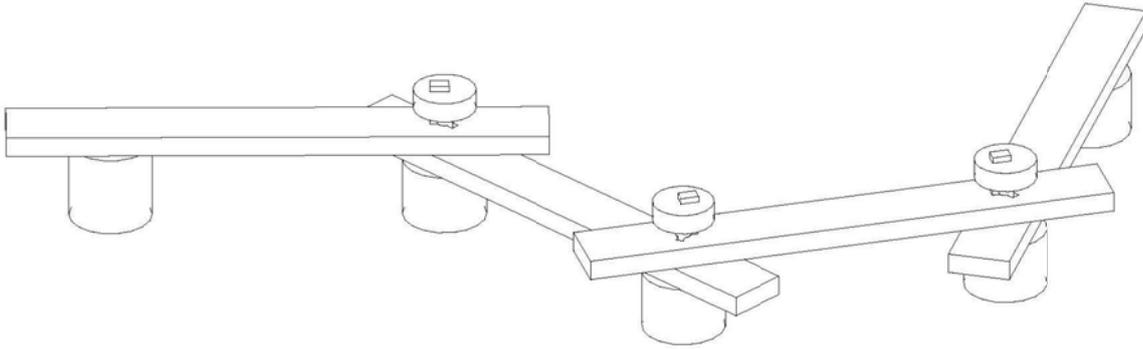


図. 8 ベンチ①組み立て図

ベンチ①組み立て図  
※部材 (A ~ J) 寸法は次頁より

9

# ベンチ完成図



ベンチ①完成図

1人の時間を過ごすのも、数人で訪れても利用しやすい居心地の良いベンチ。  
可動性のあるベンチを設計することでさまざまな空間を作り出す。  
フレキシブルな形が取れることで視線が交差することも、交わらないようにすることも可能。  
須坂のまちに溶け込む、まちの人からも須坂を訪れる人からも愛着の持てる空間づくり。